

設置の趣旨等を記載した書類 資料

目次

資料 1	筑波大学の大学院改革（構想概要）	・・・ 1
資料 2	ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力と評価の観点及び 対応する主な学修	・・・ 5
資料 3	国立大学法人筑波大学本部等職員就業規則（抜粋）	・・・ 77
資料 4	履修モデル	・・・ 79
資料 5-1	筑波大学におけるヒトを対象とする研究の倫理に関する規則	・・・ 175
資料 5-2	筑波大学動物実験取扱規程	・・・ 181
資料 5-3	筑波大学遺伝子組換え実験安全管理規程	・・・ 191
資料 6	基礎となる学部との関係	・・・ 201
資料 7	助産師養成課程の指定規則と教育課程との対比表	・・・ 203
資料 8	インターンシップ実習先一覧	・・・ 205

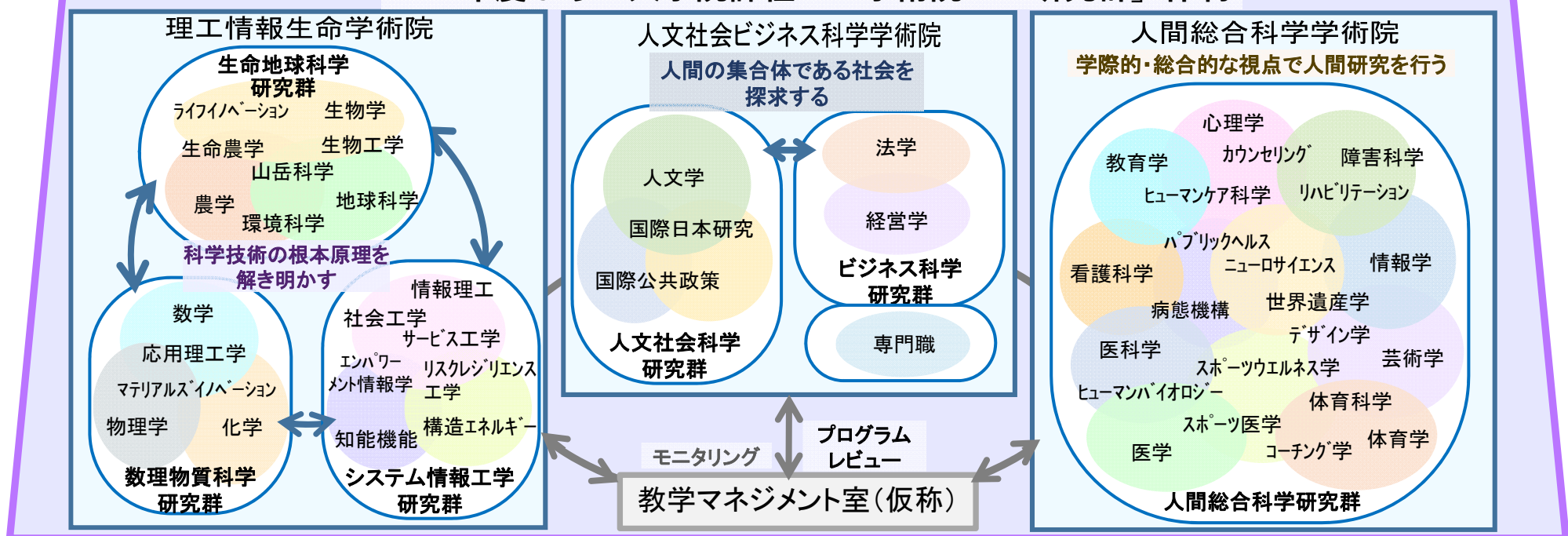
筑波大学の大学院改革 -あらゆる壁を取り払い、新たな学術領域を切り拓く研究型総合大学として進化-

グローバル化 IT革命 第4次産業革命 保健・医療 環境・気候変動 防災 ...
 ... AI化 人生100年時代 少子高齢化 Society 5.0 資源・エネルギー 食料

高度化・多様化する社会で活躍する人材の育成

急激に進歩する科学技術 急激に変化する社会 深刻化する地球規模の課題

2020年度からの大学院課程「3学術院・6研究群」体制



2019年度までの大学院課程「8研究科・85専攻」体制

人文社会科学研究科 前期 4専攻 後期 3専攻 一貫制 3専攻	ビジネス科学研究科 前期 2専攻 後期 1専攻 専門職 2専攻	数理物質科学研究科 前期 5専攻 後期 7専攻	システム情報工学研究科 前期 5専攻 後期 5専攻	生命環境科学研究科 前期4、後期9専攻 一貫制 1専攻 国際連 1専攻	人間総合科学研究科 前期11、後期13専攻 共同2、国際連 1専攻 医学課程 2専攻	図書館情報メディア研究科 前期 1専攻 後期 1専攻	教育研究科 修士 2専攻
---	---	--------------------------------------	--	---	--	---	------------------------

現専攻から学位プログラムへの移行表

人文社会科学研究科					
研究科	専攻	課程	入学定員		学位名
			M	D	
人文社会科学	哲学・思想	一貫	6		博士(文学)
	歴史・人類学	一貫	12		博士(文学)
	文芸・言語	一貫	20		博士(文学) 博士(言語学)
	現代語・現代文化	区分	10	8	修士(文学) 修士(言語学) 博士(文学) 博士(言語学)
	国際公共政策	区分	15	10	修士(国際政治経済学) 修士(政治学) 修士(社会学) 修士(国際公共政策) 博士(国際政治経済学) 博士(政治学) 博士(社会学) 博士(国際公共政策)
	国際日本研究	区分	25	19	修士(国際日本研究) 修士(社会科学) 修士(人文科学) 修士(日本語教育学) 博士(国際日本研究) 博士(社会科学) 博士(人文科学) 博士(日本語教育学)
	国際地域研究	修士	36		修士(地域研究) 修士(公共政策) 修士(経済学) 修士(国際学)

研究科(前、後)合計	86	37
研究科(5年一貫)合計	38	

ビジネス科学研究科					
研究科	専攻	課程	入学定員		学位名
			M	D	
ビジネス科学	企業法学	前期	30		修士(法学)
	経営システム科学	前期	30		修士(経営学) 修士(経営システム科学)
	企業科学	後期		23	博士(法学) 博士(経営学) 博士(システム・マネジメント)
	法曹	専門職	36		法務博士(専門職)
	国際経営プロフェッショナル	専門職	30		国際経営修士(専門職)

研究科(前、後)合計	60	23
研究科(専門職3年)	36	
研究科(専門職2年)	30	

収容定員合計		
人社+ビジネス 収容定員	536	294
	830	

人文社会ビジネス科学学術院 人文社会科学研究群						
学位プログラム/専攻	課程	サブプログラム	学位名	入学定員		学位系統
				M	D	
人文学	区分	哲学・思想 歴史・人類学 文学 言語学 現代文化学 英語教育学	修士(文学) 博士(文学)	54	42	研究学位
国際公共政策	区分		修士(国際公共政策) 博士(国際公共政策)	51	10	研究学位
国際日本研究	区分		修士(国際日本研究) 博士(国際日本研究)	34	14	研究学位

入学定員計		
人文社会(前、後)入学定員合計	139	66

ビジネス科学研究群						
学位プログラム/専攻	課程	サブプログラム	学位名	入学定員		学位系統
				M	D	
法学	区分		修士(法学) 博士(法学)	33	6	研究学位
経営学	区分		修士(経営学) 博士(経営学)	30	15	専門学位 研究学位

ビジネス(前、後)入学定員合計	63	21
-----------------	----	----

法曹専攻						
法曹	専門職		法務博士(専門職)	36		専門職学位
国際経営プロフェッショナル専攻						
国際経営プロフェッショナル	専門職		国際経営修士(専門職)	30		専門職学位

入学定員計		
専門職3年 入学定員	36	
専門職2年 入学定員	30	

M			D			収容定員合計
人文社会ビジネス科学学術院 収容定員	572	261				833

現専攻から学位プログラムへの移行表

数理物質科学研究科					
研究科	専攻	課程	入学定員		学位名
			M	D	
数理物質科学	数学	区分	27	12	修士(理学) 博士(理学)
	物理学	区分	50	20	修士(理学) 博士(理学)
	化学	区分	48	16	修士(理学) 博士(理学)
	電子・物理工学	区分	54	16	修士(工学) 博士(工学)
	物性・分子工学	区分	61	13	修士(工学) 博士(工学)
	物質・材料工学	後期3年		9	博士(工学)
	ナノサイエンス・ナノテクノロジー	後期3年		25	博士(理学) 博士(工学)
研究科 合計			240	111	

システム情報工学研究科					
研究科	専攻	課程	入学定員		学位名
			M	D	
システム情報工学	社会工学	区分	108	26	修士(社会工学) 博士(社会工学) 修士(サービス工学)
	リスク工学	区分	30	12	修士(工学) 修士(社会工学) 博士(工学) 博士(社会工学)
	コンピュータサイエンス	区分	113	28	修士(工学) 博士(工学)
	知能機能システム	区分	108	24	修士(工学) 博士(工学)
	構造エネルギー工学	区分	68	16	修士(工学) 博士(工学)
	研究科 合計			427	106

(グローバル教育院)					
G教育院	エンパワーメント情報学	一貫			博士(人間情報学)
	ライフイノベーション	区分			(学位の新設)
研究科 合計			427	106	

生命環境科学研究科					
研究科	専攻	課程	入学定員		学位名
			M	D	
生命環境科学	生物科学	区分	49	26	修士(理学) 修士(生物科学) 博士(理学) 博士(生物科学)
	生物資源科学	前期	106		修士(農学) 修士(生物資源工学) 修士(生物工学) 修士(バイオテクノロジー)
	国際地縁技術開発科学	後期		22	博士(農学) 博士(生物資源工学)
	生物圏資源科学	後期		20	博士(農学)
	先端農業技術科学	後期3年		6	博士(農学)
	生物機能科学	後期		21	博士(農学) 博士(生物工学)
	生命産業科学	後期		12	博士(生物科学) 博士(農学) 博士(生物工学)
	地球科学	前期	39		修士(理学) 修士(地球科学) 修士(地球環境科学)
	地球環境科学	後期		11	博士(理学) 博士(地球環境科学)
	地球進化科学	後期		8	博士(理学) 博士(地球科学)
	環境科学	前期	69		修士(環境科学)
	持続環境学	後期		12	博士(環境学)
	環境バイオマス共生学	一貫	21		博士(学術)
	国際連携持続環境科学	前期	6		修士(持続環境科学)
	学位P 山岳科学	前期			修士(山岳科学)

(グローバル教育院)					
G教育院	ライフイノベーション	区分			修士(食料革新学) 修士(環境制御学) 博士(食料革新学) 博士(環境制御学) (学位の新設)
	研究科 合計			269	138
研究科(5年一貫) 合計			21		

研究科(前、後) 合計	269	138	
研究科(5年一貫) 合計	21		
収容定員 合計			3,042
数理+シス+生命収容定員	1,914	1,128	3,042

理工情報生命学術院						
数理物質科学研究群						
学位プログラム/専攻	課程	サブプログラム	学位名	入学定員		学位系統
				M	D	
数学	区分		修士(理学) 博士(理学)	32	8	研究学位
物理学	区分		修士(理学) 博士(理学)	60	17	研究学位
化学	区分		修士(理学) 博士(理学)	51	15	研究学位
応用理工学	区分	電子・物理工学 物性・分子工学 NIMS連携物質・材料工学(後期のみ)	修士(工学) 博士(工学)	123		42 研究学位
国際マテリアルズイノベーション	区分		修士(工学) 博士(工学)	10	6	研究学位
				入学定員 計		
数理物質(前、後)入学定員 合計				276	88	

システム情報工学研究群						
学位プログラム/専攻	課程	サブプログラム	学位名	入学定員		学位系統
				M	D	
社会工学	区分		修士(社会工学) 博士(社会工学)	88	22	研究学位
サービス工学	前期		修士(サービス工学)	24		専門学位
リスク・レジリエンス工学	区分		修士(工学) 博士(工学)	32	13	研究学位
情報理工	区分		修士(工学) 博士(工学)	116	25	研究学位
知能機能システム	区分		修士(工学) 博士(工学)	100	16	研究学位
構造エネルギー工学	区分		修士(工学) 博士(工学)	68	16	研究学位
エンパワーメント情報学	一貫		博士(人間情報学)	8		研究学位
ライフイノベーション(生物情報)	区分		修士(生物情報学) 博士(生物情報学)	3	2	専門学位
				入学定員 計		
システム情報(前、後)入学定員 合計				431	94	
システム情報(5年一貫)入学定員 合計					8	

生命地球科学研究群						
学位プログラム/専攻	課程	サブプログラム	学位名	入学定員		学位系統
				M	D	
生物学	区分		修士(理学) 博士(理学)	55	22	研究学位
生物資源科学	前期		修士(農学)	124		研究学位
農学	後期	NARO連携先端農業技術科学	博士(農学)		34	研究学位
生命農学	後期		博士(生命農学)		15	研究学位
生命産業科学	後期		博士(生物工学)		12	研究学位
地球科学	区分		修士(理学) 博士(理学)	52	19	研究学位
環境科学	前期		修士(環境科学)	55		専門学位
環境学	後期		博士(環境学)		12	専門学位
山岳科学	前期		修士(山岳科学)	20		専門学位
ライフイノベーション(食料革新)	区分		修士(食料革新学) 博士(食料革新学)			専門学位
“(環境制御)”	区分		修士(環境制御学) 博士(環境制御学)	5	4	専門学位
“(生体分子材料)”	区分		修士(生物工学) 博士(生物工学)			専門学位
				生命地球(前、後)入学定員 合計		
国際連携持続環境科学 前期				6		専門学位
国際連携専攻 入学定員				6		

国際連携持続環境科学専攻						
国際連携持続環境科学	前期		修士(持続環境科学)	6		専門学位
国際連携専攻 入学定員				6		
				M	D	収容定員 合計
理工情報生命学術院 収容定員				2,064	924	2,988

現専攻から学位プログラムへの移行表

教育研究科					
研究科	専攻	課程	入学定員		学位名
			M	D	
教育 学位P	スクールリーダーシップ開発	修士	20		修士(教育学)
	教科教育	修士	80		修士(教育学)
	教育学(国際教育)	修士			修士(教育学)

人間総合科学研究科					
研究科	専攻	課程	入学定員		学位名
			M	D	
人間総合科学 学位P	教育学	前期	18		修士(教育学)
	教育基礎学	後期		8	博士(教育学)
	学校教育学	後期		6	博士(教育学)
	心理	前期	16		修士(心理学)
	心理学	後期		6	博士(心理学)
	障害科学	区分	45	10	修士(障害科学) 修士(特別支援教育学) 博士(障害科学)
	生涯発達	前期	46		修士(カウンセリング) 修士(リハビリテーション)
	生涯発達科学	後期		6	博士(生涯発達科学) 博士(カウンセリング科学) 博士(リハビリテーション科学)
	フロンティア医科学	修士	50		修士(医科学) 修士(公衆衛生学) 修士(ヒューマン・ケア科学)
	ヒューマン・ケア科学	後期3年		18	博士(ヒューマン・ケア科学) 博士(教育学) 博士(心理学) 博士(体育科学) 博士(公衆衛生学)
	感性認知脳科学	区分	14	10	修士(感性科学) 修士(行動科学) 修士(神経科学) 博士(感性科学) 博士(行動科学) 博士(神経科学)
	看護科学	区分	15	8	修士(看護科学) 博士(看護科学)
	スポーツ医学	後期3年		10	博士(スポーツ医学)
	体育学	前期	115		修士(体育学) 修士(コーチング学) 修士(スポーツ・オリンピック学)
	体育科学	後期		15	博士(体育科学) 博士(健康スポーツ科学)
	スポーツ健康システム・マネジメント	修士	24		修士(体育学) 修士(保健学)
	スポーツウエルネス	後期			博士(スポーツウエルネス学)
	コーチング学	後期3年		5	博士(コーチング学)
	芸術専攻	区分	60	10	修士(デザイン学) 修士(芸術学) 博士(デザイン学) 博士(芸術学)
	世界遺産	前期	15		修士(世界遺産学)
世界文化遺産学	後期		7	博士(世界遺産学)	
生命システム医学	医学4年		28	博士(医学)	
疾患制御医学	医学4年		34	博士(医学)	
スポーツ国際開発学共同	修士	5		修士(スポーツ国際開発学)	
大学体育スポーツ高度化共同	後期3年		3	博士(体育スポーツ学)	
国際連携食料健康科学	修士	9		修士(食料健康科学)	

図書館情報メディア研究科					
研究科	専攻	課程	入学定員		学位名
			M	D	
情報館	図書館情報メディア	区分	37	21	修士(図書館情報学) 修士(情報学) 博士(図書館情報学) 博士(情報学)

(グローバル教育院)					
研究科	専攻	課程	入学定員		学位名
			M	D	
G教育院	ヒューマンバイオロジー	一貫			博士(人間生物学)
	ライフイノベーション	区分			修士(病態機構学) 修士(医科学) 博士(病態機構学) 博士(医科学)

研究科(前、後)合計	555	140
研究科(医学4年)合計		62
共同、国際:3専攻の合計	14	3

収容定員 合計

人総+図情+教育収容定員	1,137	677	1,814
--------------	-------	-----	-------

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群						
学位プログラム/専攻	課程	サブプログラム	学位名	入学定員		学位系統
				M	D	
教育学	前期	国際教育	修士(教育学)	102		研究学位
		次世代学校教育創成				
		教育基盤科学				
	後期		博士(教育学)		20	
心理学	区分	心理基礎科学 心理臨床学	修士(心理学) 博士(心理学)	16		6 研究学位
障害科学	区分		修士(障害科学) 博士(障害科学)	38		10 研究学位
カウンセリング	前期		修士(カウンセリング)	23		研究学位
カウンセリング科学	後期		博士(カウンセリング科学)		4	研究学位
リハビリテーション科学	区分		修士(リハビリテーション科学) 博士(リハビリテーション科学)	23		4 研究学位
フロンティア医科学	修士		修士(医科学)	50		研究学位
公衆衛生学	修士		修士(公衆衛生学)	10		専門学位
ヒューマン・ケア科学	後期3年		博士(ヒューマン・ケア科学)		9	研究学位
パブリックヘルス	後期3年		博士(公衆衛生学)		9	研究学位
ニューロサイエンス	区分		修士(神経科学) 博士(神経科学)	10		5 研究学位
看護科学	区分		修士(看護科学) 博士(看護科学)	15	8	専門学位 研究学位
スポーツ医学	後期3年		博士(スポーツ医学)		10	研究学位
体育学	前期		修士(体育学)	120		研究学位
スポーツ・オリンピック学	前期		修士(スポーツ・オリンピック学)	8		研究学位
体育科学	後期		博士(体育科学)		15	研究学位
スポーツウエルネス学	区分		修士(スポーツウエルネス学) 博士(スポーツウエルネス学)	24	3	専門学位
コーチング学	後期3年		博士(コーチング学)		6	研究学位
芸術学	区分		修士(芸術学) 博士(芸術学)	45	7	研究学位
デザイン学	区分		修士(デザイン学) 博士(デザイン学)	18	5	研究学位
世界遺産学	区分		修士(世界遺産学) 博士(世界遺産学)	15	5	専門学位 研究学位
医学	医学4年		博士(医学)		80	研究学位
情報学	区分		修士(情報学) 博士(情報学)	54	12	研究学位
ヒューマンバイオロジ	一貫		博士(人間生物学)	8		専門学位
ライフイノベーション(病態機構)	区分		修士(病態機構学) 博士(病態機構学)		4	3 専門学位
ライフイノベーション(創薬開発)	区分		修士(医科学) 博士(医科学)			専門学位

人間総合(前、後)入学定員 合計	575	141
人間総合(医学4年)入学定員 合計		80
人間総合(5年一貫)入学定員 合計		8

スポーツ国際開発学共同専攻				
専攻	課程	学位名	入学定員	学位系統
スポーツ国際開発学共同	修士	修士(スポーツ国際開発学)	5	専門学位

大学体育スポーツ高度化共同専攻				
専攻	課程	学位名	入学定員	学位系統
大学体育スポーツ高度化共同	後期3年	博士(体育スポーツ学)		3 専門学位

国際連携食料健康科学専攻				
専攻	課程	学位名	入学定員	学位系統
国際連携食料健康科学	修士	修士(食料健康科学)	9	専門学位

共同、国際:3専攻 入学定員 合計	14	3
-------------------	----	---

人間総合科学学術院 収容定員			
	M	D	収容定員 合計
人間総合科学学術院 収容定員	1,194	776	1,970

ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力と
評価の観点及び対応する主な学修

人間総合科学学術院

【人間総合科学研究群】

■教育学学位プログラム（博士前期課程）

授与する学位の名称	修士(教育学) [Master of Education]	
人材養成目的	人間の営みと社会の発展に対して教育がもつ意義と役割を体系的に理解し、地球規模の広がりをもつ現代の教育課題を鋭敏に捉え、教育学諸分野の学術的アプローチを用いて分析する基礎的研究能力を有し、多様な教育現場において卓越した専門的知見をもって課題解決をリードすることのできる研究力のある高度専門職業人を養成する。	
養成する人材像	上記の人材養成目的を踏まえ、育成する人材が活躍することが期待される場に応じた3つのサブプログラムを設置し、それぞれのサブプログラムで下記のような人材を養成することをもって、全体として上記の人材養成目的を達成することを目指す。 ① 国際教育サブプログラム ・国内外の教育行政機関、学校、社会教育・生涯学習機関、NPO 等の教育関連組織等で教育活動や人材育成をリードする研究力のある高度専門職業人 ② 次世代学校教育創成サブプログラム ・国内外の行政機関・国際機関や学校等において教育学の学術的アプローチを用いて教育政策の効果分析、政策形成、教育開発援助等に従事し、次世代の学校教育を構想し設計する研究力のある高度専門職業人 ③ 教育基礎科学サブプログラム ・国内外の大学・研究機関等において教育学の基礎的・基盤的な諸分野の教育・研究に従事する研究者	
修了後の進路	・国内外の大学・研究機関等 ・国内外の行政機関・国際機関等 ・国内外の教育行政機関、学校、社会教育・生涯学習機関、NPO 等の教育関連組織等	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の活用力:高度な知識を社会に役立てる能力	① 研究等を通じて知を社会に役立てた(または役立てようとしている)か ② 幅広い知識に基づいて、専門分野以外でも問題を発見することができるか	Theory of International Education 次世代教育開発研究 教育学理論研究 国語科リテラシー教育論 a
2. マネジメント能力:広い視野に立ち課題に的確に対応する能力	① 大きな課題に対して計画的に対応することができるか ② 複数の視点から問題を捉え、解決する能力はあるか	Theory of International Education 次世代教育開発研究 教育学理論研究 学校経営学特講
3. コミュニケーション能力:専門知識を的確に分かりやすく伝える能力	① 研究等を円滑に実施するために必要なコミュニケーションを十分に行うことができるか ② 研究内容や専門知識について、その分野だけでなく異分野の人にも的確かつわかりやすく説明することができるか	Theory of International Education 次世代教育開発研究 教育学理論研究 教育学研究 II
4. チームワーク力:チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力	① チームとして協働し積極的に課題に取り組んだ経験はあるか ② 自分の研究以外のプロジェクト等の推進に何らかの貢献をしたか	Theory of International Education 次世代教育開発研究 教育学理論研究
5. 国際性:国際社会に貢献する意識	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する意識があるか ② 国際的な情報収集や行動に必要な語学力を有するか	Theory of International Education 次世代教育開発研究 教育学理論研究 Education and an Interconnected World
6. 教育課題発見能力:教育の本質的意義を体系的に理解した上で、グローバルな現代の教育課題を捉える力	① 先行研究を適切に踏まえた研究課題の設定ができるか ② グローバルな視野から現代の教育課題を指摘できるか	Theory of International Education 次世代教育開発研究 教育学理論研究 教育学研究 I
7. 教育内容探究能力:多種多様な教育現場における教育内容を探究する能力	① 教育行政機関や学校などの具体的な教育現場における教育内容を、適切な方法で探究できるか ② 探究した教育内容の、教育学的な価値を説明できるか	Theory of International Education 次世代教育開発研究 教育学理論研究 社会日本語論 I a

<p>8. 教育学的分析能力:教育諸分野の学術的アプローチを用いて分析する基礎的研究能力</p>	<p>① 研究課題に対して適切な研究方法の選択ができるか ② 教育学に関する倫理的側面に十分な注意を向けて研究を進められるか</p>	<p>Theory of International Education 次世代教育開発研究 教育学理論研究 教育学研究Ⅱ 教学教育研究方法論 Research Design and Methods</p>
<p>9. 教育課題解決能力:教育諸分野の学術的アプローチを用いて分析する基礎的研究能力</p>	<p>① 教育行政機関や学校などの具体的な教育現場を想定し、適切かつ卓越した専門的知識を用いて課題を解決できるか ② 集団による教育課題解決においてリーダーシップを取るために必要な専門知識を理解できるか</p>	<p>Theory of International Education 次世代教育開発研究 教育学理論研究 教育学研究Ⅰ～Ⅲ</p>

■心理学学位プログラム（博士前期課程）

授与する学位の名称	修士(心理学) [Master of Arts in Psychology]	
人材養成目的	心理学とは、人間理解の要として、心とは何かを問い、心のはたらきを明らかにする学問領域であり、そのために人間が外界からの情報を取り入れ、理解し、最終的に適切な行動を取るにいたる過程を現象的に、機能的に、また、それを支える脳の機能にまでさかのぼって明らかにすることを目的とする学問領域である。こうした心理学領域全体の知識・方法論・技能・価値観を身に着け、その上で、社会科学諸領域を初めとする隣接諸領域、学際研究として展開可能な複合領域との多様かつ密接な関係性を持ち、その上で人間研究の専門家として社会に貢献できる人材、すなわち、確固たる基礎、幅広い視野と問題意識を持つ心理学領域研究者たる人材を養成する。	
養成する人材像	心理学領域の専門的研究職として確固たる視点を獲得した上で、人間を総体として客観的に理解する能力、心の多様性と普遍性を理解する能力、人間と環境との相互作用を理解する能力を基に、人間に関する専門研究者として社会貢献する能力を持つ人材を養成する。心理学領域の専門研究者となる人材養成に加えて、心理基礎科学サブプログラムでは、心理学領域全体の広い視野を持ちつつ、習得した心理学の方法論や知識・技能によって広く社会の活動に直接的に貢献できる高度専門職業人としての人材を、また心理臨床学サブプログラムでは、総合的・多面的に心理臨床学を創造的に発展させる能力と実践的に応用するための技術を兼ね備え、豊富な臨床実習経験を生かせる高度専門職業人としての人材を養成する。	
修了後の進路	自立した研究者となるための大学院博士後期課程への進学その他、心理基礎科学サブプログラム修了後には、自治体、コンサルティング会社や教育関係民間研究所での心理学専門職、あるいは製造・流通業その他広く民間企業における人間に関わる研究をベースとする心理学専門職など、心理臨床学サブプログラム修了後には、公認心理師、臨床心理士の資格を得た上で、都道府県や市町村の公務員(心理職、一般職)、家庭裁判所(調査官補)、病院や精神科クリニック、その他、心理臨床学の実践が必要とされる職場での心理専門職、等。	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の活用力: 高度な知識を社会に役立てる能力	① 研究等を通じて知を社会に役立てた(または役立てようとしている)か ② 幅広い知識に基づいて、専門分野以外でも問題を発見することができるか	心理学特別研究、心理学方法論、修士論文作成、学会発表、インターン実習
2. マネジメント能力: 広い視野に立ち課題に的確に対応する能力	① 大きな課題に対して計画的に対応することができるか ② 複数の視点から問題を捉え、解決する能力はあるか	心理学特別研究、各領域専門科目、達成度自己点検
3. コミュニケーション能力: 専門知識を的確に分かりやすく伝える能力	① 研究等を円滑に実施するために必要なコミュニケーションを十分に行うことができるか ② 研究内容や専門知識について、その分野だけでなく異分野の人にも的確かつわかりやすく説明することができるか	心理学特別研究、各領域専門科目、心理学インターンシップ、学会発表、達成度自己点検
4. チームワーク力: チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力	① チームとして協働し積極的に課題に取り組んだ経験はあるか ② 自分の研究以外のプロジェクト等の推進に何らかの貢献をしたか	心理学特別研究、心理学インターンシップ、TA 経験
5. 国際性: 国際社会に貢献する意識	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する意識があるか ② 国際的な情報収集や行動に必要な語学力を有するか	心理学特別研究における論文指導、修士論文作成(先行研究レビュー並びに研究上の問題検討)に加え、心理学方法論1での英語論文作成に関する授業の受講、心理学先端研究、大学院共通科目(国際性養成科目群)、心理基礎科学英語の履修、国際会議発表、海外研究者との研究交流経験

6. 心理学的問題発見と人間理解力:心理学の知識と方法論に基づき、心と行動の多様性、人-環境の関わりを理解する能力	① 人の心と行動の多様性を心理学の知識・方法論から理解できる(または理解しようとしている)か ② 人と環境の関わりを心理学の知識・方法論から理解できる(または理解しようとしている)か	心理学方法論、修士論文作成、学会発表
7. 心理学的問題解決力:心理学の知識、方法論、倫理に基づき、心と行動の問題を発見・理解・解決する能力	① 人の心と行動の問題を心理学の知識・方法論に基づいて発見し、理解できる(しようとしている)か ② 人の心と行動の問題を心理学の専門性と高度な倫理観をもって問題解決できる(しようとしている)	心理学特別研究、修士論文作成、学会発表
8. 心理臨床実践力:心理学の知識・方法論と心理臨床技能に基づき、心理臨床的支援を実践できる能力	人の心と行動問題に対し、心理学の専門性と高度な倫理観をもって心理臨床的支援を実践できるか	心理実践実習、臨床実習における実践力、理解力
9. 心理学的情報発信力:高い倫理観をもって、心理学の知識・方法・成果を発信し、社会に貢献する能力	① 心理学の知識・方法論・成果を高い倫理観をもって発信することができる(またはしようとしている)か ② 心理学の知識・方法論と高い倫理観をもって社会貢献することができる(またはしようとしている)か	心理学特別研究、心理学インターンシップ、修士論文作成、学会発表、インターンシップ
10. 多領域間コミュニケーション力:心理学の専門性を発揮して、他領域・他職種の専門家と議論・協働できる能力	① 心理学の専門家として、他領域・他職種と議論・協働ができる(またはしようとしている)か ② 心理学の専門性を活かして、他領域・他職種と議論・協働ができる(またはしようとしている)か	心理学キャリア形成、心理学インターンシップ、修士論文作成、学会発表、インターンシップ

■障害科学学位プログラム（博士前期課程）

授与する学位の名称	修士(障害科学) [Master of Arts in Disability Sciences]	
人材養成目的	研究者養成の第一段階として、障害科学の科学的・実践的な研究を推進しうる研究基礎力をもった研究者、または科学的な基盤を有し、実践の場での確に能力を発揮する、国内外のリーダーとなりうる有能な特別支援教育の教員や障害者支援の高度専門職業人を養成する。	
養成する人材像	障害科学の基礎的、実践的な知識技能に基づいて、障害の本質の解明、また障害特性の解明を通して支援技術の開発・応用に携わることができる人材。	
修了後の進路	<ul style="list-style-type: none"> ・博士後期課程に進学して、高等教育機関の教員あるいは独立行政法人等における研究者 ・特別支援学校や特別支援学級・通級指導教室の高度な専門性を有する教員 ・障害のある人を対象とした療育機関や福祉施設の高度な専門性を有する職員 	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の活用力:高度な知識を社会に役立てる能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 研究等を通じて知を社会に役立てた(または役立てようとしている)か ② 幅広い知識に基づいて、専門分野以外でも問題を発見することができるか 	障害科学調査・実験実習Ⅰ・Ⅱ、障害科学研究法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、視覚障害学特講Ⅰ・Ⅱ、聴覚障害学特講Ⅰ・Ⅱ、運動障害学特講Ⅰ・Ⅱ、病弱特講Ⅰ・Ⅱ、知的・発達・行動障害学特講Ⅰ・Ⅱ、言語障害学特講Ⅰ・Ⅱ、障害福祉学特講Ⅰ・Ⅱ、障害原理論特講Ⅰ・Ⅱ、理療科教育特講Ⅰ・Ⅱ、修士論文作成など(下線部は必修科目)
2. マネジメント能力:広い視野に立ち課題に的確に対応する能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 大きな課題に対して計画的に対応することができるか ② 複数の視点から問題を捉え、解決する能力はあるか 	障害科学調査・実験実習Ⅰ・Ⅱ、障害科学研究法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、海外特別研修セミナー、修士論文デザイン・中間・最終発表など(下線部は必修科目あるいは修了要件)
3. コミュニケーション能力:専門知識を的確に分かりやすく伝える能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 研究等を円滑に実施するために必要なコミュニケーションを十分に行うことができるか ② 研究内容や専門知識について、その分野だけでなく異分野の人にも的確かつわかりやすく説明することができるか 	障害科学調査・実験実習Ⅰ・Ⅱ、障害科学研究法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、視覚障害学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、聴覚障害学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、運動障害学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、病弱演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、知的・発達・行動障害学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、言語障害学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、障害福祉学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、障害原理論演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、理療科教育演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、修士論文デザイン・中間・最終発表、相談活動など(下線部は必修科目あるいは修了要件)
4. チームワーク力:チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力	<ul style="list-style-type: none"> ① チームとして協働し積極的に課題に取り組んだ経験はあるか ② 自分の研究以外のプロジェクト等の推進に何らかの貢献をしたか 	障害科学調査・実験実習Ⅰ、特別支援学校教育実習、視覚障害学演習Ⅰ・Ⅱ、聴覚障害学演習Ⅰ・Ⅱ、運動障害学演習Ⅰ・Ⅱ、病弱演習Ⅰ・Ⅱ、知的・発達・行動障害学演習Ⅰ・Ⅱ、言語障害学演習Ⅰ・Ⅱ、障害福祉学演習Ⅰ・Ⅱ、障害原理論演習Ⅰ・Ⅱ、理療科教育演習Ⅰ・Ⅱ、TA 経験、相談活動など(下線部は必修科目)
5. 国際性:国際社会に貢献する意識	<ul style="list-style-type: none"> ① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する意識があるか ② 国際的な情報収集や行動に必要な語学力を有するか 	障害科学研究法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、海外特別研修セミナー、Special Lecture on Disability Sciences、国外での活動経験、留学生との交流など(下線部は必修科目)

<p>6. 研究計画実行力:障害科学に関する研究を計画実行する基礎的な知識・能力</p>	<p>① 障害科学に関する知識に基づき、重要な課題に対して研究計画を立案することができるか ② 立案した研究計画について発表を行い、適切に修正し、研究を実行することができるか</p>	<p><u>障害科学調査・実験実習Ⅰ・Ⅱ、障害科学研究法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、障害科学講究、視覚障害学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、聴覚障害学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、運動障害学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、病弱演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、知的・発達・行動障害学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、言語障害学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、障害福祉学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、障害原理論演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、理療科教育演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、修士論文作成、修士論文デザイン・中間・最終発表など</u>(下線部は必修科目あるいは修了要件)</p>
<p>7. 障害に関する理解力:障害科学に関する幅広い知識をもち、それを活用する能力</p>	<p>① 障害科学に関する知識や技術および現状や課題について理解し、説明することができるか ② 専門的知識に基づいた障害科学に関する研究課題を見出し、解決を図ることができるか</p>	<p><u>障害科学調査・実験実習Ⅰ、視覚障害学特講Ⅰ・Ⅱ、聴覚障害学特講Ⅰ・Ⅱ、運動障害学特講Ⅰ・Ⅱ、病弱特講Ⅰ・Ⅱ、知的・発達・行動障害学特講Ⅰ・Ⅱ、言語障害学特講Ⅰ・Ⅱ、障害福祉学特講Ⅰ・Ⅱ、障害原理論特講Ⅰ・Ⅱ、理療科教育特講Ⅰ・Ⅱ、修士論文作成、修士論文デザイン・中間・最終発表など</u>(下線部は必修科目あるいは修了要件)</p>
<p>8. 倫理に関する理解と態度:障害の理解及びそれに伴う困難の解消に向けた研究実践に必要な倫理手続きを行う能力</p>	<p>① 障害科学に関する倫理講習を受講し、終了しているか ② 障害科学に関する研究に必要な倫理観と倫理的知識を理解し、研究を実施することができるか</p>	<p><u>障害科学調査・実験実習Ⅰ・Ⅱ、障害科学研究法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、障害科学講究、視覚障害学演習Ⅲ、聴覚障害学演習Ⅲ、運動障害学演習Ⅲ、病弱演習Ⅲ、知的・発達・行動障害学演習Ⅲ、言語障害学演習Ⅲ、障害福祉学演習Ⅲ、障害原理論演習Ⅲ、理療科教育演習</u>(下線部は必修科目)</p>

■カウンセリング学位プログラム（博士前期課程）

授与する学位の名称	修士(カウンセリング) [Master of Science in Counseling]	
人材養成目的	現職社会人・心理臨床専門家に対し、心理学の一領域であるカウンセリング心理学に焦点を絞り、カウンセリングの包括的・基盤教育を行い、国際的・学際的な研究の成果と方法論を習得し、他職種と連携して職場や社会での諸問題について科学的・実践的・開発的に解決して社会に貢献する高度専門職業人や大学教員を養成する。	
養成する人材像	自らの持つ豊富な職業経験を基盤としながら、心理学領域の中のカウンセリングに関する領域に焦点を当てて学修することにより、そこに関連する総合的な学識・技法を身につけ、倫理的な配慮の下に実践や研究を立案・実施する能力を持ち、直面している問題を総合的に検討し問題解決することができる、カウンセリングの総合的な能力及び研究分析能力を自らの職業環境の中で、問題解決に活用できる人材を養成する。	
修了後の進路	本学位プログラムを修了した人材は、医療・教育・福祉・産業・司法等の領域において、カウンセリング関連の総合的な力を発揮し、支援対象者や職場等の精神的な健康に資する取り組みを行うことのできる指導的な立場として活躍する人材を養成する。また、博士後期課程へ進学し、更に研究を深め、教育や研究に携わる人材を養成する。	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の活用力: 高度な知識を社会に役立てる能力	① 研究等を通じて知を社会に役立てた(または役立てようとしている)か ② 幅広い知識に基づいて、専門分野以外でも問題を発見することができるか	カウンセリング方法論基礎Ⅰ～Ⅲ、カウンセリング研究法Ⅰ～Ⅱ、カウンセリング心理学、生涯発達臨床心理学Ⅰ～Ⅱ、心理・教育統計法、データ解析法など 修士論文作成、学会発表など
2. マネジメント能力: 広い視野に立ち課題に的確に対応する能力	① 大きな課題に対して計画的に対応することができるか ② 複数の視点から問題を捉え、解決する能力はあるか	組織心理学、キャリア心理学、心理・教育アセスメント、事例研究法、職場のメンタルヘルス、学校心理学、非行・犯罪心理学など 修士論文作成、学会発表など
3. コミュニケーション能力: 専門知識を的確に分かりやすく伝える能力	① 研究等を円滑に実施するために必要なコミュニケーションを十分に行うことができるか ② 研究内容や専門知識について、その分野だけでなく異分野の人にも的確かつわかりやすく説明することができるか	学校教育相談、ヘルピング・スキル、カウンセリング方法論、心理療法、認知行動療法、人間行動基礎論Ⅰ～Ⅳなど 修士論文作成、学会発表など
4. チームワーク力: チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力	① チームとして協働し積極的に課題に取り組んだ経験はあるか ② 自分の研究以外のプロジェクト等の推進に何らかの貢献をしたか	グループプロセス、学校教育相談、社会調査法など 修士論文作成、学会発表など
5. 国際性: 国際社会に貢献する意識	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する意識があるか ② 国際的な情報収集や行動に必要な語学力を有するか	カウンセリング方法論基礎Ⅰ～Ⅲ、カウンセリング研究法Ⅰ～Ⅱ、カウンセリング特別研究Ⅰ～Ⅲなど 修士論文作成、学会発表など
6. 研究力: カウンセリング分野における研究課題設定と研究計画を遂行するための基礎的な知識と能力	① カウンセリング分野における研究課題設定ができる ② カウンセリング分野における研究計画を遂行するための基礎的な知識と能力を修得している	カウンセリング方法論基礎Ⅰ～Ⅲ、カウンセリング研究法Ⅰ～Ⅱ、カウンセリング特別研究Ⅰ～Ⅲ、心理・教育統計法、社会調査法、データ解析法、事例研究法、学会発表など
7. 専門知識: カウンセリング分野における高度な専門知識と運用能力	① カウンセリング分野における高度な専門知識を修得している ② カウンセリング分野における高度な運用能力を修得している	生涯発達臨床心理学Ⅰ～Ⅱ、学校心理学、キャリア心理学、グループプロセス、組織心理学、職場のメンタルヘルス、非行・犯罪心理学、心理・教育アセスメント、学会発表など

<p>8. 倫理観:カウンセリング分野の基礎的研究能力を有する人材または高度専門職業人にふさわしい倫理観と倫理的知識</p>	<p>① カウンセリング分野の基礎的研究能力を有するまたは高度専門職業人にふさわしい倫理観を修得している</p> <p>② カウンセリング分野の基礎的研究能力を有するまたは高度専門職業人にふさわしい倫理的知識を修得している</p>	<p>カウンセリング心理学、カウンセリング方法論、ヘルピング・スキル、学校教育相談、心理療法、学会発表など</p>
--	---	---

■リハビリテーション科学学位プログラム（博士前期課程）

授与する学位の名称	修士(リハビリテーション科学) [Master of Science in Rehabilitation]	
人材養成目的	リハビリテーション関係の研究者、専門職業人に対して、リハビリテーションの包括的基盤教育を行うとともに、国際的・学際的な研究の成果と方法論を習得し、他職種と連携して、職場や社会での諸課題について、科学的・実践的・開発的に解決し、社会に貢献する高度専門職業人や大学教員(研究者)を養成する。	
養成する人材像	本学位プログラムにおいては、現職社会人が職場において遭遇し、かつ早急にその解決が求められている諸問題について、広い視野での対応と発展に必要な、総合的・包括的リハビリテーションに関する総合的な能力を有する人材を養成する。とくに、総合的・包括的リハビリテーション領域の中でも現場的課題の科学的解決に関わる実践的な研究能力・開発能力の高い高度専門職業人や大学教員などを養成する。	
修了後の進路	社会人大学院生を対象にすることから、現職場(医療・保健機関、福祉・相談施設、学校関係(特別支援学校や特別支援学級を含む)、リハビリテーション従事者養成機関、職業センターや障害者を雇用する企業、法律・行政機関など)において国内・国外のリハビリテーションの指導者の立場で活躍することを目的とする。さらに、修了後、博士課程に進学し、大学や専門学校等に転じて教育・研究分野で活躍することもあわせて目的とする。	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の活用力:高度な知識を社会に役立てる能力	① 研究等を通じて知を社会に役立てた(または役立てようとしている)か ② 幅広い知識に基づいて、専門分野以外でも問題を発見することができるか	リハビリテーション方法論基礎Ⅰ、修士論文作成、学会発表など
2. マネジメント能力:広い視野に立ち課題に的確に対応する能力	① 大きな課題に対して計画的に対応することができるか ② 複数の視点から問題を捉え、解決する能力はあるか	リハビリテーション概説、達成度自己点検など
3. コミュニケーション能力:専門知識を的確に分かりやすく伝える能力	① 研究等を円滑に実施するために必要なコミュニケーションを十分に行うことができるか ② 研究内容や専門知識について、その分野だけでなく異分野の人にも的確かつわかりやすく説明することができるか	リハビリテーション特別研究、学会発表など
4. チームワーク力:チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力	① チームとして協働し積極的に課題に取り組んだ経験はあるか ② 自分の研究以外のプロジェクト等の推進に何らかの貢献をしたか	リハビリテーション方法論基礎Ⅲ、特別支援教育授業論、学会での質問、セミナーやゼミでの質問など
5. 国際性:国際社会に貢献する意識	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する意識があるか ② 国際的な研究動向に関する情報収集や行動に必要な語学力を有するか	リハビリテーション方法論基礎Ⅱ、リハビリテーション英語、国外での活動経験、留学生との交流、TOEIC 得点、国際会議発表、外国人との共同研究など
6. 研究力:リハビリテーション分野における研究課題設定と研究計画を遂行するための基礎的な知識と能力	① リハビリテーションに関する適切な研究計画が立案でき、その計画を他者に適切に伝えることができるか ② リハビリテーションに関する適切な修士論文を完成させ、その成果を適切に発表することができるか	リハビリテーション方法論基礎Ⅱ、リハビリテーション方法論基礎Ⅲ、国内外の専門領域での学会発表・論文発表、修士論文作成など
7. 専門知識:リハビリテーション分野における高度な専門知識と運用能力	リハビリテーションに関する高度な専門的知識を習得し、自らも発信できる能力を得られるか	リハビリテーション特別研究、リハビリテーション事例研究、各専門的な学会が開催する研究会や研修会への参加など
8. 倫理観:リハビリテーション分野の基礎的研究能力を有する人材または高度専門職業人にふさわしい倫理観と倫理的知識	リハビリテーションに関する基礎的な研究能力、倫理観および倫理的知識を得られているか	リハビリテーション方法論基礎Ⅰなど、APRIN など関連する内容の e-learning の受講など

■フロンティア医科学学位プログラム（修士課程）

授与する学位の名称	修士(医科学) [Master of Science in Medical Sciences]	
人材養成目的	フロンティア医科学は、基礎医学、臨床医学、医学物理学、橋渡し研究、レギュラトリーサイエンスなど、幅広い領域をカバーする学際的な分野である。本プログラムでは、医科学の包括的基盤教育をベースに、社会的ニーズに対応した実践的で幅広い医科学関連領域の教育・研究を行い、研究者・大学教員あるいは高度専門職業人として安心して健康な社会の実現と維持のために活躍する人材を養成する。	
養成する人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・医科学全般の基盤的知識と専門領域の深い学識と研究能力をもって大学等の教育研究機関において医科学分野での研究の推進や新分野の開拓に貢献し得る人材 ・医科学全般の基礎的知識と社会ニーズに合わせた専門領域の知識をもって医療に関係する企業等において研究開発や医療関連業務に携わる人材 ・医科学全般の基礎的知識と専門領域の実践的な知識をもって医療機関等において医療の安全や健康増進に資することができる人材 	
修了後の進路	<ul style="list-style-type: none"> ・博士課程への進学 ・大学、研究所及び公的機関での教育及び研究職 ・製薬、食品、医療機器等を含む企業への就職 ・病院を中心とした医療施設での専門職(医学物理士、放射線治療品質管理士など) ・福祉関係の施設での専門職 ・医薬品・医療機器などの臨床開発職(プロジェクトマネージャー、モニター、CRC など) 	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の活用力: 高度な知識を社会に役立てる能力	① 研究等を通じて知を社会に役立てた(または役立てようとしている)か ② 幅広い知識に基づいて、専門分野以外でも問題を発見することができるか	医科学特別演習、医科学特講、演習科目全般、実習科目全般、インターンシップ I, II、修士論文作成、学会発表など
2. マネジメント能力: 広い視野に立ち課題に的確に対応する能力	① 大きな課題に対して計画的に対応することができるか ② 複数の視点から問題を捉え、解決する能力はあるか	基礎医科学演習、演習科目、実習科目、インターンシップ I, II、研究マネジメント基礎、達成度自己点検、外部コンテスト等への参加など
3. コミュニケーション能力: 専門知識を的確に分かりやすく伝える能力	① 研究等を円滑に実施するために必要なコミュニケーションを十分に行うことができるか ② 研究内容や専門知識について、その分野だけでなく異分野の人にも的確かつわかりやすく説明することができるか	English Discussion & Presentation I,II、医学英語 I, II、演習科目、実習科目、研究発表に関する科目、学会発表など
4. チームワーク力: チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力	① チームとして協働し積極的に課題に取り組んだ経験はあるか ② 自分の研究以外のプロジェクト等の推進に何らかの貢献をしたか	English Discussion & Presentation I,II、演習科目、実習科目、留学生セミナー、TA 経験、チームでのコンテスト参加、学会・セミナー・研修会への参加など
5. 国際性: 国際社会に貢献する意識	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する意識があるか ② 国際的な情報収集や行動に必要な語学力を有するか	国際実践医科学研究特論 I~III、大学院共通科目(国際性養成科目群)、語学力養成科目、外国語の演習科目、国際的な活動を伴う科目、留学生との交流、外部英語試験(TOEIC・TOEFL など)の得点、学会発表、外国人との共同研究など
6. 基礎知識の活用力: 基礎医学、臨床医学、社会医学にまたがる包括的な医科学の基盤的知識を活用する能力	医科学に関する知識とそれを活用する能力を身につけているか	基礎科目の講義・実習、医科学セミナー V(キャリアパス)、学会・セミナー・研修会への参加など
7. 実践的能力: 医科学に関する高度な専門知識と運用能力	医科学に関する高度な専門知識と運用能力を身につけているか	専門基礎科目の講義・実習、インターンシップ I, II、学会・セミナー・研修会への参加など

8. 研究能力:医科学に関する先端的な研究を計画し完成させる能力	① 最先端の研究手法や異分野の手法を理解し研究に応用することができるか ② 研究を完成させるために必要な情報収集、体制構築、交渉などを主体的に行うことができるか	医科学特別演習、基礎医科学演習、研究指導科目、修士論文作成、学会発表など
9. 課題解決能力:医科学分野における専門領域の深い学識を基礎として、当該分野における課題を抽出し解決する能力	医科学分野における最新の専門知識に基づいて重要課題を見出し、独創的な研究を考え出すことができるか	専門科目の講義・演習・実習、医科学特別演習、修士論文作成、学会発表など
10. 倫理観:医科学に関わる研究者・高度専門職業人にふさわしい高い意識と倫理観	① 医科学に対して高い意識と意欲があるか ② 医学関連の研究者や高度専門職業人としてふさわしい倫理観と倫理知識を備えているか	生命倫理学、Scientific Ethics、APRINの受講など

■公衆衛生学学位プログラム（修士課程）

授与する学位の名称	修士(公衆衛生学) [Master of Public Health]	
人材養成目的	疫学、生物統計学、医療政策学、環境保健学、健康行動科学の5つのコアを中心としたパブリックヘルスの専門性を高めるための知識や技能の修得を目指す。また、関連領域の授業履修も積極的に推奨し、学際性の向上も目指す。 グローバルに活躍できる人材育成のために、すべての基礎科目・必修科目を英語で開講して留学生とともに学ぶ環境を整備している。	
養成する人材像	保健医療政策立案者、保健・医薬行政実務者、疫学専門家、生物統計専門家、地域医療実務家、医療安全管理専門家、健康教育やヘルスプロモーションの専門家、その他公衆衛生の専門的技術を身に着けた実務家を育成する。	
修了後の進路	これまで働いていた保健医療機関に復職する社会人をはじめ、本学位修得後、他職種から保健医療専門家としてキャリアアップして転職する。さらに専門性を高めるために進学する。	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の活用力: 高度な知識を社会に役立てる能力	① 研究等を通じて知を社会に役立てた(または役立てようとしている)か ② 幅広い知識に基づいて、専門分野以外でも問題を発見することができるか	研究指導科目、修士論文作成、学会発表など
2. マネジメント能力: 広い視野に立ち課題に的確に対応する能力	① 大きな課題に対して計画的に対応することができるか ② 複数の視点から問題を捉え、解決する能力はあるか	研究指導科目、演習科目、達成度自己点検など
3. コミュニケーション能力: 専門知識を的確に分かりやすく伝える能力	① 研究等を円滑に実施するために必要なコミュニケーションを十分に行うことができるか ② 研究内容や専門知識について、その分野だけでなく異分野の人にも的確かつわかりやすく説明することができるか	研究指導科目、演習科目、研究発表に関する科目、学会発表、ポスター発表など
4. チームワーク力: チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力	① チームとして協働し積極的に課題に取り組んだ経験はあるか ② 自分の研究以外のプロジェクト等の推進に何らかの貢献をしたか	研究指導科目、演習科目、TA 経験、チームでのコンテスト参加、学会での質問、セミナーでの質問など
5. 国際性: 国際社会に貢献する意識	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する意識があるか ② 国際的な情報収集や行動に必要な語学力を有するか	大学院共通科目(国際性養成科目群)、語学力養成科目、外国語の演習科目、国際的な活動を伴う科目、留学生との交流、TOEIC 得点、会議発表、外国人との共同研究など
6. 公衆衛生学コア 1: 疫学応用能力 公衆衛生学コアである疫学に関する基礎知識とそれを公衆衛生活動で応用する技能	人間集団の健康問題の解決のために何かができるか、またそれを検証するための研究デザイン、研究倫理、データ収集、解釈についての方法を学修し、実践応用できる能力を習得する	疫学概論、疫学特論、修士論文作成、公開発表会、学会発表
7. 公衆衛生学コア 2: 生物統計学応用能力 公衆衛生学コアである生物統計学に関する基礎知識とそれを公衆衛生活動で応用する技能	生物統計学の基本を学修し、分析計画からデータ分析法の選択と実践・解釈までの生物統計の実践応用に関する能力を習得する	医生物統計学概論、医生物統計学特論、修士論文作成、公開発表会、学会発表
8. 公衆衛生学コア 3: 保健政策・医療管理学応用能力 公衆衛生学コアである保健政策・医療管理学に関する基礎知識とそれを公衆衛生活動で応用する技能	予防・医療・介護等の健康・医療に関する課題を政策論や経済学、医療管理学の手法を用いて分析し、政策提言につなげる能力を習得する	保健医療政策学、医療管理学、修士論文作成、公開発表会、学会発表

<p>9. 公衆衛生学コア 4:社会行動科学応用能力 公衆衛生学コアである社会行動科学に関する基礎知識とそれを公衆衛生活動で応用する技能</p>	<p>社会科学や行動科学の手法を学修し、健康生成のメカニズムに関する研究や、社会での介入活動に応用する技能を習得する</p>	<p>健康行動科学論、修士論文作成、公開発表会、学会発表</p>
<p>10. 公衆衛生学コア 5:環境保健学応用能力 公衆衛生学コアである環境保健学に関する基礎知識とそれを公衆衛生活動で応用する技能</p>	<p>環境が人の健康に及ぼす影響について学修し、国際的枠組みで環境保健対策を計画・実行する知識と技能を習得する</p>	<p>環境保健学、修士論文作成、公開発表会、学会発表</p>

■ニューロサイエンス学位プログラム（博士前期課程）

授与する学位の名称	修士(神経科学) [Master of Neuroscience]	
人材養成目的	社会の様々な現場において、神経科学の専門性を活かして活躍できる人材を養成する。また、後期課程での研究者養成教育に繋がる神経科学の広範な学術的基盤を修得した人材を養成する。	
養成する人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・正常および障害のある脳機能についての基礎知識と解析技術の学術基盤をもとに、基礎・応用研究を推進できる人材 ・神経科学分野の広範な領域の学際的見識をもとに、現代社会が抱える様々な心や行動の問題の解決に寄与できる人材 ・神経科学の学識を基盤に国内外の社会の現場での複合的問題の解決に応用する能力を持った人材 	
修了後の進路	<ul style="list-style-type: none"> ・ニューロサイエンス学位プログラム博士後期課程への進学 ・心理学、障害科学、生命科学などの隣接諸領域の学位プログラム博士後期課程への進学 ・産官の現場での一般職、専門職 ・国内・外の高等教育機関の教員や障害科学領域の専門職 	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の活用力: 高度な知識を社会に役立てる能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 研究等を通じて知を社会に役立てた(または役立てようとしている)か ② 幅広い知識に基づいて、専門分野以外でも問題を発見することができるか 	学術院共通専門基盤科目、神経科学基礎論 A・B・C・D、神経科学先端セミナー1・2、修士論文指導 1・2・3・4、学会発表、修士論文作成など
2. マネジメント能力: 広い視野に立ち課題に的確に対応する能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 大きな課題に対して計画的に対応することができるか ② 複数の視点から問題を捉え、解決する能力はあるか 	キャリアプランセミナー、神経科学実験・実習 A・B・C・D、実践的神経科学インターンシップ、学会発表、修士論文作成など
3. コミュニケーション能力: 専門知識を的確に分かりやすく伝える能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 研究等を円滑に実施するために必要なコミュニケーションを十分に行うことができるか ② 研究内容や専門知識について、その分野だけでなく異分野の人にも的確かつわかりやすく説明することができるか 	基礎科学英語 1・2、神経科学実験・実習 A・B・C・D、英語ジャーナルクラブ 1・2、実践的神経科学インターンシップ、学会発表、学会での質問、セミナーでの質問など
4. チームワーク力: チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力	<ul style="list-style-type: none"> ① チームとして協働し積極的に課題に取り組んだ経験はあるか ② 自分の研究以外のプロジェクト等の推進に何らかの貢献をしたか 	キャリアプランセミナー、神経科学実験・実習 A・B・C・D、実践的神経科学インターンシップ、TA での経験、RA での経験、学外の研究者との共同研究など
5. 国際性: 国際社会に貢献する意識	<ul style="list-style-type: none"> ① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する意識があるか ② 国際的な情報収集や行動に必要な語学力を有するか 	基礎科学英語 1・2、英語ジャーナルクラブ 1・2、神経科学先端セミナー1・2、修士論文指導 1・2・3・4、留学生との交流、TOEIC 得点、外国人との共同研究など
6. 基礎知識・専門知識: 神経科学分野での課題発見、計画立案、研究実施に必須である神経科学全般にわたっての基盤的知識の習得。	<ul style="list-style-type: none"> ① 神経科学分野の基盤的知識に基づいて新たな課題を発見することができるか ② 発見した課題を解決するための研究計画を立案することができるか 	神経科学基礎論 A・B・C・D、神経科学実験・実習 A・B・C・D、神経科学先端セミナー1・2、学会発表、修士論文作成など
7. 研究実践スキル: 研究者倫理に基づき、神経科学分野において、ヒトや動物を対象とした基礎的な研究(実験・調査)が実施できる能力。	神経科学分野における基礎的な研究手法を用いて研究課題を解決することができるか	神経科学基礎論 A・B・C・D、神経科学実験・実習 A・B・C・D、神経科学先端セミナー1・2、修士論文指導 1・2・3・4、学会発表、修士論文作成など
8. 研究情報収集・成果発信力: 神経科学分野の論文の読解、情報収集、成果発信を行うに足る、英語を含む基礎的コミュニケーション力。	<ul style="list-style-type: none"> ① 国際誌に掲載された神経科学分野の論文を読解し、最新の知見を得ることができるか ② 神経科学分野の研究内容や専門知識について、その分野だけでなく異分野の人にも的確かつわかりやすく説明することができるか 	基礎科学英語 1・2、英語ジャーナルクラブ 1・2、学会発表、学会での質問、セミナーでの質問など

9. 実践力:神経科学分野の基礎知識を活かし、実社会での問題解決に向けての活動を実践できる能力。	神経科学分野の基礎知識を活かし、実社会での問題解決に向けての活動を実践できるか	キャリアプランセミナー、実践的神経科学インターンシップ、企業との共同研究など
10. 論理的思考力:神経科学分野の基礎的研究の立案、実施、成果発信を論理的思考に基づいて行う能力。	神経科学分野の基礎的研究の立案、実施、成果発信を論理的思考に基づいて行うことができるか	神経科学先端セミナー1・2、修士論文指導 1・2・3・4、学会発表、修士論文作成など

■看護科学学位プログラム（博士前期課程）

授与する学位の名称	修士(看護科学) [Master of Science in Nursing]	
人材養成目的	少子高齢化が進むわが国では、複数の疾病や障がいを抱える患者の、長期にわたる複雑な健康問題によって医療の需要が増大かつ多様化している。本学位プログラムは、看護科学における科学的根拠に基づいてこのような課題の解決に貢献できるような、幅広く深い学識をもつ研究者等の養成の一段階であるとともに、専門看護師や助産師などの高度専門職業人を養成する。	
養成する人材像	学際的及び国際的な視点を持ち、確かな倫理観と科学的根拠に基づいて看護を探究し、研究者として研鑽する姿勢を持った人材。また、看護研究・実践の基礎になる専門知識・技術・実践能力を備えた看護職者及び看護学教育を支える看護学教育者となりうる人材。	
修了後の進路	大学における看護学教育者・看護学研究者、医療機関における専門看護師・助産師、等	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の活用力:高度な知識を社会に役立てる能力	① 研究等を通じて知を社会に役立てた(または役立てようとしている)か ② 幅広い知識に基づいて、専門分野以外でも問題を発見することができるか	看護科学論、看護学研究法、保健統計学、看護倫理学、看護科学特別研究、専門看護師や助産師養成科目の(履修生においては、その)特論や演習、病院や地域等の臨地における実践実績、修士論文作成(特定課題研究作成)、国内外学会発表
2. マネジメント能力:広い視野に立ち課題に的確に対応する能力	① 大きな課題に対して計画的に対応することができるか ② 複数の視点から問題を捉え、解決する能力はあるか	専門看護師や助産師養成科目の(履修生においては、その)特論や演習、インターンシップ、看護科学特別実習、病院や地域等の臨地における実践実績、達成度自己点検
3. コミュニケーション能力:専門知識を的確に分かりやすく伝える能力	① 研究等を円滑に実施するために必要なコミュニケーションを十分に行うことができるか ② 研究内容や専門知識について、その分野だけでなく異分野の人にも的確かつわかりやすく説明することができるか	看護学研究法、看護科学特別研究、看護コミュニケーション論あるいはコンサルテーション論、実習科目、専門看護師や助産師養成科目の(履修生においては、その)特論や演習、病院や地域等の臨地における実践実績、学会発表、ポスター発表、達成度自己点検
4. チームワーク力:チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力	① チームとして協働し積極的に課題に取り組んだ経験はあるか ② 自分の研究以外のプロジェクト等の推進に何らかの貢献をしたか	看護学研究法、看護教育論、看護コンサルテーション論、実習科目、専門看護師や助産師養成科目の(履修生においては、その)特論や演習、病院や地域等の臨地における実践実績、学会での質問、学内外セミナーでのディスカッション、達成度自己点検
5. 国際性:国際社会に貢献する意識	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する意識があるか ② 国際的な情報収集や行動に必要な語学力を有するか	大学院共通科目(国際性養成科目群)、国際看護学、国際交流セミナー参加、留学生との交流
6. 科学的根拠に基づく探究力:科学的根拠に基づいて看護を探究し、研究・実践する能力	① 科学的根拠に基づいて看護科学上の問題を探究することができるか ② 科学的根拠に基づいて実習計画や研究計画を立て、遂行することができるか	看護学研究法、看護科学特別研究、実習、臨地での実践実績、論文作成、学会発表など
7. 専門領域における実践力:看護科学の専門領域における知識と技術を習得し、教育・研究・看護実践に適用する能力	① 看護科学の基礎となる専門領域における知識を習得しているか ② 科学的根拠を教育・研究・看護実践に適用することができるか	看護科学論、専門領域の特論・演習、実習、臨地での実践実績、論文作成など
8. 看護の学際性:学際的視野に立ち看護を科学的に実践する能力	① 他の学問領域との関連性をふまえて看護科学を理解できるか ② 学際的な視野に立って科学的根拠に基づいた教育・研究・看護実践をすることができるか	看護科学論、看護科学特別研究、実習、臨地での実践実績、論文作成、学会発表など

9. 看護の感性と倫理観:豊かな感性・確かな倫理観に基づく看護科学の研究・実践能力	① 研究課題に対して、研究倫理に配慮した研究計画を立て、的確に遂行することができるか ② 倫理的感受性をもって看護を実践することができるか	看護倫理学、看護科学特別研究、実習、臨地での実践実績、論文作成など
10. 国際通用性を目指す研究力・実践力:国際的な研究成果を自らの研究・実践に活かし、看護研究・実践を志向する能力	国内外の双方の研究を活用して、研究・実践ができるか	国際看護学、看護科学特別研究、論文作成、国際交流セミナー参加、学会発表など

■ 体育学学位プログラム（博士前期課程）

授与する学位の名称	修士(体育学) [Master of Physical Education, Health and Sport Sciences]	
人材養成目的	本学位プログラムは、体育・スポーツ・健康・コーチングなどをキーワードとし、人間の身体と運動、その文化や環境、さらに心身の調整に関わる諸問題に対して学際的に取り組み、世界に類を見ない規模を誇る専門分野・領域を有する教育研究機関を基盤に展開され、自立・自律して研究活動を行うに必要な能力及びその基盤となる豊かな学識を培うことで、グローバル時代のトップランナーたる高度職業人を、また諸科学の深化を志向する研究者としての基礎を身につけた人材を養成する。加えて、各競技種目で国を牽引する監督・コーチなどの指導的役割に付くことが期待される人材、および大学等の教育機関においてコーチ教育を先導していく人材を養成する。	
養成する人材像	運動文化とグローバル社会、健康増進と活力向上、身体運動のメカニズムと競技力向上など、体育・スポーツ・健康にかかわる本質論を踏まえて展開する体育学を体系的に理解し、幅広い視野と専門的な知識・技能を持って現場で生起する諸問題を解決できる高度な実践力を有する専門職業人、創造的で高度な研究能力を有する研究者としての基礎を身につけた枢要な人材、加えて、各競技種目で国を牽引する監督・コーチなどの指導的役割に付くことが期待される人材、及び大学等の教育機関において国のコーチ教育を先導していく人材。	
修了後の進路	博士後期課程進学、教員(大学、高校、中学校)、公務員(国、地方)、健康関連企業(総合職、専門職)、スポーツ関連企業(総合職、専門職)、報道・出版・メディア関連企業(スポーツジャーナリスト)、プロ選手、プロコーチ、トレーナー、競技団体職員など。	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の活用力: 高度な知識を社会に役立てる能力	① 研究等を通じて知を社会に役立てた(または役立てようとしている)か ② 幅広い知識に基づいて、専門分野以外でも問題を発見することができるか	各研究方法論、各領域別演習 I・II、体育・スポーツ哲学、体育科学習指導論、トレーニング学、スポーツバイオメカニクス特講、体力学特講、健康・スポーツ科学のための統計学、中間報告会、修士論文作成、修論審査など (説明) 体育・スポーツ哲学、体育科学習指導論、トレーニング学、スポーツバイオメカニクス特講、体力学特講は、全体での必修科目ではないが、各履修モデル(系列科目)で最も履修者が多い科目であり、全体でも各学年で100名(80%)を超える履修者がいる科目を例として上げた。
2. マネジメント能力: 広い視野に立ち課題に的確に対応する能力	① 大きな課題に対して計画的に対応することができるか ② 複数の視点から問題を捉え、解決する能力はあるか	各種インターンシップ科目、スポーツリスクマネジメント論、競技マネジメント論、学校体育経営論、以下の内容から選択(学会発表、TA 経験、課外活動等コーチ経験、地域スポーツ教室等指導経験)など (説明) 「以下の内容から選択」は、職業人としての実務能力を育むために適切な修学内容を含んでおり、体育学学位プログラムでは、ほぼ全員の学生が2つ以上は実施している。
3. コミュニケーション能力: 専門知識を的確に分かりやすく伝える能力	① 研究等を円滑に実施するために必要なコミュニケーションを十分に行うことができるか ② 研究内容や専門知識について、その分野だけでなく異分野の人にも的確かつわかりやすく説明することができるか	各種インターンシップ科目、種目別コーチング総合演習、各領域別演習 I・II、中間報告会、修論審査、以下の内容から選択(学会発表、TA 経験、課外活動等コーチ経験、地域スポーツ教室等指導経験、つくばサマーインスティトゥート)など (説明) 「以下の内容から選択」は、体育学学位プログラムでは、ほぼ全員の学生が2つ以上は実施している。

4. チームワーク力:チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力	① チームとして協働し積極的に課題に取り組んだ経験はあるか ② 自分の研究以外のプロジェクト等の推進に何らかの貢献をしたか	各種インターンシップ科目、種目別コーチング総合演習、各領域別演習 I・II、中間報告会、修論審査、以下の内容から選択(学会発表、TA 経験、課外活動等コーチ経験、地域スポーツ教室等指導経験、つくばサマーインスティテュート)など (説明) 「以下の内容から選択」は、体育学学位プログラムでは、ほぼ全員の学生が2つ以上は実施している。
5. 国際性:国際社会に貢献する意識	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する意識があるか ② 国際的な情報収集や行動に必要な語学力を有するか	つくばサマーインスティテュート、オリンピック・パラリンピック史、国際スポーツ政策研究など (説明) 上記の科目は、研究基礎科目に位置づけた英語で授業を行う科目で、必修ではないが本学位プログラムとして履修を推奨する科目である。
6. 研究力:体育・スポーツ・健康・コーチング分野における研究課題設定と研究計画を遂行するための基礎的な知識と技能	① 研究課題を設定するための基礎的な知識を身につけたか ② 研究計画を遂行するための基礎的な技能を身につけたか	各研究方法論、各領域別演習 I・II、健康・スポーツ科学のための統計学、中間報告会、修士論文作成、修論審査、学会発表など
7. 専門知識:体育・スポーツ・健康・コーチング分野における高度な専門知識	① 体育・スポーツ・健康・コーチングに関する基礎的および専門的な知識を身に付けたか	体育・スポーツ哲学、スポーツ社会学、体育科学学習指導論、アダプテッド・スポーツ教育論、トレーニング学、コーチング論、スポーツバイオメカニクス特講、スポーツ栄養学特講、体力学特講、体育測定評価学特講など (説明) 上記の科目は、各履修モデル(系列科目)内で、ほぼ全員が履修する例として上げた。
8. 実践力:体育・スポーツ・健康・コーチング分野における専門知識の実践的な運用能力	① 体育・スポーツ・健康・コーチングに関する専門知識を教育現場やコーチング現場において実践的に運用できるか	各種インターンシップ科目、種目別コーチング総合演習、各領域別演習 I・II、以下の内容から選択(学会発表、TA 経験、課外活動等コーチ経験、地域スポーツ教室等指導経験、つくばサマーインスティテュート)など (説明) 「以下の内容から選択」は、体育学学位プログラムでは、ほぼ全員の学生が2つ以上は実施している。
9. 倫理観:体育・スポーツ・健康・コーチング分野の基礎的研究能力を有する人材または高度専門職業人にふさわしい倫理的知識と倫理観	① 基礎的研究能力を有する人材にふさわしい倫理的知識を持っているか。 ② 高度専門職業人にふさわしい倫理観を持っているか	各研究方法論、各領域別演習 I・II、ヘルスフィットネス橋渡し研究概論、アンチ・ドーピングなど

■スポーツ・オリンピック学学位プログラム（博士前期課程）

授与する学位の名称	修士(スポーツ・オリンピック学) [Master of Arts in Sport and Olympic Studies]	
人材養成目的	これからの国際的スポーツ分野において必要とされる、高いマネジメント能力とスポーツのインテグリティ(高潔さ)を追究することができる人材養成を目的とする。国際オリンピック委員会、また国際競技連盟とも連携して今後求められるスポーツ人材の養成に当たる。	
養成する人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・21世紀のスポーツ界で必要とされる先端的な知識を総合的に学び、高いマネジメント能力を活かして、社会におけるスポーツの価値を創造し、世界各地でリーダーシップを発揮できる人材 ・IOC、IPC、JOC、JPC、JSC、JADAなどと連携し、スポーツのインテグリティを踏まえたオリンピック・パラリンピック教育と最先端のスポーツ科学を学び、それぞれの現場に応用できるマネジメント力を習得した人材 	
修了後の進路	各国スポーツ庁、各国オリンピック委員会・パラリンピック委員会、IOCやIPC、国際競技連盟などのスポーツ組織や大会組織委員会、グローバルスポーツ関連企業など	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の活用力: 高度な知識を社会に役立てる能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 研究等を通じて知を社会に役立てた(または役立てようとしている)か ② 幅広い知識に基づいて、専門分野以外でも問題を発見することができるか 	研究指導科目、インターンシップ科目、特定課題研究報告書作成、学会発表など
2. マネジメント能力: 広い視野に立ち課題に的確に対応する能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 大きな課題に対して計画的に対応することができるか ② 複数の視点から問題を捉え、解決する能力はあるか 	研究指導科目、演習科目、インターンシップ科目、学会発表など
3. コミュニケーション能力: 専門知識を的確に分かりやすく伝える能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 研究等を円滑に実施するために必要なコミュニケーションを十分に行うことができるか ② 研究内容や専門知識について、その分野だけでなく異分野の人にも的確かつわかりやすく説明することができるか 	研究指導科目、演習科目、インターンシップ科目、学会発表など
4. チームワーク力: チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力	<ul style="list-style-type: none"> ① チームとして協働し積極的に課題に取り組んだ経験はあるか ② 自分の研究以外のプロジェクト等の推進に何らかの貢献をしたか 	研究指導科目、演習科目、学会での質問、セミナーでの質問など
5. 国際性: 国際社会に貢献する意識	<ul style="list-style-type: none"> ① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する意識があるか ② 国際的な情報収集や行動に必要な語学力を有するか 	研究指導科目、演習科目、インターンシップ科目、国外での活動経験など
6. オリンピック・パラリンピック学の理解: オリンピックやパラリンピックの価値とその社会的役割について理解する能力	<ul style="list-style-type: none"> ① オリンピックやパラリンピックの歴史とそれらの価値についての理解力 ② それらの社会的役割について展開できる能力 	Olympic Movement Studies、Olympic and Paralympic History、修士論文作成(特定課題研究報告書作成)
7. 体育・スポーツ・健康に関する専門的理解: 体育・スポーツ・健康の学問におけるオリンピック学の課題や今後の活かし方を展望する能力	スポーツ諸科学におけるスポーツ・オリンピック学の位置付けについて俯瞰できる能力	Anti-Doping、Exercise Physiology and Human Performance、修士論文作成(特定課題研究報告書作成)
8. 日本文化理解力: 武道・日本文化に対する理解力と英語を基礎にしたコミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 武道やマナーなど日本文化を理解し、それを各地に展開できる能力 ② 英語を通して武道や日本文化を伝える事ができる能力 	Budo、Japanese Culture、Cross-Cultural Communication
9. スポーツ・オリンピック学の展開力: グローバルな俯瞰力と地域社会で生活する人々へのまなざしをもつグローバルなマネジメント力	各国におけるオリンピック教育やスポーツイベントをマネジメントする能力	Internship、International Sport Event Management、Elite Sport Coaching

■スポーツウエルネス学学位プログラム（博士前期課程）

授与する学位の名称	修士(スポーツウエルネス学) [Master of Sport and Wellness Promotion]	
人材養成目的	スポーツウエルネスの推進に携わってきた実務経験を基盤として、両者の相乗的な推進効果を生み出す理念と方法を理解し、そのための基本政策や戦略を企画・立案・分析する能力、必要な資源を査定しシステム化する能力、高度なシステムを適切にマネジメントする能力、合理的なプログラムを開発する能力等を有した実践的な高度専門職業人を養成する。	
養成する人材像	スポーツ団体、行政、企業等の専門家集団の中でリーダーシップを発揮しスポーツウエルネスの一層の発展に寄与する人材	
修了後の進路	競技団体、国立センター、地方自治体、教員、スポーツウエルネス関連企業、博士後期課程への進学等	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の活用力: 高度な知識を社会に役立てる能力	① 研究等を通じて知を社会に役立てた(または役立てようとしている)か ② 幅広い知識に基づいて、専門分野以外でも問題を発見することができるか	スポーツ・ヘルスプロモーション論概論、スポーツ・ヘルスプロモーション方法論、スポーツ健康研究方法論Ⅰ、スポーツプロモーション論特講、スポーツイベント論特講、スポーツプロモーション研究方法論Ⅳ、スポーツプロモーション研究方法論Ⅴ、修士論文作成(特定課題研究報告書作成)、学会発表など
2. マネジメント能力: 広い視野に立ち課題に的確に対応する能力	① 大きな課題に対して計画的に対応することができるか ② 複数の視点から問題を捉え、解決する能力はあるか	スポーツプロモーション論特講、スポーツプロモーション論演習Ⅰ、スポーツプロモーション論演習Ⅱ、スポーツイベント論特講、達成度自己点検、外部コンテスト等への参加など
3. コミュニケーション能力: 専門知識を的確に分かりやすく伝える能力	① 研究等を円滑に実施するために必要なコミュニケーションを十分に行うことができるか ② 研究内容や専門知識について、その分野だけでなく異分野の人にも的確かつわかりやすく説明することができるか	スポーツ健康研究方法論Ⅱ、スポーツ健康研究方法論Ⅲ、スポーツプロモーション論演習Ⅰ、スポーツプロモーション論演習Ⅱ、スポーツプロモーション論実習、学会発表など
4. チームワーク力: チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力	① チームとして協働し積極的に課題に取り組んだ経験はあるか ② 自分の研究以外のプロジェクト等の推進に何らかの貢献をしたか	スポーツ・ヘルスプロモーション方法論、スポーツプロモーション論演習Ⅰ、スポーツプロモーション論演習Ⅱ、スポーツプロモーション論実習、学会での質問、セミナーでの質問など
5. 国際性: 国際社会に貢献する意識	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する意識があるか ② 国際的な情報収集や行動に必要な語学力を有するか	スポーツプロモーション論特講、スポーツイベント論特講、スポーツマネジメント論特講、高度競技マネジメント論特講、ヘルスプロモーション論特講、健康開発プログラム論特講、ストレスマネジメントシステム論特講、国外での活動経験、留学生との交流など
6. 研究力: スポーツウエルネス分野における研究課題設定と研究計画を遂行するための基礎的な知識と能力	① スポーツウエルネス分野に関する適切な研究計画を立案、作成ができるか ② スポーツウエルネス分野に関する適切な修士論文を完成させ、発表することができるか	スポーツ健康研究方法論Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ、スポーツプロモーション論特講、スポーツプロモーション論演習Ⅰ,Ⅱ、学会発表、修士論文作成など
7. 専門知識: スポーツウエルネス分野における高度な専門知識と運用能力	スポーツウエルネス分野における高度な専門知識を修得し運用できるか	スポーツ・ヘルスプロモーション論概論、スポーツ・ヘルスプロモーション方法論、スポーツプロモーション論特講、スポーツプロモーション論演習Ⅰ,Ⅱ、関連領域の学会や研修会への参加など
8. 倫理観: スポーツウエルネス分野の基礎的研究能力を有する人材または高度専門職業人にふさわしい倫理観と倫理的知識	スポーツウエルネス分野の基礎的研究能力、倫理観、倫理的知識を修得しているか	スポーツ・ヘルスプロモーション論概論、スポーツ・ヘルスプロモーション方法論、スポーツプロモーション論特講、スポーツプロモーション論演習Ⅰ,Ⅱ、倫理講習会受講、APRIN など倫理関連の e-learning 受講など

■芸術学学位プログラム（博士前期課程）

授与する学位の名称	修士(芸術学) [Master of Science in Art]	
人材養成目的	幅広い視野で造形芸術に関わる理論・実技の専門研究を行い、高度な技能と実的な応用能力・企画力によって、今日の造形芸術の多様な展開に対応し、グローバル化した社会において指導的役割を果たすことのできる高度専門職業人・研究者を育成する。	
養成する人材像	造形芸術に関する基礎的な知識・技能と高い関心を持ち合わせ、現代社会の芸術に対する多様化し高度化した要求に応え、様々な課題の解決に向けて主体的に取り組もうとする意欲的な人材	
修了後の進路	筑波大学大学院芸術学学位プログラム(博士後期課程)等への進学、中学・高等学校等の教員、美術館・博物館学芸員、行政機関や企業の研究者等。画家、版画家、彫刻家、書家、工芸家、陶芸家、漆芸家、造形作家、写真家、建築家、デザイナー、イラストレーター、映像作家、評論家等の造形芸術における創造的表現能力を有する高度専門職業人および研究者。	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の活用力:高度な知識を社会に役立てる能力	① 研究等を通じて知を社会に役立てた(または役立てようとしている)か ② 幅広い知識に基づいて、専門分野以外でも問題を発見することができるか	当該学位プログラムの全ての学生に対して履修することを指導する、研究・制作発表特別演習Ⅰ、Ⅱ、芸術学学位プログラム特別演習、芸術学学位プログラム特別研究と、教育研究領域ごとの西洋近世美術史特講Ⅰ-1、洋画技法論特講、平面・立体構成論特講、環境デザイン論特講等の履修、修士論文作成(特定課題研究報告書作成)、学会発表など
2. マネジメント能力:広い視野に立ち課題に的確に対応する能力	① 大きな課題に対して計画的に対応することができるか ② 複数の視点から問題を捉え、解決する能力はあるか	当該学位プログラムの全ての学生に対して履修することを指導する、研究・制作発表特別演習Ⅰ、Ⅱ、芸術学学位プログラム特別演習、芸術学学位プログラム特別研究と、教育研究領域ごとの芸術支援学学外演習 A-1、版画制作 A-1、日本画制作 A-1、現代アート表現演習、学会発表、国内外コンクール等への参加、展覧会企画発表など
3. コミュニケーション能力:専門知識を的確に分かりやすく伝える能力	① 研究等を円滑に実施するために必要なコミュニケーションを十分に行うことができるか ② 研究内容や専門知識について、その分野だけでなく異分野の人にも的確かつわかりやすく説明することができるか	当該学位プログラムの全ての学生に対して履修することを指導する、研究・制作発表特別演習Ⅰ、Ⅱ、芸術学学位プログラム特別演習、芸術学学位プログラム特別研究と、教育研究領域ごとの彫刻制作-1、漢字演習 A、陶磁造形演習Ⅰ、視覚伝達設計論特講等の履修、学会発表、国内外コンクール等への参加、展覧会企画発表など
4. チームワーク力:チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力	① チームとして協働し積極的に課題に取り組んだ経験はあるか ② 自分の研究以外のプロジェクト等の推進に何らかの貢献をしたか	当該学位プログラムの全ての学生に対して履修することを指導する、研究・制作発表特別演習Ⅰ、Ⅱ、芸術学学位プログラム特別演習、芸術学学位プログラム特別研究と、教育研究領域ごとの洋画制作 A-1、日本画制作 A-1、書学外演習 A、金属彫刻制作等の履修、TA 経験、チームでのコンクール参加、展覧会企画発表、学会等支援など

5. 国際性:国際社会に貢献する意識	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する意識があるか ② 国際的な情報収集や行動に必要な語学力を有するか	当該学位プログラムの全ての学生に対して履修することを指導する、研究・制作発表特別演習Ⅰ、Ⅱ、芸術学学位プログラム特別演習、芸術学学位プログラム特別研究と近・現代美術論特講Ⅰ-1、芸術教育方法論Ⅰ-1、メディア表現演習、都市・地域デザイン論特講等の履修、留学生との交流、TOEFL、TOEIC等受験、国際会議発表、外国人との共同研究など
6. 創造力:芸術学領域における新規で有用な研究を推進する創造的な能力	芸術ないしデザインにおける専門知識と高度な技能を持ち、それに基づく優れた研究能力・創造的表現力があるか	当該学位プログラムの全ての学生に対して履修することを指導する、研究・制作発表特別演習Ⅰ、Ⅱ、芸術学学位プログラム特別演習、芸術学学位プログラム特別研究と、教育研究領域ごとの西洋古代美術史演習Ⅱ-1、版画特別制作-1、木材造形演習等の履修、論文執筆・学会発表、作品制作・展覧会発表など
7. 理解力:芸術学領域の意義と役割を理解し、問題を発見し解決の重要性を判断する能力。	芸術ないしデザインの意義と役割に対する深い理解力、多様な知識・経験に基づく問題発見力があるか	当該学位プログラムの全ての学生に対して履修することを指導する、研究・制作発表特別演習Ⅰ、Ⅱ、芸術学学位プログラム特別演習、芸術学学位プログラム特別研究と、教育研究領域ごとの芸術支援学外演習Ⅰ-1、彫塑特別制作Ⅰ、グラフィックデザイン演習Ⅰ等の履修、論文執筆・学会発表、作品制作・展覧会発表など
8. 問題解決力:芸術学領域における諸問題を適切な方法により解決する能力	① 芸術ないしデザインに関する多様な知識・経験、論理的思考に基づく問題解決力があるか ② 健全で高い研究倫理意識を持ち、芸術家やデザイナーなどの権利に関する倫理意識を持ち、芸術ないしデザインにおける問題を解決する能力があるか	当該学位プログラムの全ての学生に対して履修することを指導する、研究・制作発表特別演習Ⅰ、Ⅱ、芸術学学位プログラム特別演習、芸術学学位プログラム特別研究と、教育研究領域ごとの洋画特別制作Ⅰ-1、仮名演習Ⅰ、パシブデザイン論特講等の履修、論文執筆・学会発表、作品制作・展覧会発表など
9. 展開力:芸術文化の進展に寄与する研究発展性を見据える能力	① 研究成果を積極的に発表する能力があるか ② 多様な人々と協働できる能力、国際的なリーダーとして活躍できる幅広い視野と行動力があるか	当該学位プログラムの全ての学生に対して履修することを指導する、研究・制作発表特別演習Ⅰ、Ⅱ、芸術学学位プログラム特別演習、芸術学学位プログラム特別研究と、教育研究領域ごとの日本画特別制作Ⅰ-1、平面・立体構成演習Ⅰ、創造的復興:チャレンジ学外特別演習Ⅰ等の履修、論文執筆・学会発表、作品制作・展覧会発表など

■デザイン学学位プログラム（博士前期課程）

授与する学位の名称	修士(デザイン学) [Master of Design]	
人材養成目的	人のこころをより良い状態にする製品や環境を生み出す実践的な力を修得し、人と人のつながりを作り明るく充実したものと社会システムの創造を目指し、豊かで建設的な地域や社会を育み維持再生するための創造力を活用できる、国際的トップリーダーの資質を持った高度専門職業人を養成する。	
養成する人材像	横断的・実践的かつ国際的な学修を实践し、地域や文化の壁を越えた問題解決策を提案する意欲と、成果を生み出す粘り強さを持ち、目利き力(課題抽出能力)、突破力(計画立案能力、論理的説得力)および専門力に裏付けられた任務完結力を備えた人材。	
修了後の進路	デザイナー、建築家、企業などにおける企画開発者、エンタテインメント産業のデザイナー・アーティスト、デザイン理論や実践を行う研究機関の研究者、デザインコンサルタント、博士後期課程への進学等	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の活用力: 高度な知識を社会に役立てる能力	① 研究等を通じて知を社会に役立てた(または役立てようとしている)か ② 幅広い知識に基づいて、専門分野以外でも問題を発見することができるか	当該学位プログラムの全ての学生に対して履修することを指導するデザイン学基礎論に加えて、デザイン学特別演習 1、感性情報学特講、建築計画論特講、作品制作・発表、デザインコンペなどへの応募、修士論文作成、学会発表など
2. マネジメント能力: 広い視野に立ち課題に的確に対応する能力	① 大きな課題に対して計画的に対応することができるか ② 複数の視点から問題を捉え、解決する能力はあるか	当該学位プログラムの全ての学生に対して履修することを指導する研究倫理に加えてプロジェクト演習、インターンシップ、学会などにおける研究会などの運営、達成度自己点検、デザインコンペ等への応募、共同プロジェクトの運営など
3. コミュニケーション能力: 専門知識を的確に分かりやすく伝える能力	① 研究等を円滑に実施するために必要なコミュニケーションを十分に行うことができるか ② 研究内容や専門知識について、その分野だけでなく異分野の人にも的確かつわかりやすく説明することができるか	プロジェクト演習、インターンシップ、大学を開くデザインプロデュース、学会などにおける研究会などの運営、デザインコンペ等への応募、共同プロジェクトの運営など、横断的研究実践能力が必要とされる科目の履修または実践活動
4. チームワーク力: チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力	① チームとして協働し積極的に課題に取り組んだ経験はあるか ② 自分の研究以外のプロジェクト等の推進に何らかの貢献をしたか	プロジェクト演習、インターンシップ、大学を開くデザインプロデュース、TA 経験、チームでのコンテスト参加、学会での質問、セミナーでの質問など、研究組織運営能力が必要とされる科目の履修または実践活動
5. 国際性: 国際社会に貢献する意識	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する意識があるか ② 国際的な情報収集や行動に必要な語学力を有するか	海外研修、感性情報学特講、建築・都市フィールドデザイン論特講、国際インターンシップなど、国際性について学ぶ科目の履修または、国外での活動経験、留学生との交流、TOEFL/TOEIC 得点、国際会議発表、外国人との共同研究など
6. 構想・表現力: 課題抽出能力(目利き力)と計画立案能力	専門的な問題の周辺にも精通し、課題抽出能力を活かして研究・制作を立案し、表現する力を身に付けたか。	当該学位プログラムの全ての学生に対して履修することを指導するデザイン学基礎論学会・研究会・プロジェクト発表会等での成果を参考にする
7. 分析力: 広い視点から問題を解決する専門的問題分析力	専門分野における優れた研究を実施するための専門的問題分析力を身につけたか。広い分野から、総合的なデザイン課題を分析する能力を身につけたか。	当該学位プログラムの全ての学生に対して履修することを指導する視覚情報デザイン論特講を含む専門科目群学会等での発表成果を参考にする
8. 解決力: 専門力に裏付けられ、新しい解決策を生み出し、成果を社会や学界に提案する力	インターンシップや実践的演習により問題解決力(任務完結力)・突破力(計画立案能力)を獲得したか。	当該学位プログラムの全ての学生が履修するデザイン学特別演習(1,2)に加えて、プロジェクト演習(A~D)、およびインターンシップ、プロジェクトの外部発表、インターンシップ先からの評価を参考にする

■世界遺産学学位プログラム（博士前期課程）

授与する学位の名称	修士(世界遺産学) [Master of Heritage Studies]	
人材養成目的	世界の文化遺産・自然遺産が直面する問題の所在を政治・経済・社会・自然環境など様々な側面から総合的に把握し、その保護のための課題を解決する理論・技術を習得し、世界遺産条約に基づく世界遺産はもとより、広く国内外の文化遺産・自然遺産の保護に貢献できる高度専門職業人を育成する。	
養成する人材像	文化遺産・自然遺産の保護と評価のための理論、文化遺産・自然遺産の管理・修復のための技術、文化遺産・自然遺産が直面している問題の所在を総合的に把握し、国際社会が目指す目標との関係において課題を的確に設定し、解決できる能力を有し、文化・自然遺産の保護のため、一般社会の広範な領域にまたがる関係者と自在に交渉することができるコミュニケーション能力を持つ人材を育成する。	
修了後の進路	博士後期課程への進学。国や地方公共団体の職員、研究員等。文化遺産保護・国際協力分野の公的機関やコンサルタント関連企業及びマスコミ各社等の職員、研究員 ほか。	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の活用力: 高度な知識を社会に役立てる能力	① 研究等を通じて知を社会に役立てた(または役立てようとしている)か ② 幅広い知識に基づいて、専門分野以外でも問題を発見することができるか	世界遺産論、世界遺産特別演習、世界遺産特別研究、インターンシップなど
2. マネジメント能力: 広い視野に立ち課題に的確に対応する能力	① 大きな課題に対して計画的に対応することができるか ② 複数の視点から問題を捉え、解決する能力はあるか	世界遺産論、世界遺産特別演習、世界遺産特別研究、インターンシップなど
3. コミュニケーション能力: 専門知識を的確に分かりやすく伝える能力	① 研究等を円滑に実施するために必要なコミュニケーションを十分に行うことができるか ② 研究内容や専門知識について、その分野だけでなく異分野の人にも的確かつわかりやすく説明することができるか	世界遺産論、世界遺産特別演習、世界遺産特別研究、インターンシップなど
4. チームワーク力: チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力	① チームとして協働し積極的に課題に取り組んだ経験はあるか ② 自分の研究以外のプロジェクト等の推進に何らかの貢献をしたか	世界遺産論、世界遺産特別演習、世界遺産特別研究、インターンシップなど
5. 国際性: 国際社会に貢献する意識	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する意識があるか ② 国際的な情報収集や行動に必要な語学力を有するか	World Heritage and Civil Participation (世界遺産と市民参加)、国際インターンシップ、海外留学、海外学会発表など
6. 共通の活用力: 文化・自然遺産保護に共通する知識を社会に役立てる能力	文化・自然遺産の保全に関する幅広い知識を社会に役立てようとしているか。	世界遺産論、世界遺産特別演習、世界遺産特別研究、インターンシップなど
7. 専門知の活用力: 文化・自然遺産に関する高度な知識を社会に役立てる能力	文化・自然遺産の保全に関する専門的知識を社会に役立てようとしているか。	世界遺産論、世界遺産特別演習、世界遺産特別研究、インターンシップなど
8. 共通技能の活用力: 文化・自然遺産保護に共通する課題の解決に対応する能力	文化・自然遺産の保全のため、広い視野から問題解決に取り組むことができるか。	世界遺産論、世界遺産特別演習、世界遺産特別研究、インターンシップなど
9. 専門技能の活用力: 文化・自然遺産保護の専門的課題の解決に対応する能力	文化・自然遺産の保全のため、専門的能力を活かして問題解決に取り組むことができるか。	世界遺産論、世界遺産特別演習、世界遺産特別研究、インターンシップなど
10. 国際実践力: 国際的視野を持って、文化・自然遺産の保護に取り組む意識	文化・自然遺産の保全のため、国際社会に貢献する意欲と語学力を身につけたか。	World Heritage and Civil Participation (世界遺産と市民参加)、国際インターンシップ、海外留学、海外学会発表など

■情報学学位プログラム（博士前期課程）

授与する学位の名称	修士(情報学) [Master of Science in Informatics]	
人材養成目的	人間の活動において情報は重要な役割を果たして来たが、近年の技術の進展とともにその重要性は急激に増している。その様な状況に対応するため情報学学位プログラム(博士前期課程)では、文理融合の学際的アプローチにより情報を学術・教育・生活・文化等に活用するための専門的業務に携わる人材を養成する。	
養成する人材像	人間と情報に関わる諸問題を理解し、専門知識・技術を身につけ、課題を遂行できる人材 ・最新の情報技術を駆使してデータ解析、システム開発、メディア制作を行うことができる人材 ・人間と情報の相互作用をふまえたコミュニティに最適な情報環境を提案できる人材 ・歴史と文化の多様性を理解し、知識情報資源の共有と継承を担うことができる人材	
修了後の進路	博士後期課程進学者、研究者、大学教員 データサイエンティスト、IT・メディア系エンジニア、コンサルタント等の情報専門職、図書館・博物館・アーカイブズ等における専門的業務従事者	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の活用力：高度な知識を社会に役立てる能力	① 研究等を通じて知を社会に役立てた(または役立てようとしている)か ② 幅広い知識に基づいて、専門分野以外でも問題を発見することができるか	データサイエンス実践、知識情報分析、コミュニティ分析、文献調査法、Literature Survey、情報学特別演習 a、情報学特別演習 b、修士論文作成など
2. マネジメント能力:広い視野に立ち課題に的確に対応する能力	① 大きな課題に対して計画的に対応することができるか ② 複数の視点から問題を捉え、解決する能力はあるか	機械学習とパターン認識、パブリックサービス、ライブラリーマネジメント、学術情報基盤、研究法基礎、Research Foundation、研究計画、業務計画、情報学特別演習 a、情報学特別演習 b など
3. コミュニケーション能力：専門知識を的確に分かり易く伝える能力	① 研究等を円滑に実施するために必要なコミュニケーションを十分にすることができるか ② 研究内容や専門知識について、その分野だけでなく異分野の人にも的確かつわかりやすく説明することができるか	感性認知情報、コミュニケーション行動、パブリックサービス、調査とデータ分析、Survey and Data Analysis、グローバル研究演習 I、グローバル研究演習 II、情報学特別演習 a、情報学特別演習 b、学会発表など
4. チームワーク力：チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力	① チームとして協働し積極的に課題に取り組んだ経験はあるか ② 自分の研究以外のプロジェクト等の推進に何らかの貢献をしたか	パブリックサービス、調査とデータ分析、Survey and Data Analysis、情報学特別演習 a、情報学特別演習 b、TA 経験など
5. 国際性：国際社会に貢献する意識	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する意識があるか ② 国際的な情報収集や行動に必要な語学力を有するか	知的財産と情報の安全、学術情報基盤、研究法基礎、Research Foundation、文献調査法、Literature Survey、グローバル研究演習 I、グローバル研究演習 II、大学院共通科目（国際性養成科目群）、語学力養成科目、外国語の演習科目、国際的な活動を伴う科目など
6. 意味的研究力：適切な手法でデータを意味的に分析する能力	① 研究のためのデータを入手し、意味的に分析するための手法を適切に選択できるか ② 分析結果から目的に応じて合理的な解釈を得ることができるか	メディアデザイン、感性認知情報、構造化データ、知識情報分析、情報プラクティス、コミュニティ分析、デジタルヒューマニティーズ、図書館メディア文化史、知的財産と情報の安全、アーカイブズ、博物館情報メディア、情報組織化、メディア教育、研究法基礎、Research Foundation、研究計画、グローバル研究演習 I、グローバル研究演習 II、情報学特別演習 a、情報学特別演習 b など

<p>7. 数理的研究力：適切な手法でデータを数理的に分析する能力</p>	<p>① 研究のためのデータを入手し、数理的に分析するための手法を適切に選択できるか ② 分析結果から目的に応じて合理的な解釈を得ることができるか</p>	<p>データサイエンス実践、機械学習とパターン認識、ビジュアルライゼーション、生体生命情報、情報アクセス、情報推薦、ヒューマンコンピュータインタラクション、コミュニケーション行動、ライブラリーマネジメント、学術情報基盤、研究法基礎、Research Foundation、調査とデータ分析、Survey and Data Analysis、研究計画、グローバル研究演習 I、グローバル研究演習 II、情報学特別演習 a、情報学特別演習 b など</p>
<p>8. メディア専門知識：社会システムへの応用を意識して、新しいメディアを開発する専門知識</p>	<p>① メディアやネットワーク技術が社会に及ぼす影響を説明できるか ② 情報デザインや社会への影響を踏まえてメディア開発できるか</p>	<p>データサイエンス実践、メディアデザイン、ビジュアルライゼーション、生体生命情報、感性認知情報、図書館メディア文化史、情報プラクティス、ヒューマンコンピュータインタラクション、コミュニケーション行動、コミュニティ分析、ライブラリーマネジメント、アーカイブズ、博物館情報メディア、メディア教育、調査とデータ分析、Survey and Data Analysis など</p>
<p>9. システム専門知識：人間と情報の相互作用を多面的に分析し、システムを設計する専門知識</p>	<p>① 人間の情報行動を計算論的モデルとして構築できるか ② 人間と情報の相互作用を踏まえた新しいサービスシステムを提案できるか</p>	<p>情報プラクティス、ビジュアルライゼーション、構造化データ、情報アクセス、情報推薦、ヒューマンコンピュータインタラクション、デジタルヒューマニティーズ、学術情報基盤、情報組織化など</p>
<p>10. リソース専門知識：資料をとおして歴史・文化の多様性を理解し、知識資源基盤を構築する専門知識</p>	<p>① 歴史と文化の多様性を理解し、情報資源の将来展望を描けるか ② 情報流通の諸課題を理解し、情報マネジメントや情報サービスを評価できるか</p>	<p>データサイエンス実践、構造化データ、情報アクセス、知識情報分析、アーカイブズ、ライブラリーマネジメント、デジタルヒューマニティーズ、知的財産と情報の安全、図書館メディア文化史、パブリックサービス、学術情報基盤、博物館情報メディア、情報組織化、文献調査法、Literature Survey、調査とデータ分析、Survey and Data Analysis、業務計画など</p>
<p>11. 情報倫理観：情報に対する倫理観と規範意識</p>	<p>① 知的財産権に関する正確な知識を持ち、適切な判断ができるか ② 情報の扱いに関して規範意識の下に行動できるか</p>	<p>知的財産と情報の安全、研究法基礎、Research Foundation、業務計画、情報学特別演習 a、情報学特別演習 b、TA 経験など</p>

■ライフイノベーション（病態機構）学位プログラム（博士前期課程）

授与する学位の名称	修士(病態機構学) [Master of Disease Mechanism]	
人材養成目的	ライフイノベーション学位プログラムでは、分野横断的かつ俯瞰的な考え方を修得し、世界トップクラスの高度な専門的研究能力を身に付け、バイオリソースを用いてライフサイエンス研究の新たな展開を切り開き、革新的医薬品・機能性食品の研究開発分野及びその保全と管理の分野でグローバルに活躍する高度専門職業人を養成する。	
養成する人材像	少子高齢化を迎える日本において、病態機構を解明することは急務の課題である。疾患の革新的な治療法の開発だけでなく、世界に先駆けて少子高齢化社会問題の解決策を創出することによる経済の活性化も期待されている。病態機構領域では、「研究成果の社会への還元を念頭において、生命医科学分野での革新的な知の開拓を行う優れた基礎医学研究者を目指すための博士論文研究基礎力を有する者、および幅広い知識を持って医療分野で多様に活躍する高度専門職業人」を育成する。	
修了後の進路	企業や研究機関が本学位プログラム教育に携わる事により、社会が求める人材を育成することが可能となり、より即戦力をもつ人材として、本プログラム修了者の社会的需要は高まると期待される。生命医科学的知識、実験技術、研究マネジメントスキルを基盤として、「課題解決能力」を有し、難治性疾患の革新的な治療法の開発を目指す人材として、ライフサイエンス系、製薬系企業の研究者、技術者、コンサルタント、治験コーディネーター、イノベーションを創出する新業種の起業家、関連する官公庁職員として活躍する事が期待される。	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の活用力: 高度な知識を社会に役立てる能力	① 研究等を通じて知を社会に役立てた(または役立てようとしている)か ② 幅広い知識に基づいて、専門分野以外でも問題を発見することができるか	ライフイノベーション博士前期研究 I 春、博士前期インターンシップ、ライフイノベーションチーム型演習、修士論文作成、学会発表
2. マネジメント能力: 広い視野に立ち課題に的確に対応する能力	① 大きな課題に対して計画的に対応することができるか ② 複数の視点から問題を捉え、解決する能力はあるか	ライフイノベーション博士前期研究 I 春、博士前期インターンシップ、ライフイノベーションチーム型演習、医薬品・食品マネジメント学、レギュラトリーサイエンス、達成度評価
3. コミュニケーション能力: 専門知識を的確に分かりやすく伝える能力	① 研究等を円滑に実施するために必要なコミュニケーションを十分に行うことができるか ② 研究内容や専門知識について、その分野だけでなく異分野の人にも的確かつわかりやすく説明することができるか	ライフイノベーション博士前期研究 I 春、ライフイノベーションチーム型演習、バイオインフォマティクス基礎、博士前期ライフイノベーションセミナー、学会発表、中間発表会
4. チームワーク力: チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力	① チームとして協働し積極的に課題に取り組んだ経験はあるか ② 自分の研究以外のプロジェクト等の推進に何らかの貢献をしたか	ライフイノベーション博士前期研究 I 春、ライフイノベーションチーム型演習、学会での質問
5. 国際性: 国際社会に貢献する意識	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する意識があるか ② 国際的な情報収集や行動に必要な語学力を有するか	レギュラトリーサイエンス、ライフイノベーションチーム型演習、博士前期ライフイノベーションセミナー、修士論文作成
6. イノベーション力: ライフサイエンス分野における新たな展開を切り開く能力	① ライフサイエンス分野に関する基本的概念を幅広く修得し、諸問題を俯瞰的に捉えることができるか ② 専門分野に捕らわれずに新たな技能・知識を修得する意欲はあるか ③ ライフサイエンス分野に関わる社会のニーズを理解しているか ④ 病態機構学に関する課題解決のために適切な研究計画を立案し、遂行することができるか	バイオインフォマティクス基礎、創薬概論、食品科学概論、バイオリソース概論、責任ある研究行為: 基盤編、ライフイノベーション博士前期研究 I 春、ライフイノベーション博士前期演習 I 春、学会発表、セミナーへの参加
7. 専門知識: 専門分野における高度な知識と運用能力	① 病態機構学に関する最先端の専門知識を修得したか ② 修得した知識を課題解決に役立てることができたか	疾患の分子細胞生物学 I、疾患の分子細胞生物学 II、細胞制御論、ライフイノベーション博士前期研究 I 春、ライフイノベーション博士前期演習 I 春

<p>8. 高度英語実践力:ライフサイエンス分野において通用する実践的な英語の運用能力</p>	<p>① ライフサイエンス分野における諸問題に関して自身の理解や意見を英語で的確に説明できるか ② 研究立案書や報告書などを英語で作成することができるか</p>	<p>ライフインノベーション実習、ライフインノベーションチーム型演習、博士前期ライフインノベーションセミナー、達成度評価、中間発表会、修士論文作成</p>
---	--	---

■ライフイノベーション（創薬開発）学位プログラム（博士前期課程）

授与する学位の名称	修士(医科学) [Master of Medical Science]	
人材養成目的	ライフイノベーション学位プログラムでは、分野横断的かつ俯瞰的な考え方を修得し、世界トップクラスの高度な専門的研究能力を身に付け、バイオリソースを用いてライフサイエンス研究の新たな展開を切り開き、革新的医薬品・機能性食品の研究開発分野及びその保全と管理の分野でグローバルに活躍する高度専門職業人を養成する。	
養成する人材像	社会情勢に応じたアンメットメディカルニーズを解消するような革新的な医薬品が求められている。創薬開発領域では、「時代に応じた医療ニーズの動向を把握し、レギュラトリーサイエンス、有機化学、創薬化学、薬理学を通じて、薬品をデザインする能力、薬品の効果を検証する能力を修得し、革新的な医薬品の創出へ寄与できる研究者を目指すための博士論文研究基礎力を有する者および高度専門職業人」を育成する。	
修了後の進路	企業や研究機関が本学位プログラム教育に携わる事により、社会が求める人材を育成することが可能となり、より即戦力をもつ人材として、本プログラム修了者の社会的需要は高まると期待される。創薬開発に関する知識、実験技術、研究マネジメントスキルを基盤として、「課題解決能力」を有し、アンメットメディカルニーズを解消する革新的な医薬品開発を目指したライフサイエンス系、製薬系企業の研究者、技術者、コンサルタント、研究コーディネーター、イノベーションを創出する新業種の起業家、関連する官公庁職員として活躍する事が期待される。	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の活用力: 高度な知識を社会に役立てる能力	① 研究等を通じて知を社会に役立てた(または役立てようとしている)か ② 幅広い知識に基づいて、専門分野以外でも問題を発見することができるか	ライフイノベーション博士前期研究Ⅰ春、博士前期インターンシップ、ライフイノベーションチーム型演習、修士論文作成、学会発表
2. マネジメント能力: 広い視野に立ち課題に的確に対応する能力	① 大きな課題に対して計画的に対応することができるか ② 複数の視点から問題を捉え、解決する能力はあるか	ライフイノベーション博士前期研究Ⅰ春、博士前期インターンシップ、ライフイノベーションチーム型演習、医薬品・食品マネジメント学、レギュラトリーサイエンス、達成度評価
3. コミュニケーション能力: 専門知識を的確に分かりやすく伝える能力	① 研究等を円滑に実施するために必要なコミュニケーションを十分に行うことができるか ② 研究内容や専門知識について、その分野だけでなく異分野の人にも的確かつわかりやすく説明することができるか	ライフイノベーション博士前期研究Ⅰ春、ライフイノベーションチーム型演習、バイオインフォマティクス基礎、博士前期ライフイノベーションセミナー、学会発表、中間発表会
4. チームワーク力: チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力	① チームとして協働し積極的に課題に取り組んだ経験はあるか ② 自分の研究以外のプロジェクト等の推進に何らかの貢献をしたか	ライフイノベーション博士前期研究Ⅰ春、ライフイノベーションチーム型演習、学会での質問
5. 国際性: 国際社会に貢献する意識	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する意識があるか ② 国際的な情報収集や行動に必要な語学力を有するか	レギュラトリーサイエンス、ライフイノベーションチーム型演習、博士前期ライフイノベーションセミナー、修士論文作成
6. イノベーション力: ライフサイエンス分野における新たな展開を切り開く能力	① ライフサイエンス分野に関する基本的概念を幅広く修得し、諸問題を俯瞰的に捉えることができるか ② 専門分野に捕らわれずに新たな技能・知識を修得する意欲はあるか ③ ライフサイエンス分野に関わる社会のニーズを理解しているか ④ 創薬開発学に関する課題解決のために適切な研究計画を立案し、遂行することができるか	バイオインフォマティクス基礎、創薬概論、食品科学概論、バイオリソース概論、責任ある研究行為: 基盤編、ライフイノベーション博士前期研究Ⅰ春、ライフイノベーション博士前期演習Ⅰ春、学会発表、セミナーへの参加
7. 専門知識: 専門分野における高度な知識と運用能力	① 創薬開発学に関する最先端の専門知識を修得したか ② 修得した知識を課題解決に役立てることができたか	創薬化学概論、創薬トランスレーショナルサイエンス、ライフイノベーション博士前期研究Ⅰ春、ライフイノベーション博士前期演習Ⅰ春

<p>8. 高度英語実践力:ライフサイエンス分野において通用する実践的な英語の運用能力</p>	<p>① ライフサイエンス分野における諸問題に関して自身の理解や意見を英語で的確に説明できるか ② 研究立案書や報告書などを英語で作成することができるか</p>	<p>ライフインノベーション実習、ライフインノベーションチーム型演習、博士前期ライフインノベーションセミナー、達成度評価、中間発表会、修士論文作成</p>
---	--	---

■教育学学位プログラム（博士後期課程）

授与する学位の名称	博士(教育学) [Doctor of Philosophy in Education]	
人材養成目的	社会の急激な変化のもと対応を迫られる教育の具体的課題と、地球的視野をもって解決されるべき教育の本質的課題のそれぞれについて、教育学の幅広い学問的知見を基盤としての確な研究方法をもって追究し、独創的な研究成果を国内外に向けて発信し、政策と実践の改革を国際的に先導することのできる教育学研究者ならびに高度専門職業人を養成することを目的とする。	
養成する人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・修了者は、国内外の教育系大学・学部・教育研究機関で教育学の教育研究に従事するとともに、各専門分野の学会活動をリードすることのできる人材である。また、国際学会や国際機関等において教育学研究の最新成果について積極的に発信し研究交流することができる人材である。 ・研究実績を生かして国内および海外における国・地方自治体・関係組織等の教育政策の策定・実施および学校教職員・教育行政・民間組織等の職能開発に対して貢献できる人材である。 	
修了後の進路	修了後の進路は、国内外の教育系大学・学部および教育研究機関の研究者、国際的な機関における教育学研究者、開発途上国等における国際協力の場で日本の教育経験及び教育学の知見に基づいて貢献する者、あるいは民間組織のリーダーとしての高度専門職業人等である。	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の創成力：未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか 	基礎科目、専門基礎科目、専門科目、博士論文作成、学会発表など
2. マネジメント能力：俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか 	他研究室と共同の基礎科目、専門基礎科目、達成度自己点検など
3. コミュニケーション能力：学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えるときともに、質問に的確に答えることができるか 	基礎科目、専門基礎科目、専門科目、学会発表、ポスター発表など
4. リーダーシップ力：リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか 	他研究室と共同の基礎科目、専門基礎科目、大学院共通科目、TA・TF 経験、プロジェクトの参加経験など
5. 国際性：国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	<ul style="list-style-type: none"> ① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか 	教育学演習、大学院共通科目(国際性養成科目群)、国際的な活動を伴う科目、国外での活動経験、外国人(留学生を含む)との共同研究、TOEIC 得点、国際会議発表、英語論文など
6. 研究力：教育学分野における最新の専門知識に基づいて本質的な研究課題を設定して、自立して研究計画を遂行できる能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 教育学の先行研究を踏まえて、本質的な研究課題を設定できるか ② 設定した課題にふさわしい研究方法を用い、学術的な研究成果を生み出しているか 	教育学演習、各研究法、博士論文中間研究発表会、学会発表など
7. 専門知識：教育学分野における先端的かつ高度な専門知識と運用能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 専攻する分野の教育学的専門知識に裏付けられた研究成果があるか ② 関連する教育諸科学の専門知識を積極的に吸収しようとする意欲があるか 	教育学演習、各研究法、投稿形式論文発表会、博士論文中間研究発表会など
8. 倫理観：教育学分野の研究者にふさわしい倫理観と倫理的知識、および専攻する特定の分野に関する深い倫理的知識	<ul style="list-style-type: none"> ① 教育学の分野の研究者としてふさわしい倫理観と倫理的知識を有しているか ② 専攻する特定分野に関する倫理観と倫理的志知己を有しているか 	教育学演習、各研究法、投稿形式論文発表会など

<p>9. 国際性：国際的な視野で教育課題を捉え、その解決策を国内外に発信できる能力</p>	<p>① 国内外の教育課題を的確に把握し、国際的な視野で研究課題を設定できるか ② 研究成果を国内外に積極的に発信しようとしているか</p>	<p>教育学演習、各研究法、国外の大学との交流活動、国際会議発表、英語論文など</p>
--	---	---

■心理学学位プログラム（博士後期課程）

授与する学位の名称	博士(心理学) [Doctor of Philosophy in Psychology]	
人材養成目的	心理学とは、人間理解の要として、心とは何かを問い、心のはたらきを明らかにする学問領域であり、そのために人間が外界からの情報を取り入れ、理解し、最終的に適切な行動を取るにいたる過程を現象的に、機能的に、また、それを支える脳の機能にまでさかのぼって明らかにすることを目的とする学問領域である。こうした心理学領域全体の知識・方法論・技能・価値観を身に着け、その上で、社会科学諸領域を初めとする隣接諸領域、学際研究として展開可能な複合領域との多様かつ密接な関係性を持ち、人間研究の専門家として社会に貢献できる人材、すなわち、確固たる基礎、幅広い視野と問題意識、さらに問題解決と情報発信力を持つ心理学領域研究者たる人材を養成する。	
養成する人材像	心理学領域の専門的研究職として確固たる視点を獲得した上で、人間を総体として客観的に理解する能力、心の多様性と普遍性を理解する能力、人間と環境との交互作用を理解する能力を基に、人間に関する専門研究者として、問題発見、問題解決、情報発信など社会貢献する能力を持つ人材。中でも、心理基礎科学サブプログラムでは、心理学領域全体の広い視野を持ちつつ、深く心理学の方法論や知識・技能を体得し、心理学の基礎研究の成果および方法論等を広く社会に還元し、社会貢献ができる人材として、大学教員、研究者および 高度専門職業人の育成を目的とする。また心理臨床学サブプログラムでは、総合的・多面的に心理臨床学を研究し創造的に発展させる能力と実践的に応用するための技術を兼ね備えた大学教員、研究者および 高度専門職業人の育成を目的とする。	
修了後の進路	心理学を基礎とする研究職。具体的には、博士特別研究員、特任助教・助教、他大学の研究推進員、科学警察研究所など公的研究機関、民間研究所のほか、民間企業研究所研究員の研究員 ほか	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の創成力: 未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	① 新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか	心理学特別研究、博士論文作成、学術雑誌への論文発表、学会発表
2. マネジメント能力: 俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか	心理学特別研究、心理学実験実習、心理学研究マネジメント実習、達成度自己点検
3. コミュニケーション能力: 学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えるときともに、質問に的確に答えることができるか	心理学特別研究、心理学実験実習、心理学研究マネジメント実習、学会発表、達成度自己点検
4. リーダーシップ力: リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	① 魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか	心理学特別研究、心理学実験実習、心理学研究マネジメント実習、TA、TF(大学院セミナー等)経験
5. 国際性: 国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	心理学特別研究における論文指導、博士論文作成(先行研究レビュー並びに研究上の問題検討)に加え、心理学先端研究、大学院共通科目(国際性養成科目群)、心理基礎科学英語の履修、国際会議発表、国際雑誌への論文発表、海外研究者との共同研究
6. 心理学的人間理解力: 心理学の知識と方法論に基づき、心と行動の多様性、人—環境の関りを理解する能力	① 人の心と行動の多様性を心理学の知識・方法論から理解できる(または理解しようとしている)か ② 人と環境の関わりを心理学の知識・方法論から理解できる(または理解しようとしている)か	心理学特別研究、博士論文作成、学会発表

7. 心理学的問題解決力:心理学の知識、方法論、倫理に基づき、心と行動の問題を発見・理解・解決する能力	① 人の心と行動の問題を心理学の知識・方法論に基づいて発見し、理解できる(しようとしている)か ② 人の心と行動の問題を心理学の専門性と高度な倫理観をもって問題解決できる(しようとしている)か	心理学特別研究、博士論文作成、学会発表
8. 心理臨床支援能力:心理学の知識・方法論と臨床技能に基づき、心理臨床的支援を実践・育成できる能力	① 人の心と行動問題に対し、心理学の専門性と高度な倫理観をもって心理臨床的支援を実践できるか ② 心理学の専門性と高度な倫理観をもって心理臨床的支援が実践できる人材を育成できるか	臨床心理学実習、臨床実習場面における実践力、指導力
9. 心理学的情報発信力:高い倫理観をもって、心理学の知識・方法・成果を発信し、社会に貢献・主導する能力	① 心理学の知識・方法論・成果を高い倫理観をもって発信することができる(またはしようとしている)か ② 心理学の知識・方法論と高い倫理観をもって社会貢献することができる(またはしようとしている)か	心理学実験実習、心理学研究マネジメント実習、博士論文作成、学会発表、インターンシップ
10. 多領域間コミュニケーション力:心理学の専門性を発揮して、他領域・他職種の専門家と議論・協働・主導できる能力	① 心理学の専門家として、他領域・他職種と議論・協働・主導ができる(またはしようとしている)か ② 心理学の専門性を活かして、他領域・他職種と議論・協働・主導ができる(またはしようとしている)か	心理学研究マネジメント実習、心理学インターンシップ、博士論文作成、学会発表、インターンシップ

■障害科学学位プログラム（博士後期課程）

授与する学位の名称	博士(障害科学) [Doctor of Philosophy in Disability Sciences]	
人材養成目的	障害に関連する多様な課題に即した先進的研究を行うとともに、グローバルな視点に立った障害科学関連分野における先導的教育を行うことのできる研究者等を養成する。	
養成する人材像	障害のある人に関連する諸問題に対して、科学的な視点から、専門的な問題解決が可能な人材。具体的には、障害に関して幅広い知識を有し問題解決に寄与することができると共に、現実場面での問題の中から研究課題を見出すことができ、その課題を解決するための研究計画ならびにその実行を、協力者と共に推進することが可能な人材。	
修了後の進路	高等教育機関の教員あるいは独立行政法人等における研究者	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の創成力: 未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	① 新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか	視覚障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、聴覚障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、知的・発達・行動障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、運動障害・病弱講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、音声・言語障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、障害福祉学講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、障害原理論講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、博士論文作成、学会発表、論文投稿(下線部は選択必修科目あるいは修了要件)
2. マネジメント能力: 俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか	障害科学研究実践法、学会発表、論文投稿、相談活動(下線部は必修科目)
3. コミュニケーション能力: 学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えたとともに、質問に的確に答えることができるか	障害科学研究実践法、海外研究活動Ⅰ・Ⅱ、博士論文デザイン・中間・最終発表、学会発表(下線部は必修科目あるいは修了要件)
4. リーダーシップ力: リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	① 魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力はあるか	障害科学研究実践法、TA・TF 経験、相談活動(下線部は必修科目)
5. 国際性: 国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	海外研究活動Ⅰ・Ⅱ、視覚障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、聴覚障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、知的・発達・行動障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、運動障害・病弱講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、音声・言語障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、障害福祉学講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、障害原理論講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、国外での活動経験、外国人(留学生を含む)との共同研究、国際会議発表、英語論文投稿(下線部は選択必修科目)
6. 研究発想力: 障害科学に関する課題を発見し、独創的な研究を生み出す能力	① 専門的な立場から障害科学に関する研究課題を見出し設定することができるか ② 独創的な研究計画で障害科学に関する課題解決を図ることができるか	視覚障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、聴覚障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、知的・発達・行動障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、運動障害・病弱講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、音声・言語障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、障害福祉学講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、障害原理論講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、博士論文デザイン・中間発表(下線部は選択必修科目あるいは修了要件)

7. 研究計画実行力:障害科学に関する先端的な研究を計画実行する能力	<p>① 障害科学に関する重要な課題に対して長期的な研究計画を立案することができるか</p> <p>② 立案した研究計画に基づき、かつ適宜修正を行い、障害科学に関する研究を実行することができるか</p>	<p><u>視覚障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、聴覚障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、知的・発達・行動障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、運動障害・病弱講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、音声・言語障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、障害福祉学講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、障害原理論講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、博士論文デザイン・中間・最終発表、博士論文の作成(下線部は選択必修科目あるいは修了要件)</u></p>
8. 研究発信力:障害科学に関する研究成果を学術雑誌を通じて発信する能力	<p>① 授業等で障害科学に関する自らの研究成果を発表し討論することができるか</p> <p>② 障害科学に関する自らの研究成果を学術雑誌等に発表しているか</p>	<p><u>海外研究活動Ⅰ・Ⅱ、視覚障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、聴覚障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、知的・発達・行動障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、運動障害・病弱講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、音声・言語障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、障害福祉学講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、障害原理論講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、博士論文中間・最終発表、学会発表、論文投稿(下線部は選択必修科目あるいは修了要件)</u></p>
9. 障害に関する理解・伝達力:障害科学に関する高度で広範な知識をもち、他者に教える能力	<p>① 障害科学に関する専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか</p>	<p><u>障害科学研究実践法(下線部は必修科目)</u></p>
10. 倫理に関する理解と態度:障害科学に関する研究や実践に必要な倫理の手続きを実行し、他者に教える能力	<p>① 研究倫理申請を修了しているか</p> <p>② 障害科学に関する研究に必要な倫理観と倫理的知識を習得し、分かりやすく伝えられるか</p>	<p><u>視覚障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、聴覚障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、知的・発達・行動障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、運動障害・病弱講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、音声・言語障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、障害福祉学講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、障害原理論講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(下線部は選択必修科目)</u></p>

■カウンセリング科学学位プログラム（博士後期課程）

授与する学位の名称	博士(カウンセリング科学) [Doctor of Philosophy in Counseling Psychology]	
人材養成目的	カウンセリング関係の研究者、専門職業人に対して、カウンセリングの包括的基盤教育を行うとともに、国際的・学際的な研究の成果と方法論を習得し、他職種と連携して、職場や社会での諸課題について、科学的・実践的・開発的に解決し、社会に貢献する高度専門職業人や大学教員(研究者)を養成する。	
養成する人材像	カウンセリング科学の分野において独創的で優れたテーマの設定を行い、適切な手法で体系だった論理構造を持つ論文を作成でき、当該学術分野において高い学術的評価が得られるとともに、その成果が社会において応用され、社会貢献に資する研究を行える人材を育成する。	
修了後の進路	本プログラム在学中の人は大学教員や研究職として教育・研究分野で活躍している人も多い。本プログラム修了後の博士人材は、大学教員や研究職として教育・研究分野に転じる人も少なくないが、大学院生としての在籍時の職場において指導的立場で活躍する人も多い。例えば、企業や学校教育関係(特別支援教育を含む)、心理関連領域、医療・保健機関、社会福祉施設・教育施設、心理・リハビリテーション専門職養成校、職業支援センターや障がい者雇用企業、官公庁・行政機関などで、高度専門職職業人としてのキャリアを展開している。	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の創成力:未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	① 新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか	カウンセリング科学基礎論、カウンセリング科学演習Ⅰ～Ⅱ、カウンセリング科学特論Ⅲ、博士論文作成、学会発表、学術論文投稿、国際学会発表、TA経験など
2. マネジメント能力:俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか	産業社会心理学特論、組織メンタルヘルス特論、対人社会心理学特論、キャリア形成特論Ⅰ～Ⅱ、生涯発達システム特論Ⅰ～Ⅱ、博士論文作成、学会発表、学術論文投稿、国際学会発表、TA経験など
3. コミュニケーション能力:学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えたとともに、質問に的確に答えることができるか	カウンセリング科学特別演習Ⅰ～Ⅱ、カウンセリング科学特論Ⅰ～Ⅱ、学校生活支援カウンセリング特論、生涯発達心理学特論、家族発達援助特論、精神健康科学特論、博士論文作成、学会発表、学術論文投稿、国際学会発表、TA経験など
4. リーダーシップ力:リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	① 魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか	カウンセリング科学演習Ⅱ、カウンセリング科学特論Ⅰ～Ⅱ、生涯発達支援特論Ⅰ～Ⅱ、コミュニティ発達援助特論、博士論文作成、学会発表、学術論文投稿、国際学会発表、TA経験など
5. 国際性:国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	カウンセリング科学特論Ⅰ～Ⅲ、博士論文作成、学会発表、学術論文投稿、国際学会発表、TA経験など
6. 研究力:カウンセリング科学分野における最新の専門知識に基づいて先端的な研究課題を設定し、自立して研究計画を遂行できる能力	① カウンセリング科学分野における最新の専門知識に基づき先端的な研究課題が設定できる ② カウンセリング科学分野における最新の専門知識に基づき自立して研究計画を遂行できる	カウンセリング科学基礎論、カウンセリング科学演習Ⅰ～Ⅱ、カウンセリング科学特論Ⅰ～Ⅲ、学会発表、学術論文投稿、国際学会発表、TA経験など

<p>7. 専門知識: カウンセリング科学分野における先端的かつ高度な専門知識と運用能力</p>	<p>① カウンセリング科学分野における先端的かつ高度な専門知識を修得している ② カウンセリング科学分野における先端的かつ高度な運用能力を修得している</p>	<p>カウンセリング科学特別演習Ⅰ～Ⅲ、産業社会心理学特論、組織メンタルヘルス特論、対人社会心理学特論、キャリア形成特論Ⅰ～Ⅱ、学校生活支援カウンセリング特論、コミュニティ発達援助特論、家族発達援助特論、精神健康科学特論、学会発表、学術論文投稿、国際学会発表、TA 経験など</p>
<p>8. 倫理観: カウンセリング科学分野の研究者または高度専門職業人にふさわしい倫理観と倫理的知識、および専攻する特定の分野に関する深い倫理的知識</p>	<p>① カウンセリング科学分野の研究者または高度専門職業人にふさわしい倫理観と倫理的知識を修得している ② カウンセリング科学分野の専攻する特定の分野に関する深い倫理的知識を修得している</p>	<p>カウンセリング科学特論、生涯発達システム特論Ⅰ～Ⅱ、学会発表、学術論文投稿、国際学会発表、TA 経験など</p>

■リハビリテーション科学学位プログラム（博士後期課程）

授与する学位の名称	博士(リハビリテーション科学) [Doctor of Philosophy in Rehabilitation Science]	
人材養成目的	リハビリテーション関係の研究者、専門職業人に対して、リハビリテーションの包括的基盤教育を行うとともに、国際的・学際的な研究の成果と方法論を習得し、他職種と連携して、職場や社会での諸課題について、科学的・実践的・開発的に解決し、社会に貢献する学際的な高度専門職業人や大学教員(研究者)を養成する。	
養成する人材像	現職社会人が職場において遭遇し、かつ早急にその解決が求められている諸問題について、広い視野での対応と発展に必要な、総合的・包括的リハビリテーションに関する総合的な能力を有する人材を養成する。とくに、総合的・包括的リハビリテーション領域の中でも現場的課題の科学的解決に関わる実践的な研究能力・開発能力の高い高度専門職業人や大学教員などを養成する。	
修了後の進路	本プログラム在学中の人は大学教員や研究職として教育・研究分野で活躍している人も多い。本プログラム修了後の博士人材は、大学教員や研究職として教育・研究分野に転じる人も少なくないが、職場において指導的立場で活躍する人も多い。医療・保健機関、社会福祉施設、学校教育関係などで、高度専門職業人として活躍することが期待できる。	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の創成力: 未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	① 新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか	リハビリテーション科学基礎論、博士論文作成、学会発表など
2. マネジメント能力: 俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか	リハビリテーション科学演習 I、達成度自己点検など
3. コミュニケーション能力: 学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えたとともに、質問に的確に答えることができるか	リハビリテーション科学特論 I、学会発表など
4. リーダーシップ力: リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	① 研究的に魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか	リハビリテーション科学基礎論、職業リハビリテーション特論、TA(大学院セミナー等)経験、プロジェクトの参加経験など
5. 国際性: 国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	リハビリテーション科学演習 II、国外での活動経験、外国人(留学生を含む)との共同研究、TOEIC 得点、国際会議発表、英語論文など
6. 研究力: リハビリテーション分野における最新の専門知識に基づいて先端的な研究課題を設定し、自立して研究計画を遂行できる能力	① リハビリテーションに関する先端的な研究課題を設定し、その計画を他者に適切に伝えることができるか ② リハビリテーションに関する先端的な研究成果を、国内外の専門誌に掲載することができるか ③ リハビリテーションに関する先端的な博士論文を完成させ、その成果を適切に発表することができるか	リハビリテーション科学特論 I、国内外の専門領域での論文発表、博士論文作成など
7. 専門知識: リハビリテーション分野における先端的かつ高度な専門知識と運用能力	リハビリテーションに関する先端的な高度な専門的知識を習得し、自らも発信できる能力を得られるか	リハビリテーション科学特別演習 I、各専門的な学会が開催する研究会への参加や研修会での講師など
8. 倫理観: リハビリテーション分野の研究者または高度専門職業人にふさわしい倫理観と倫理的知識、および専攻する特定の分野に関する深い倫理的知識	リハビリテーションに関する高度な研究能力、倫理観および深い倫理的知識を得られているか	リハビリテーション科学基礎論、APRINなど関連する内容のe-learningの受講など

■ヒューマン・ケア科学学位プログラム（3年制博士課程）

授与する学位の名称	博士(ヒューマン・ケア科学) [Doctor of Philosophy in Human Care Science]	
人材養成目的	教育学、心理学、福祉学、医学、看護学、保健学、等の専門領域の学問融合の観点から総合的・学際的にヒューマン・ケア、人支援に関する課題を解明し、創造的に発展させる能力、実践的応用力を備えた大学教員、研究者、高度専門職業人教育者を養成する。	
養成する人材像	人々の抱える問題・課題に関する高度専門的知識を備え、課題解明に関する研究能力と技術、人へのケアと支援に関する方法・技術、その指導に関する高度専門的知識と技術を身につけた人材	
修了後の進路	国内外の大学および研究機関のヒューマン・ケア科学関連諸科学領域における専門教育研究者、国際機関の研究者、支援に関わる専門機関の指導者・実践者	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の創成力: 未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	① 新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか	ヒューマン・ケア科学特論Ⅰ-Ⅲ、ヒューマン・ケア科学演習、ヒューマン・ケア科学特別研究、博士論文作成、学会発表、論文投稿、審査会発表など
2. マネジメント能力: 俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか	ヒューマン・ケア科学特論Ⅰ-Ⅲ、ヒューマン・ケア科学演習、ヒューマン・ケア科学特別研究、博士論文作成、学会発表、論文投稿、審査会発表など
3. コミュニケーション能力: 学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えとともに、質問に的確に答えることができるか	ヒューマン・ケア科学特論Ⅰ-Ⅲ、ヒューマン・ケア科学演習、ヒューマン・ケア科学特別研究、博士論文作成、学会発表、論文投稿、審査会発表など
4. リーダーシップ力: リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	① 魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか	ヒューマン・ケア科学特論Ⅰ-Ⅲ、ヒューマン・ケア科学演習、ヒューマン・ケア科学特別研究、TF、TA、国際セミナー参加、成果発表会など
5. 国際性: 国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	ヒューマン・ケア科学特論Ⅰ-Ⅲ、ヒューマン・ケア科学演習、ヒューマン・ケア科学特別研究、英語論文投稿など
6. 研究力: ヒューマン・ケア科学分野における最新の専門知識に基づいて現代的・将来的な研究課題を設定し、自立して研究計画を遂行できる能力	① 最新の専門知識に基づき、ヒューマン・ケア科学分野における現代的・将来的な課題を設定できるか ② 設定した研究課題に対して、自立して研究計画を遂行できるか	ヒューマン・ケア科学特論Ⅰ-Ⅲ、ヒューマン・ケア科学演習、ヒューマン・ケア科学特別研究、博士論文作成、学会発表、論文投稿、審査会発表など
7. 専門知識: ヒューマン・ケア科学分野の先端的かつ高度な専門知識、および関連する諸科学の学際的専門知識	① ヒューマン・ケア科学分野の先端的かつ高度な専門知識を有しているか ② 関連する諸科学の学際的専門知識を有しているか	ヒューマン・ケア科学特論Ⅰ-Ⅲ、パブリックヘルスト論Ⅰ-Ⅲ、ヒューマン・ケア科学演習、ヒューマン・ケア科学特別研究、博士論文作成、学会発表、論文投稿、審査会発表など
8. 倫理観: ヒューマン・ケア科学分野の研究者にふさわしい倫理観と倫理知識、および専攻する特定の分野に関する深い倫理的知識	① ヒューマン・ケア科学分野に関する深い倫理的知識を持っているか ② 専攻する特定分野に関する倫理観と倫理的知識を持っているか	ヒューマン・ケア科学特論Ⅰ-Ⅲ、ヒューマン・ケア科学演習、ヒューマン・ケア科学特別研究、博士論文作成、学会発表、論文投稿、審査会発表など
9. 学際的応用力: ヒューマン・ケア科学に係る学際的知識と技術を現代的・将来的課題の解決に応用する力	① ヒューマン・ケア科学の現代的・将来的課題に対して、学際的視点から取り組んでいるか ② ヒューマン・ケア科学の現代的・将来的課題の解決に、学際的・総合的な応用を試みているか	ヒューマン・ケア科学特論Ⅰ-Ⅲ、パブリックヘルスト論Ⅰ-Ⅲ、ヒューマン・ケア科学演習、ヒューマン・ケア科学特別研究、博士論文作成、学会発表、論文投稿、審査会発表など

■パブリックヘルス学位プログラム（3年制博士課程）

授与する学位の名称	博士(公衆衛生学) [Doctor of Philosophy in Public Health]	
人材養成目的	超少子高齢社会や地球規模で直面する多様な健康問題の解決にむけて、公衆衛生学の専門知識および関連領域の学際横断的知識と研究能力を備えた高度な公衆衛生学専門家を養成する。	
養成する人材像	公衆衛生に関する高度専門知識と学際的知識および研究教育能力を十分に兼ね備えた人材、公衆衛生行政や地域・学校・職域・国際保健の向上に貢献する人材	
修了後の進路	国内外の大学および研究機関の専門教育研究者、保健医療福祉行政官、保健医療機関の専門管理職	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の創成力: 未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	① 新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか	パブリックヘルス特論Ⅰ－Ⅲ、パブリックヘルス演習、パブリックヘルス特別研究、博士論文作成、学会発表、論文投稿、審査会発表など
2. マネジメント能力: 俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか	パブリックヘルス特論Ⅰ－Ⅲ、パブリックヘルス演習、パブリックヘルス特別研究、博士論文作成、学会発表、論文投稿、審査会発表など
3. コミュニケーション能力: 学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えるときともに、質問に的確に答えることができるか	パブリックヘルス特論Ⅰ－Ⅲ、パブリックヘルス演習、パブリックヘルス特別研究、博士論文作成、学会発表、論文投稿、審査会発表など
4. リーダーシップ力: リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	① 魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか	パブリックヘルス特論Ⅰ－Ⅲ、パブリックヘルス演習、パブリックヘルス特別研究、TF、TA、成果発表会など
5. 国際性: 国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	パブリックヘルス特論Ⅰ－Ⅲ、パブリックヘルス演習、パブリックヘルス特別研究、英語論文投稿など
6. 研究力: 公衆衛生学分野における最新の専門知識に基づいて現代的・将来的な研究課題を設定し、自立して研究計画を遂行できる能力	① 最新の専門知識に基づき、公衆衛生学分野における現代的・将来的課題を設定できるか ② 設定した研究課題に対して、自立して研究計画を遂行できるか	パブリックヘルス特論Ⅰ－Ⅲ、パブリックヘルス演習、パブリックヘルス特別研究、博士論文作成、学会発表、論文投稿、審査会発表など
7. 専門知識: 公衆衛生学分野の先端的かつ高度な専門知識、および関連する諸科学の学際的専門知識	① 公衆衛生学分野の先端的かつ高度な専門知識を有しているか ② 関連する諸科学の学際的専門知識を有しているか	パブリックヘルス特論Ⅰ－Ⅲ、ヒューマン・ケア科学特論Ⅰ－Ⅲ、パブリックヘルス演習、パブリックヘルス特別研究、博士論文作成、学会発表、論文投稿、審査会発表など
8. 倫理観: 公衆衛生学分野の研究者にふさわしい倫理観と倫理知識、および専攻する特定の分野に関する深い倫理的知識	① 公衆衛生学分野に関する深い倫理的知識を持っているか ② 専攻する特定分野に関する倫理観と倫理的知識を持っているか	パブリックヘルス特論Ⅰ－Ⅲ、パブリックヘルス演習、パブリックヘルス特別研究、博士論文作成、学会発表、論文投稿、審査会発表など
9. 学際的応用力: 公衆衛生学に係る学際的知識と技術を現代的・将来的課題の解決に応用する力	① 公衆衛生学の現代的・将来的課題に対して、学際的視点から取り組んでいるか ② 公衆衛生学の現代的・将来的課題の解決に、学際的・総合的な応用を試みているか	パブリックヘルス特論Ⅰ－Ⅲ、ヒューマン・ケア科学特論Ⅰ－Ⅲ、パブリックヘルス演習、パブリックヘルス特別研究、博士論文作成、学会発表、論文投稿、審査会発表など

■ニューロサイエンス学位プログラム（博士後期課程）

授与する学位の名称	博士(神経科学) [Doctor of Philosophy in Neuroscience]	
人材養成目的	脳の働きに関する広範な学術的基盤を有し、高次脳機能としての人の心の理解に貢献できる神経科学の専門家として、研究者、高度専門職業人を養成する。	
養成する人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・正常および障害のある脳機能についての最高度の専門知識と解析技術を備え、基礎・応用研究を推進できる人材 ・神経科学分野の広範な領域の専門的および学際的見識をもとに、現代社会が抱える様々な心や行動の課題に敏感かつ真摯に向き合い解決に寄与できる人材 ・国内外の教育・研究機関において、人材育成や学際的研究を牽引できる人材 ・研究者倫理に基づき、神経科学分野のプロフェッショナルとしての行動する意識、自己管理能力、人間力を持った人材 	
修了後の進路	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外の大学、研究機関、企業研究所の研究員 ・国内外の高等教育機関の教員および障害科学領域の専門職 	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の創成力: 知の創成力: 未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか 	学術院共通専門基盤科目、神経科学専門セミナー1・2・3、博士論文研究指導1・2・3・4、学会発表、投稿論文作成、博士論文作成など
2. マネジメント能力: 俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか 	キャリアプラン・研究者倫理・TF トレーニングセミナー、神経科学専門研究インターンシップ 学会発表、投稿論文作成、博士論文作成など
3. コミュニケーション能力: 学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えるとともに、質問に的確に答えることができるか 	キャリアプラン・研究者倫理・TF トレーニングセミナー、高度専門科学英語 1・2、神経科学専門研究インターンシップ 学会発表、一般の人が参加する講演会での発表など
4. リーダーシップ力: リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか 	キャリアプラン・研究者倫理・TF トレーニングセミナー、神経科学専門研究インターンシップ、TFでの経験、学外の研究者への共同研究の提案など
5. 国際性: 国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	<ul style="list-style-type: none"> ① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか 	高度専門科学英語 1・2、博士論文研究指導 1・2・3・4、留学生との交流、TOEIC 得点、外国人との共同研究など
6. 高度専門知識: 神経科学分野において、先端的な研究計画の立案・実施と、優れた研究成果を得られるだけの専門的な知識	<ul style="list-style-type: none"> ① 神経科学分野の専門的知識に基づいて新たな課題を発見することができるか ② 発見した課題を解決するための研究計画を立案、実施することができるか 	神経科学専門セミナー1・2・3、学会発表、博士論文作成など
7. 高度研究実践スキル: 研究者倫理に基づき、神経科学分野において、ヒトや動物を対象とした先端的な研究(実験・調査)を実施できる能力。	神経科学分野における先端的な研究手法を用いて、研究課題を解決することができるか	神経科学専門セミナー1・2・3、神経科学専門研究インターンシップ、博士論文研究指導 1・2・3・4、RA での経験、学会発表、博士論文作成など
8. 研究情報収集・成果発信力: 英語を適切に使用し、研究成果の発表や、研究上のディスカッション等を行うに足る文章力、表現力、ディベート力。	<ul style="list-style-type: none"> ① 国際誌に掲載された神経科学分野の最新の研究動向を把握し、自らの研究に活かすことができるか ② 神経科学分野の専門知識や研究成果について、国際的な場面においても的確に説明することができるか 	高度専門科学英語 1・2、神経科学専門セミナー1・2・3、神経科学専門研究インターンシップ、博士論文研究指導 1・2・3・4、学会発表、学会での質問、セミナーでの質問など

9. 実践的研究力:神経科学分野の専門知識を活かして、実社会での問題解決に向けての活動を実践する企画力、指導力	神経科学分野の専門知識を活かし、実社会での問題解決に向けての活動を実践、指導できるか	神経科学専門セミナー1・2・3、神経科学専門研究インターンシップ、博士論文研究指導 1・2・3・4、企業との共同研究など
10. 神経科学分野の先端的研究の立案、実施、成果発信を論理的思考に基づいて推進できる能力。	神経科学分野の先端的研究の立案、実施、成果発信を論理的思考に基づいて行うことができるか	高度専門科学英語 1・2、博士論文研究指導 1・2・3・4 学会発表、博士論文作成など

■スポーツ医学学位プログラム（3年制博士課程）

授与する学位の名称	博士(スポーツ医学) [Doctor of Philosophy in Sports Medicine]	
人材養成目的	<p>スポーツ医学に以下の観点から貢献でき、国際的にも通用する研究者や高度専門職業人及びこれらの人材を育てることのできる大学教員を養成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技スポーツにおいて、科学的な見地から競技者の競技力向上に貢献できる人材。 ・生活習慣病や老化の予防を科学的見地から評価し、健康の維持・増進や疾病の予防・改善に貢献できる人材。 	
養成する人材像	<p>スポーツと健康、競技者の競技力向上、外傷と障害及び疾病の予防に関する基礎知識を有し、これを基盤としてスポーツ医学に関する研究能力を高めようとする意欲を持ち、競技スポーツ支援や健康スポーツなど各種の関連領域で活躍できる人材。</p>	
修了後の進路	<p>大学教員に加えて、行政機関や産業界において、スポーツ振興をグローバルな視点で推進する研究者や指導者</p>	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の創成力: 未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか 	博士論文研究指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、博士論文作成、論文発表、学会発表など
2. マネジメント能力: 俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか 	スポーツ医学セミナーⅢ、博士論文研究指導Ⅰ、研究計画発表会、論文予備審査会など
3. コミュニケーション能力: 学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えるときともに、質問に的確に答えることができるか 	博士論文研究指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、研究計画発表会、論文予備審査会、学会発表など
4. リーダーシップ力: リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか 	スポーツ医学セミナーⅢ、博士論文研究指導Ⅰ、研究計画発表会、学生主体による行事など
5. 国際性: 国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	<ul style="list-style-type: none"> ① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか 	スポーツ医学セミナーⅢ、博士論文研究指導Ⅰ、大学院共通科目(国際性養成科目群)、国際学会発表、英語論文発表など
6. 研究力: スポーツ医学の独自の研究を独自に行える能力	<ul style="list-style-type: none"> ① スポーツ医学の独自の研究成果等があるか ② スポーツ医学の発展に貢献することが期待できるか 	スポーツ医学セミナーⅠ、Ⅱ、博士論文研究指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、博士論文作成、論文発表、学会発表
7. 専門知識: スポーツ医学に関する先端的かつ高度な専門知識と運用能力	<ul style="list-style-type: none"> ① スポーツ医学に関する先端的かつ高度な専門知識はあるか ② スポーツ医学に関する研究成果等があるか 	スポーツ医学セミナーⅠ、Ⅱ、博士論文研究指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、博士論文作成、論文発表、学会発表
8. 倫理観: 研究者または高度専門職業人にふさわしい高い倫理観と倫理的知識	<ul style="list-style-type: none"> ① 高い倫理観と倫理的知識のもとに研究に取り組むことができるか ② 誠実で責任ある研究活動ができるか 	スポーツ医学概論Ⅰ、Ⅱ、博士論文研究指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、博士論文作成、論文発表、学会発表
9. 学際性: スポーツ医学の学際的な特徴を存分に発揮する能力	<ul style="list-style-type: none"> ① スポーツ医学の学際的な特徴を発揮した研究に取り組むことができるか ② 学際性のあるスポーツ医学の研究成果等があるか 	スポーツ医学概論Ⅰ、Ⅱ、スポーツ医学セミナーⅢ、研究計画発表会、博士論文作成

■看護科学学位プログラム（博士後期課程）

授与する学位の名称	博士(看護科学) [Doctor of Philosophy in Nursing]	
人材養成目的	さまざま文化的背景を持つ人々の多様な医療ニーズに創造力をもって科学的にかつ柔軟に応えることが可能な医療の専門家が求められている。本学位プログラムでは、学際的および国際的な視点に基づき、看護学の高度専門職者、教育者、研究者、政策・行政分野の看護・医療の専門家として専門的知識、技術を有するに留まらず、常に研究マインドを持って看護実践を検証していくことのできる人材を養成する。さらに、看護の専門領域だけでなく、「学際性」と「科学性」に基づく新しい看護の技術や教育・研究方法を開発できる人材を養成する。	
養成する人材像	次代に向けて必要となる新たな知識の創造と技術開発の基礎となる教育・研究方法について体系化できる力を備えた教育者、研究者、実践と理論の架け橋となる高度専門職者となりうる人材。	
修了後の進路	大学等の高等教育機関における教育者、研究者、看護・医療の管理・政策・行政に貢献する高度専門職者等	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の創成力: 未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	① 新たな知の創成といえる研究成果があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか	応用看護科学、応用統計学、看護研究方法論、看護科学特論、看護科学研究、研究倫理学演習、博士論文作成、学会発表
2. マネジメント能力: 俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか	看護科学特論、看護科学演習Ⅰ、看護科学演習Ⅱ、達成度自己点検
3. コミュニケーション能力: 学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えとともに、質問に的確に答えることができるか	看護学教育、看護科学演習Ⅰ、看護科学演習Ⅱ、看護科学特論、看護科学研究、学会発表、ポスター発表
4. リーダーシップ力: リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	① 魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか	看護学教育、看護科学演習Ⅰ、看護科学演習Ⅱ、学内外セミナー等の参加経験
5. 国際性: 国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	大学院共通科目(国際性養成科目群)、看護科学演習Ⅰ、看護科学演習Ⅱ、看護科学研究、国際セミナー参加、会議発表、英語論文作成
6. 科学的根拠の創成力: 看護実践の基盤になる新たな知を創成する研究能力	① 新たな知の創成といえる研究成果があるか ② 看護科学の発展に寄与する知を創成することが期待できるか	看護科学研究、看護科学特論・看護科学演習、論文作成、学会発表など
7. 看護科学の専門知識: 看護科学に関する高度な専門知識を深める能力	① 看護科学に関する専門知識の本質を探究することができるか ② 看護科学の現象を捉えて、具体化・抽象化できるか	応用看護科学、看護科学研究、論文作成、学会発表など
8. 研究・教育者としての倫理観: 確かな倫理観をもって研究・教育が出来る能力	① 人の尊厳を擁護する倫理規範に基づいた、判断や行動ができるか ② 高度な研究課題に対して、研究倫理に配慮した研究計画を立て、的確に遂行することができるか	看護学教育、看護科学研究、論文作成、学会発表など
9. 国際的な研究・実践能力: 国際水準に見合った研究・実践能力	① 国際的な学術交流の場において自己の成果を発信できるか ② 母語を日本語としない学生や研究者と専門知識について議論できるか	応用看護科学、看護科学研究、国際的な活動経験

■体育科学学位プログラム（博士後期課程）

授与する学位の名称	博士(体育科学) [Doctor of Philosophy in Health and Sport Sciences]	
人材養成目的	体育・スポーツ・健康科学分野に関連する現代社会の課題解決への貢献をめざし、卓越した研究・教育活動を行うために必要とされる高度な能力及びその基盤となる豊かな学識や実践力を持ち、グローバルな視点にたってリーダーシップを発揮できる人材を養成する。	
養成する人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・体育・スポーツ・健康科学等の分野において高度専門的知識を持ち、教育研究機関において、国内外の教育・研究機関における教員や研究員 ・体育・スポーツ・健康科学等の分野においてリーダーシップを発揮し、行政機関やスポーツ競技団体において将来計画を立案・実行できる人材 ・最先端の研究技法を駆使して、グローバルなレベルで問題解決できる能力を持つ研究者 ・俯瞰的な視野と柔軟な思考力を有し、様々な領域の人材とチームを組んで課題を解決する能力を持つ研究コーディネーター 	
修了後の進路	体育・スポーツ・健康科学研究におけるリーダーとして、国内外の国公私立大学等の教育研究機関の教員・研究員、企業および公的研究機関における研究員、行政機関やスポーツ競技団体の主要な役職員。	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の創成力: 未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか 	研究方法論Ⅰ(必修科目)、健康スポーツ科学研究演習Ⅰ・Ⅱ(必修科目)、プロジェクトローテーション、課題解決研究Ⅰ・Ⅱ、研究計画作成、学位論文作成(学位取得の条件)、学会発表(3年間の標準履修年限で一度も学会発表を行わないことはなく、必修科目と同等)など
2. マネジメント能力: 俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか 	研究方法論Ⅱ、健康スポーツ科学研究演習Ⅰ・Ⅱ(必修科目)、プロジェクトフォーラムⅠ・Ⅱ、体育専門学群「体育科学シンポジウム」企画・運営、国内・国際学会運営補助経験など
3. コミュニケーション能力: 学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えるとともに、質問に的確に答えることができるか 	研究セッション(必修科目)、国際ディベート合宿Ⅰ・Ⅱ、学会発表(3年間の標準履修年限で一度も学会発表を行わないことはなく、必修科目と同等)、セミナーでの質問
4. リーダーシップ力: リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力はあるか 	研究方法論Ⅱ、健康スポーツ科学研究演習Ⅰ・Ⅱ(必修科目)、プロジェクトフォーラムⅠ・Ⅱ、体育専門学群「体育科学シンポジウム」企画・運営、国内・国際学会運営補助経験など
5. 国際性: 国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	<ul style="list-style-type: none"> ① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか 	健康スポーツ科学研究演習Ⅰ・Ⅱ(必修科目)、国際ディベート合宿Ⅰ・Ⅱ、国際フォーラムⅠ・Ⅱ、Global Communication Skills Training(大学院共通科目)、国際会議発表、国際セミナーでのディスカッション、英語論文など
6. 研究力: 体育・スポーツ・健康科学分野における最新の専門知識に基づいて先端的な研究課題を設定し、自立して研究計画を遂行できる能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 最新の専門知識に基づいて先端的な研究課題を設定できるか ② 設定した研究課題を解決するために自立して研究計画を遂行できるか 	研究方法論Ⅰ(必修科目)、研究セッション(必修科目)、学位論文作成(学位取得の条件)
7. 専門知識: 体育・スポーツ・健康科学分野における先端的かつ高度な専門知識	体育・スポーツ・健康科学分野における先端的かつ高度な専門知識を身に付けたか	健康スポーツ科学研究演習Ⅱ(必修科目)、学位論文作成(学位取得の条件)

<p>8. 実践力: 体育・スポーツ・健康科学分野の研究者または高度専門職業人として身につけた高度な専門知識を社会で活用する能力</p>	<p>① 体育・スポーツ・健康科学分野における先端的就かつ高度な専門知識を伝達できるか ② 体育・スポーツ・健康科学分野における先端的就かつ高度な専門知識を運用できるか。</p>	<p>課題解決研究 I、プロジェクトフォーラム I、学会発表(3年間の標準履修年限で一度も学会発表を行わないことはなく、必修科目と同等)、TA 活動</p>
<p>9. 倫理観: 体育・スポーツ・健康科学分野の研究者または高度専門職業人にふさわしい倫理観と倫理的知識、および専攻する特定の分野に関する深い倫理的知識</p>	<p>① 体育・スポーツ・健康科学分野に関する深い倫理的知識をもっているか。 ② 研究者または高度専門職業人にふさわしい倫理観を持っているか。</p>	<p>研究方法論 I (必修科目)、健康スポーツ科学研究演習 I (必修科目)、研究倫理(大学院共通科目)</p>

■コーチング学学位プログラム（3年制博士課程）

授与する学位の名称	博士(コーチング学) [Doctor of Philosophy in Coaching Science]	
人材養成目的	国際的な視野と高い倫理観を備え、コーチング領域における高度な研究能力とコーチング実践力を養うことで、コーチング学に関する研究および教育を先導できる研究者、大学教員および高度専門職業人を養成する。	
養成する人材像	グローバル化している現代社会において、創造的な知性と豊かな人間性を備え、コーチングにおける複合的な課題を実践現場と協働して解決できる人材。	
修了後の進路	体育・スポーツに関する専門の学部および学科を有する大学・短大、一般体育の授業を行っている大学・短大、各種競技団体やスポーツ組織等。	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の創成力: 未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	① 新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか	コーチング学研究法Ⅰ、研究指導科目、論文発表に関する科目、博士論文作成、学会発表など
2. マネジメント能力: 俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか	コーチング学研究法Ⅱ、研究指導科目、演習科目、他研究室と共同の演習科目、インターンシップ科目、達成度自己点検など
3. コミュニケーション能力: 学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えるときに、質問に的確に答えることができるか	コーチング学研究法Ⅰ、研究指導科目、演習科目、研究発表に関する科目、学会発表、ポスター発表など
4. リーダーシップ力: リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	① 魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか	コーチング学研究法Ⅱ、特別指導科目、他研究室と共同の演習科目、大学院共通科目(JAPIC 科目)、TA(大学院セミナー等)経験、プロジェクトの参加経験など
5. 国際性: 国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	コーチングの哲学と倫理、大学院共通科目(国際性養成科目群)、外国語の演習科目、国際的な活動を伴う科目、国外での活動経験、外国人(留学生を含む)との共同研究、TOEIC 得点、国際会議発表、英語論文など
6. 研究マネジメント能力: コーチング学分野における専門知識の体系を理解し、自立して研究を計画・遂行する能力	① コーチング学に関する研究の対象について深く理解したか ② 自立した研究者として新しい時代のコーチングに資する知を発信する方法について深く理解したか	コーチング学研究法Ⅰ、研究セミナー、博士論文作成、学会発表など
7. 実践研究推進力: コーチングにおける実践力の構造を理解し、それを合理的に伝える能力	① コーチング実践に関する個別事例をわかりやすく報告する能力を身につけたか ② 個別事例の本質を解釈し、事例研究を推進する能力を身につけたか	コーチング学事例研究法、コーチング事例報告会、学会での実践報告など
8. 創造力: コーチング学分野の発展に貢献し得る新たな知を創成する能力	① 研究成果を分野の異なる研究者にわかりやすく論理的に説明できるか ② 研究成果を専門分野の研究者に適切に伝え、質問に的確に答えることができるか	コーチング学研究法Ⅱ、コーチングの哲学と倫理、研究セミナー、博士論文作成、学会発表など
9. コーチング実践力: コーチング学分野における専門知識を総合して、合理的なコーチングを遂行する能力	① コーチング学において創造された知を総合する能力を身につけたか ② コーチング実践活動を省察し、コーチング学の構築に資する実践知を発信する能力を身につけたか	コーチング学事例研究法、TA、TF、アスレチックデパートメント活動など

<p>10. インテグリティ:コーチングに関する哲学および倫理について深く論考し、教育できる能力</p>	<p>① コーチング学分野の研究者にふさわしい倫理的知識を身につけたか ② 新しい時代を担うコーチにふさわしい倫理観を身につけ、それを他のコーチに伝えられるか</p>	<p>コーチングの哲学と倫理、TA, TF、アスレチックデパートメント活動など</p>
--	--	---

■スポーツウエルネス学学位プログラム（博士後期課程）

授与する学位の名称	博士(スポーツウエルネス学) [Doctor of Sport and Wellness Promotion]	
人材養成目的	すでにスポーツまたはウエルネス領域で活躍する修士号取得者に対し、更なる研究・分析能力を養い、本領域における課題解決能力として国内外における交渉力や高度な実践的マネジメント能力を育成する。すなわち博士レベルの高度な研究力を保有した上で、イノベーションが必要な難度の高い課題解決のための政策力・プロジェクト実行力・マネジメント力を併せ持つ高度専門職業人を養成する。	
養成する人材像	国内外において、スポーツウエルネス領域における難度の高い課題を解決するためのプロジェクトを上手くマネジメントし、一定の成果を出せる人材。	
修了後の進路	政府各機関、関連シンクタンク、競技団体、地方自治体、企業、健康・医療系団体、NPO等をはじめスポーツウエルネス関連組織または団体の幹部もしくは幹部候補生。	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の創成力: 未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	① 新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか	課題解決型データ分析論特講 1、課題解決型データ分析論特講 2、スポーツウエルネス研究演習Ⅰ、スポーツウエルネス研究演習Ⅱ、スポーツウエルネス研究演習Ⅲ、博士論文作成、学会発表など
2. マネジメント能力: 俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか	スポーツウエルネス研究演習Ⅰ、スポーツウエルネス研究演習Ⅱ、スポーツウエルネス研究演習Ⅲ、達成度自己点検など
3. コミュニケーション能力: 学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えるとともに、質問に的確に答えることができるか	スポーツウエルネス研究演習Ⅰ、スポーツウエルネス研究演習Ⅱ、スポーツウエルネス研究演習Ⅲ、課題解決型プロジェクトワークⅠ、課題解決型プロジェクトワークⅡ、学会発表、ポスター発表など
4. リーダーシップ力: リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	① 魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか	スポーツウエルネス研究演習Ⅰ、スポーツウエルネス研究演習Ⅱ、スポーツウエルネス研究演習Ⅲ、課題解決型プロジェクトワークⅠ、課題解決型プロジェクトワークⅡ、プロジェクトに参加、プロジェクトのマネジメント経験など
5. 国際性: 国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	スポーツウエルネス研究演習Ⅰ、スポーツウエルネス研究演習Ⅱ、スポーツウエルネス研究演習Ⅲ、国外での活動経験、外国人(留学生を含む)との共同研究、国際会議発表など
6. 研究力: スポーツウエルネス分野における最新の専門知識に基づいて先端的な研究課題を設定し、自立して研究計画を遂行できる能力	① スポーツウエルネス分野に関する先端的な研究計画を立案、作成ができるか ② スポーツウエルネス分野に関する先端的な研究成果を得て、博士論文を完成させ、発表することができるか	課題解決型データ分析論特講 1,2、スポーツウエルネス研究演習Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ、課題解決型プロジェクトワークⅠ,Ⅱ、国内外の学会での発表や論文発表、博士論文作成など
7. 専門知識: スポーツウエルネス分野における先端的かつ高度な専門知識と運用能力	スポーツウエルネス分野における先端的かつ高度な専門知識を修得し、運用できるか	課題解決型データ分析論特講 1,2、スポーツウエルネス研究演習Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ、課題解決型プロジェクトワークⅠ,Ⅱ、専門領域の学会や学会が主催する研修会への参加など
8. 倫理観: スポーツウエルネス分野の研究者または高度専門職業人にふさわしい倫理観と倫理的知識、および専攻する特定の分野に関する深い倫理的知識	スポーツウエルネス分野の高度な研究能力、倫理観、深い倫理的知識を修得しているか	スポーツウエルネス研究演習Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ、課題解決型プロジェクトワークⅠ,Ⅱ、倫理講習会受講、APRIN など倫理関連の e-learning 受講など

■芸術学学位プログラム（博士後期課程）

授与する学位の名称	博士(芸術学) [Doctor of Philosophy in Art]	
人材養成目的	造形芸術に関する創造的な研究能力を有し、卓越した専門的知識と実技能力によって、公的機関および企業等、社会の様々な領域に貢献しうる研究者、および、確固たる教育能力と研究能力を有する大学教員を養成する。	
養成する人材像	造形芸術に関する幅広い学識と高度の研究・開発能力および実技能力によって、政府、地方自治体等の行政、教育機関、企業等、社会の様々な方面において、研究、教育の指導的役割を担う人材	
修了後の進路	大学教員、美術館・博物館学芸員、行政機関や企業等の研究者。その他、画家、版画家、彫刻家、書家、造形作家、写真家、建築家、デザイナー、イラストレーター、映像作家、評論家等の、美術およびデザインにおける創造的表現能力を有する自立した研究者	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の創成力: 未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	① 新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか	芸術学特別演習ⅠA、芸術学特別演習ⅠB、芸術学特別演習ⅡA、芸術学特別演習ⅡB、DC展での企画・運営・作品発表、論文発表、学会発表、公募展、コンクール等への応募など
2. マネジメント能力: 俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか	芸術学特別演習ⅠA、芸術学特別演習ⅠB、芸術学特別演習ⅡA、芸術学特別演習ⅡB、DC展での企画・運営・作品発表、論文発表、学会発表、公募展、コンクール等への応募など
3. コミュニケーション能力: 学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えたとともに、質問に的確に答えることができるか	芸術学特別演習ⅠA、芸術学特別演習ⅠB、芸術学特別演習ⅡA、芸術学特別演習ⅡB、DC展での企画・運営・作品発表、論文発表、学会発表、公募展、コンクール等への応募など
4. リーダーシップ力: リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	① 魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか	芸術学特別演習ⅠA、芸術学特別演習ⅠB、芸術学特別演習ⅡA、芸術学特別演習ⅡB、DC展での企画・運営・作品発表、TA・TF経験など
5. 国際性: 国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	芸術学特別演習ⅠA、芸術学特別演習ⅠB、芸術学特別演習ⅡA、芸術学特別演習ⅡB、国外での活動、(留学生を含む)国際共同研究、TOEIC、DC展での企画・運営・作品発表、論文発表、学会発表、国際コンクール等への応募など
6. 独創力: 芸術学領域において、一定の学術的意義を有した独自の研究を遂行できる能力	① 芸術ないしデザインの分野において、独創的な課題ないし解決を発見したか ② 先行研究に見られない、独自の観点をもって研究を遂行したか	芸術学特別演習ⅠA、芸術学特別演習ⅠB、芸術学特別演習ⅡA、芸術学特別演習ⅡB、DC展での企画・運営・作品発表、論文発表、学会発表、公募展、コンクール等への応募など
7. 活用力: 芸術学領域において、信頼性ある学術的方法論を活用ないし提案する能力	① 芸術ないしデザインの分野において認められた、信頼性ある学術的方法論を用いたか ② 新規で有用な学術的方法論を提案したか	芸術学特別演習ⅠA、芸術学特別演習ⅠB、芸術学特別演習ⅡA、芸術学特別演習ⅡB、DC展での企画・運営・作品発表、論文発表、学会発表、公募展、コンクール等への応募など
8. 開発力: 芸術学領域の学術進展に寄与する、新規で有用な信頼性ある結論を導く能力	① 芸術ないしデザインの分野において、学術進展に寄与するため、視野を拡大する課題を設定したか ② 新しい課題ないし目標を設定し、新規で有用な信頼性ある結論を導いたか	芸術学特別演習ⅠA、芸術学特別演習ⅠB、芸術学特別演習ⅡA、芸術学特別演習ⅡB、DC展での企画・運営・作品発表、論文発表、学会発表、公募展、コンクール等への応募など

<p>9. 展開力:芸術学領域の学術進展に寄与する、研究発展性を見据える能力</p>	<p>① 芸術ないしデザインの分野において、学術進展に寄与するため、発展性のある課題を設定したか ② 将来、研究の展開が予想される結論を導いたか</p>	<p>芸術学特別演習 I A、芸術学特別演習 I B、芸術学特別演習 II A、芸術学特別演習 II B、DC 展での企画・運営・作品発表、論文発表、学会発表、公募展、コンクール等への応募など</p>
--	---	--

■デザイン学学位プログラム（博士後期課程）

授与する学位の名称	博士(デザイン学) [Doctor of Philosophy in Design]	
人材養成目的	人のこころをより良い状態にする製品や環境を生み出す実践的な力を修得し、人と人のつながりを作り明るく充実したものとする社会システムの創造を目指し、豊かで建設的な地域や社会を育み維持再生するための創造力を活用できる、国際的トップリーダーの資質を持ち、産業界や行政など多様な研究・教育機関の中核を担う研究者を養成する。	
養成する人材像	横断的・実践的かつ国際的な学修を実践し、地域や文化の壁を越えた問題解決策を提案する意欲と、成果を生み出す粘り強さを持ち、目利き力(課題抽出能力)、突破力(計画立案能力、論理的説得力)および専門的研究を遂行する任務完結力を備えた人材。	
修了後の進路	産業界や大学等の研究組織における研究者、デザイン、建築にかかわる企画開発者、エンタテインメント産業のデザイナー・アーティスト、デザインコンサルタント等	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の創成力: 未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	① 新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか	当該学位プログラムの全ての学生に対して履修することを指導するデザイン学特別研究 B に加えて、博士論文研究の推進、学会発表など
2. マネジメント能力: 俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか	当該学位プログラムの全ての学生に対して履修することを指導するデザイン学特別研究 B を含むデザイン学特別研究に加えて、研究倫理、研究会等の運営、達成度自己点検など
3. コミュニケーション能力: 学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えたとともに、質問に的確に答えることができるか	当該学位プログラムの全ての学生に対して履修することを指導するデザイン学特別研究 B を含むデザイン学特別研究に加えて、サイエンスコミュニケータ養成実践講座、学会発表、ポスター発表など
4. リーダーシップ力: リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	① 魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか	当該学位プログラムの全ての学生に対して履修することを指導するデザイン学特別研究 B を含むデザイン学特別研究に加えて、インターンシップ、TA、TF 経験、研究会の運営、プロジェクトの参加経験など
5. 国際性: 国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	デザイン学特別研究 D、海外研修など国際性について学ぶ科目の履修または、国外での活動経験、留学生との交流、TOEFL/TOEIC 得点、国際会議発表、外国人との共同研究など
6. 構想・思考力: 高度な課題抽出能力(目利き力)と専門的研究計画立案能力	専門的な問題の細部にも精通し、高い課題抽出能力を活かして研究・制作を立案・実施する力を身に付けたか。	当該学位プログラムの全ての学生に対して履修することを指導するデザイン学特別研究 B を含むデザイン学特別研究に加えて、学会等での発表成果を参考にする
7. 分析力: 高い視野に立って広い視点から問題を解決す高度な問題分析力	① 専門分野における高度で優れた研究を実施するための高い専門的問題分析力を身につけたか。 ② 広い分野と高い専門的知識から、総合的なデザイン課題を分析する能力を身につけたか。	当該学位プログラムの全ての学生に対して履修することを指導するデザイン学特別研究 B を含むデザイン学特別研究学会等での発表成果を参考にする
8. 解決力: 高度な専門力に裏付けられ、新しい解決策を生み出し、成果を社会や学術界に提案する力	博士論文のための研究やインターンシップ等、研究の実践により高度な問題解決力(任務完結力)・強靱な突破力(計画立案能力)を獲得したか。	当該学位プログラムの全ての学生に対して履修することを指導するデザイン学特別研究 B を含むデザイン学特別研究インターンシップを行った場合はインターンシップ先からの評価を参考にする

■世界遺産学学位プログラム（博士後期課程）

授与する学位の名称	博士(世界遺産学) [Doctor of Philosophy in Heritage Studies]	
人材養成目的	世界の文化遺産・自然遺産の社会的・国際的役割を、地球環境と人間社会の持続可能性の達成を目的とする国際社会のアジェンダ、国際ガバナンスとの関係のもとに総合的に理解し、遺産が直面する問題の所在を政治・経済・社会・自然的要因に関連付けて分析し、その解決のための理論・技術を研究する高い能力を有する世界遺産学の研究者・大学教員、世界のトップリーダーとなる高度専門職業人を育成する。	
養成する人材像	世界の文化遺産・自然遺産の保護において、世界に貢献するという明確な意思及び態度、倫理観、国際社会、特に国際機関における議論の場で通用するコミュニケーション能力・交渉力、国際社会におけるニーズを的確に把握して課題を解決する能力、世界の文化遺産・自然遺産を次世代に伝えていくことができる世界遺産学の研究者・教育者としての能力を持った人材を育成する。	
修了後の進路	大学等教育機関の教員、研究者及び国や地方公共団体の職員、研究員等。文化遺産保護・国際協力分野の公的機関やコンサルタント関連企業等の職員、研究員 ほか。	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の創成力: 未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	① 新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか	世界遺産学特別研究、インターンシップ、学会発表など
2. マネジメント能力: 俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか	世界遺産学特別研究、インターンシップ、学会発表など
3. コミュニケーション能力: 学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えとともに、質問に的確に答えることができるか	世界遺産学特別研究、インターンシップ、学会発表など
4. リーダーシップ力: リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	① 魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか	世界遺産学特別研究、インターンシップ、学会発表など
5. 国際性: 国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	世界遺産学特別研究、国際インターンシップ、海外留学、海外学会発表など
6. 共通知の展開力: 文化・自然遺産保護に共通する知識を社会に役立てる能力	文化・自然遺産の保全に関する幅広い研究成果を展開し、社会に役立てようとしているか。	世界遺産学特別研究、インターンシップ、学会発表など
7. 専門知の創造力: 文化・自然遺産に関する高度な知識を創造し活用する能力	文化・自然遺産の保全に関する専門的研究の成果を社会に役立てようとしているか。	世界遺産学特別研究、インターンシップ、学会発表など
8. 共通技能の展開力: 文化・自然遺産保護に共通する課題の解決に対応する能力	文化・自然遺産の保全のため、研究成果を展開し、問題解決に取り組むことができるか。	世界遺産学特別研究、インターンシップ、学会発表など
9. 専門技能の開発力: 文化・自然遺産保護の専門的課題の解決方法を見出す能力	文化・自然遺産の保全のため、専門的な解決方法を開発し、問題解決に取り組むことができるか。	世界遺産学特別研究、インターンシップ、学会発表など
10. 国際的開発力: 文化・自然遺産の保護の国際的課題に取り組む意識と意欲	文化・自然遺産の保全のため、国際社会に貢献する高い意欲と十分な語学力を身につけたか。	世界遺産学特別研究、国際インターンシップ、海外留学、海外学会発表など

■情報学学位プログラム（博士後期課程）

授与する学位の名称	博士(情報学) [Doctor of Philosophy in Informatics]	
人材養成目的	人間の活動において情報は重要な役割を果たして来たが、近年の技術の進展とともにその重要性は急激に増している。その様な状況に対応するため情報学学位プログラム(博士後期課程)では、文理融合の学際的アプローチにより情報を学術・教育・生活・文化等に活用するための研究に携わる人材を養成する。	
養成する人材像	人間と情報に関わる諸問題を俯瞰し、専門知識・技術に基づいて研究課題を設定し、それを遂行できる人材	
修了後の進路	研究者、大学教員、データサイエンティスト、IT・メディア系エンジニア、コンサルタント等の上級情報専門職、図書館・博物館・アーカイブズ等における高度な研究開発業務従事者	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の創成力: 未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	① 新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか	情報学総合演習 Ia、情報学総合演習 Ib、博士論文作成など
2. マネジメント能力: 俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか	情報学総合演習 IIa、情報学総合演習 IIb など
3. コミュニケーション能力: 学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えるときに、質問に的確に答えることができるか	情報学セミナーa、情報学セミナーb、学会発表など
4. リーダーシップ力: リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	① 魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか	研究指導実践、PBL、TA 経験、TF 経験など
5. 国際性: 国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	情報学セミナーa、情報学セミナーb、大学院共通科目(国際性養成科目群)、外国語の演習科目、国際的な活動を伴う科目など
6. 情報学分野における研究力: 情報学分野における先端的な研究課題の設定と自立して研究計画を立案、遂行ができる高度な研究力	① 人間の心身及び諸活動に関わる専門分野の先行研究を踏まえて、未来に資する本質的な情報学分野の研究課題を設定できるか ② 設定した先端的な課題の解決に相応しい研究方法を用いて、独創的な研究成果を生み出しているか	情報学総合演習 Ia、情報学総合演習 Ib、情報学総合演習 IIa、情報学総合演習 IIb など
7. 情報学分野における専門知識: 情報学分野における先端的かつ高度な専門知識と運用能力	① 情報学分野の先端的で高度な専門知識を運用できる能力を十分身につけているか ② 情報学分野の最新の専門知識に裏付けられた独創的な課題を新規に発見したか	情報学セミナーa、情報学セミナーb など
8. 情報学分野における倫理観: 情報学分野における高い倫理観と規範意識	① 研究に関わる知的財産や情報の安全を守る知識を十分に持っているか ② 情報学分野に必要な不可欠な倫理観と知的財産や情報の安全を守る知識を説明できるか	研究指導実践、研究インターンシップ、PBL など

■ ライフイノベーション（病態機構）学位プログラム（博士後期課程）

授与する学位の名称	博士(病態機構学) [Doctor of Philosophy in Disease Mechanism]	
人材養成目的	分野横断的かつ俯瞰的な考え方を修得し、世界トップクラスの高度で専門的研究能力を身に付け、バイオリソースを用いてライフサイエンス研究の新たな展開を切り開き、革新的医薬品・機能性食品の研究開発分野及びその保全と管理の分野で、国際的に評価の高い研究成果を創出し、グローバルに活躍する高度専門職業人または研究者を養成する。	
養成する人材像	博士後期課程では、博士前期課程で修得した知識や技術を用いて、「研究マネジメントを高めつつ、難治性疾患の革新的な治療につながるような国際的に評価の高い独創的な研究を行い、得られた研究成果を国際的に情報発信し、生命医科学分野において即戦力とされる研究者および高度専門職業人」を育成する。	
修了後の進路	生命医科学的知識、実験技術、研究マネジメントスキル、国際レベルの高い研究成果を基盤として、「課題解決能力」と「課題発見能力」を駆使し、難治性疾患の革新的な治療法の開発を目指す人材として、ライフサイエンス系、製薬系企業の研究者、独立行政法人研究所の研究員、コンサルタント、治験コーディネーター、イノベーションを創出する新業種の起業家、関連する官公庁職員として国際的に活躍する事が期待される。研究のグローバル化に伴い、海外との共同研究やコーディネートをする機会が今後さらに増加すると考えられ、博士課程修了者の需要は高まると考えられる。	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の創成力: 未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	① 新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか	博士後期ライフイノベーションセミナー、博士後期インターンシップ、ライフイノベーション博士後期研究Ⅰ春、博士論文作成、学会発表
2. マネジメント能力: 俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか	博士後期インターンシップ、ライフイノベーション博士後期研究Ⅰ春、達成度評価、博士論文作成
3. コミュニケーション能力: 学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えるとともに、質問に的確に答えることができるか	博士後期ライフイノベーションセミナー、ライフイノベーション博士後期演習Ⅰ春、ライフイノベーション博士後期研究Ⅰ春、学会発表、中間発表会
4. リーダーシップ力: リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	① 魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力はあるか	博士後期インターンシップ、ライフイノベーション博士後期研究Ⅰ春
5. 国際性: 国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	博士後期ライフイノベーションセミナー、ライフイノベーション博士後期研究Ⅰ春、中間発表会、国際会議発表、学術論文発表
6. イノベーション力: ライフサイエンス分野におけるイノベーションを実現する能力	① ライフサイエンス分野における新たな知を創出し、社会に還元する意識と意欲があるか ② ライフサイエンス分野におけるイノベーションの創出に繋がる理論や実践に関する研究手法および論理展開力を修得したか ③ 病態機構学における顕在化していない課題を発見し、解決できたか ④ 分野外の研究者と協働して、分野横断的な研究課題を発見・解決する意欲があるか	人を対象とした研究: 基盤編、博士後期ライフイノベーションセミナー、博士後期インターンシップ、博士論文作成、学会発表、セミナーへの参加、国際会議発表、学術論文発表
7. 専門知識: 専門分野における最先端知識	① 病態機構学に関する最先端の専門知識を修得したか ② 修得した専門知識に基づき未解決課題を解決するための研究計画を立案できたか	ライフイノベーション博士後期演習Ⅰ春、ライフイノベーション博士後期研究Ⅰ春、博士論文作成、セミナーへの参加、学術論文発表

<p>8. 高度英語実践力:国際社会において研究に関わるあらゆる活動を行うのに十分な英語の運用能力</p>	<p>① 英語による研究成果の報告や発信に際し、国際社会にインパクトを与えられる発表能力を有しているか ② 第一線級の研究者と対等に議論できるだけの英語力および知識を有しているか</p>	<p>博士後期ライフインベーションセミナー、ライフインベーション博士後期演習Ⅰ春、ライフインベーション博士後期研究Ⅰ春、達成度評価、中間発表会、国際会議発表、学術論文発表</p>
---	--	---

■ライフイノベーション（創薬開発）学位プログラム（博士後期課程）

授与する学位の名称	博士(医科学) [Doctor of Philosophy in Medical Science]	
人材養成目的	分野横断的かつ俯瞰的な考え方を修得し、世界トップクラスの高度で専門的研究能力を身に付け、バイオリソースを用いてライフサイエンス研究の新たな展開を切り開き、革新的医薬品・機能性食品の研究開発分野及びその保全と管理の分野で、国際的に評価の高い研究成果を創出し、グローバルに活躍する高度専門職業人または研究者を養成する。	
養成する人材像	博士後期課程では、博士前期課程で修得した技術や知識を用いて、「研究マネジメント力」を高めつつ、革新的な医薬品の開発につながるような国際的に評価の高い独創的な研究を行い、得られた研究成果を国際的に情報発信し、革新的創薬開発において即戦力となる研究者および高度専門職業人を育成する。	
修了後の進路	創薬開発に関する知識、実験技術、研究マネジメントスキル、国際レベルの高い研究成果を基盤として、「課題解決能力」と「課題発見能力」を有し、アンメットメディカルニーズを解消する革新的な医薬品開発を目指す人材として、ライフサイエンス系、製薬系企業の研究者、独立行政法人の研究員、コンサルタント、研究コーディネーター、イノベーションを創出する新業種の起業家、関連する官公庁職員として国際的に活躍する事が期待される。研究のグローバル化に伴い、海外との共同研究やコーディネートをやる機会が今後さらに増加すると考えられ、博士課程修了者の需要は高まると考えられる。	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の創成力: 未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	① 新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか	博士後期ライフイノベーションセミナー、博士後期インターンシップ、ライフイノベーション博士後期研究Ⅰ春、博士論文作成、学会発表
2. マネジメント能力: 俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか	博士後期インターンシップ、ライフイノベーション博士後期研究Ⅰ春、達成度評価、博士論文作成
3. コミュニケーション能力: 学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えるときに、質問に的確に答えることができるか	博士後期ライフイノベーションセミナー、ライフイノベーション博士後期演習Ⅰ春、ライフイノベーション博士後期研究Ⅰ春、学会発表、中間発表会
4. リーダーシップ力: リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	① 魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力はあるか	博士後期インターンシップ、ライフイノベーション博士後期研究Ⅰ春
5. 国際性: 国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	博士後期ライフイノベーションセミナー、ライフイノベーション博士後期研究Ⅰ春、中間発表会、国際会議発表、学術論文発表
6. イノベーション力: ライフサイエンス分野におけるイノベーションを実現する能力	① ライフサイエンス分野における新たな知を創出し、社会に還元する意識と意欲があるか ② ライフサイエンス分野におけるイノベーションの創出に繋がる理論や実践に関する研究手法および論理展開力を修得したか ③ 創薬開発学における顕在化していない課題を発見し、解決できたか ④ 分野外の研究者と協働して、分野横断的な研究課題を発見・解決する意欲があるか	人を対象とした研究: 基盤編、博士後期ライフイノベーションセミナー、博士後期インターンシップ、博士論文作成、学会発表、セミナーへの参加、国際会議発表、学術論文発表
7. 専門知識: 専門分野における最先端知識	① 創薬開発学に関する最先端の専門知識を修得したか ② 修得した専門知識に基づき未解決課題を解決するための研究計画を立案できたか	ライフイノベーション博士後期演習Ⅰ春、ライフイノベーション博士後期研究Ⅰ春、博士論文作成、セミナーへの参加、学術論文発表

8. 高度英語実践力:国際社会において研究に関わるあらゆる活動を行うのに十分な英語の運用能力	① 英語による研究成果の報告や発信に際し、国際社会にインパクトを与えられる発表能力を有しているか ② 第一線級の研究者と対等に議論できるだけの英語力および知識を有しているか	博士後期ライフインベーションセミナー、ライフインベーション博士後期演習Ⅰ春、ライフインベーション博士後期研究Ⅰ春、達成度評価、中間発表会、国際会議発表、学術論文発表
--	---	--

■医学学位プログラム（医学を履修する博士課程）

授与する学位の名称	博士(医学) [Doctor of Philosophy in Medical Sciences]	
人材養成目的	発生、出生、成長・発達、加齢、老化、死という人間のたどるプロセスの中で生じるあらゆる生命現象の根本的理解、あるいは、その過程で人間が経験する疾病の克服に向けた病態解析や予防・診断・治療の研究・開発、それらの社会への還元に貢献できる人材を養成する。	
養成する人材像	あらゆる生命科学研究手法を駆使して、ヒトの生命現象の解明を目指す人材、ゲノム、分子、細胞からヒト個体、人類集団およびそれをとりまく環境を対象とする研究により、疾患の病態を解明し、疾患の予防、診断、治療の開発に貢献することを目指す人材、医学知識を駆使し、質の高い臨床研究、技術開発、社会医学研究を科学的な手法で実践することで、医療や公衆衛生の向上に貢献することを目指す人材を養成する。	
修了後の進路	大学教員(医学系、生命科学系など)、大学・公的研究機関における研究員、医療機関における医療専門職、企業(製薬、食品、化粧品等)における研究開発職、医療・保健福祉行政関連職、国際保健機関職員など。	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の創成力: 未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	① 新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか	医学特殊研究、医学特別演習、統合医学研究特論、博士論文作成などで、全学生が学修する。 その他、学会発表など。
2. マネジメント能力: 俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか	医学セミナー、博士論文作成やその関連科目を通して全学生が学修する。 その他、最先端医学研究セミナー、橋渡し研究マネジメント、キャリアパス・セミナー、インターンシップ、達成度自己点検など
3. コミュニケーション能力: 学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えるとともに、質問に的確に答えることができるか	医学特殊研究、医学特別演習、中間発表、学会発表・ポスター発表などで全学生が学修する。 その他、国際実践医学研究特論、メディカルコミュニケーション演習、研究発表と討論、医科学国際討論、外国人医学者とのコミュニケーション演習など
4. リーダーシップ力: リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	① 魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか	国際実践医学研究特論、医科学教育実習、キャリアパス・セミナー、大学院共通科目(JAPIC 科目)、プロジェクトの参加経験など
5. 国際性: 国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	医学専門英語、国際実践医学研究特論、メディカルコミュニケーション演習、医科学国際討論、外国人医学者とのコミュニケーション演習、English Topics in Science、外国人(留学生を含む)との共同研究、TOEIC 得点、英語論文など
6. 研究課題設定力: 疾病や生命現象に関する課題を発見し、独創的な研究を生み出す能力	研究対象分野における最新の専門知識に基づいて重要課題を見出し、独創的な研究を考え出すことができるか	医学セミナー、医学特殊研究、医学特別演習、各分野(分子医科学、システム統御医学特、ゲノム環境医学、睡眠医学、臨床病態解明学、臨床外科学、臨床内科学、社会医学、生物統計学)の特論・演習などで全学生が学修する。 その他、臨床試験論、最先端医学研究セミナー、博士論文作成、学会発表など

7. 先端研究遂行力: 疾病や生命現象に関する先端的な研究を計画し完成させる能力	<p>① 最先端の研究手法や異分野の手法を理解し研究に応用することができるか</p> <p>② 研究を完成させるために必要な情報収集、体制構築、交渉などを主体的に行うことができるか</p>	<p>医学セミナー、医学特殊研究、医学特別演習、統合医学研究特論、各分野(分子医科学、システム統御医学特、ゲノム環境医学、睡眠医学、臨床病態解明学、臨床外科学、臨床内科学、社会医学、生物統計学)の特論・演習などで全学生が学修する。</p> <p>その他、各分野の実験実習、最先端医学研究セミナー、臨床試験論、疫学特論、中間審査、博士論文作成、学会発表など</p>
8. 専門知識運用力: 疾病克服や生命現象解明に関する高度な専門知識と運用能力	<p>疾病の克服や生命現象の解明に貢献する基礎医学、臨床医学、および社会医学領域に関する知識を有し的確に運用できるか</p>	<p>医学セミナー、医学特殊研究、医学特別演習、統合医学研究特論で全学生が学修する。</p> <p>その他、橋渡し研究マネージメント、中間審査、学位審査など</p>
9. 倫理観: 疾病克服や生命現象解明に関わる研究者・高度専門職業人にふさわしい高い意識と倫理観	<p>① 疾病の克服や生命現象の解明に対して高い意識と意欲があるか</p> <p>② 医学関連の研究者や高度専門職業人としてふさわしい倫理観と倫理知識を備えているか</p>	<p>医学研究概論、中間審査、学位審査で全学生が学修する。</p> <p>その他、臨床研究方法論、橋渡し研究マネージメント、など</p>
10. 情報発信力: 疾病克服や生命現象解明に関わる研究者・高度専門職業人としての論理的思考力と表現力	<p>母国語および外国語により専門知識を論理的にわかりやすく説明することができるか</p>	<p>各分野(分子医科学、システム統御医学特、ゲノム環境医学、睡眠医学、臨床病態解明学、臨床外科学、臨床内科学、社会医学、生物統計学)の特論・演習、中間審査、学位審査で全学生が学修する。</p> <p>その他、医学専門英語、メディカルコミュニケーション演習、医科学国際討論、研究発表と討論、English Topics in Science、学会発表、など</p>

■ヒューマンバイオロジー学位プログラム（5年一貫制博士課程）

授与する学位の名称	博士(人間生物学) [Doctor of Philosophy in Human Biology]	
人材養成目的	ヒトの生命の維持、適応及び継承のメカニズムを理解し、ヒトの健康に関する地球規模課題の解決に貢献できる複合的専門力と高度な研究能力を修得し、ヒトが人らしく生きる社会の創造を先導できる国際的トップリーダーの資質を持った研究者及び高度専門職業人を育成する。	
養成する人材像	本プログラムを修了した博士人材は、地球規模課題の解決のための国際的合意を形成する為の目利き力(課題抽出能力)、突破力(計画立案能力、論理的説得力)及び任務完結力を備え、産業界・科学行政機関で地球規模課題について国際的に実現可能な解決を先導する人材、問題解決に必要な新業種の起業を推進できる人材、さらには、大学運営に待望されている研究/教育/国際コーディネーター人材となる。	
修了後の進路	本プログラムを修了した博士人材は、産業界はもとより、行政機関などでも地球規模課題について国際的に整合性のある解決を先導し、また、新業種の起業を推進できる人材が育成される。 さらには、大学運営に待望されている研究/教育/国際コーディネーターの資源となる。	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の創成力: 未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	① 新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか	1) 世界のサイエンスリーダーズセミナー、2) 博士論文作成など
2. マネジメント能力: 俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか	1) イニシエーションセミナー、2) 適正技術、起業家マインド育成、海外企業におけるインターンシップ、国際研究室ローテーションのうち2科目以上の選択必修科目、3) ポートフォリオ型達成度評価法 GLidD (Growth & Learning identification powered by Instructional Design) など
3. コミュニケーション能力: 学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えるときに、質問に的確に答えることができるか	1) イニシエーションセミナー、2) ヒューマンバイオロジー特論、3) ヒューマンバイオロジー演習 I、II
4. リーダーシップ力: リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	① 魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか	1) ビジネスリーダーズセミナー、2) 適正技術、起業家マインド育成、海外企業におけるインターンシップ、国際研究室ローテーションのうち2科目以上の選択必修科目など
5. 国際性: 国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	1) 世界のサイエンスリーダーズセミナー、2) ドーミトリーでの外国人(留学生を含む)との共同生活、3) 完全英語プログラム、4) 適正技術、起業家マインド育成、海外企業におけるインターンシップ、国際研究室ローテーションのうち2科目以上の選択必修科目
6. 専門力: 地球規模課題の解決に必要な人間生物学の学力	① 人間生物学の分野において、独創的な研究テーマの設定と優れた研究成果を得られるだけの知識と技能を有するか ② 人間生物学の分野において、多元的方法論を駆使することによって、新たな問題の解決に取り組むことができるか	1) 人体解剖学・発生学、人体病理学・腫瘍学、ヒトの感染・免疫学、ヒトの内分泌・代謝学、ヒューマンバイオロジー研究 I、II、ヒューマンバイオロジー研究室演習 I

7. 目利き力:パラダイムシフトとなりうる課題を自立して発見する能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 新たに生じる未知の課題に対して、その本質を的確に捉えることができるか ② 課題解決に向けて、従来の知識・技能だけに縛られることなく、柔軟で複眼的な発想に基づいた解決方法を提案することができるか 	1)世界のサイエンスリーダーズセミナー、2)ビジネスリーダーズセミナー、3)ポートフォリオ型達成度評価法 GLidD (Growth & Learning identification powered by Instructional Design)
8. 突破力:誠実かつ真摯な態度で課題を解決する能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 未知の問題の本質を突き詰めようとする確固たる意志をもっているか ② 問題解決に向けた計画を立案し、高い意欲と倫理観をもって、粘り強く遂行することができるか ③ リーダーとして、課題解決に向けて適切な人材を集め、ネットワークを構築することができるか 	1)ヒューマンバイオロジー実験実習 II、2)ヒューマンバイオロジー演習 I,II、3)ポートフォリオ型達成度評価法 GLidD (Growth & Learning identification powered by Instructional Design)
9. 完結力:解決した成果を社会に発信し、社会貢献に応用できる能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 研究成果を学術論文にまとめて発表することができるか ② 社会的な規約や経済的な制度を理解した上で、自身の研究成果を知的財産化するとともに、国際的・地域的観点から社会のニーズに当てはめることができるか 	1)ヒューマンバイオロジー研究 I,II、2)論文発表

【スポーツ国際開発学共同専攻】

■スポーツ国際開発学共同専攻（修士課程）

授与する学位の名称	修士(スポーツ国際開発学) [Master of Arts in International Development and Peace through Sport]	
人材養成目的	スポーツを通じて国内外の社会開発を担う人材、我が国の体育教育の制度と実践を理解し、諸外国に支援ができる人材、そして国際平和と友好、青少年教育を促進する国際機関で活躍できる人材を養成する。	
養成する人材像	筑波大学大学院学則および鹿屋体育大学学則に規定する課程の目的を充足した上で、次の能力などを有することが最終試験において認定された者に修士(スポーツ国際開発学)の学位を授与する。 1. 国際情勢と政策及び地球規模課題に対する知識と分析力、使命感 2. グローバルな俯瞰力と実践現場で発揮できるリーダーシップ 3. スポーツ・体育・健康に関する基礎的知識と実践力 4. 国際貢献のためのコミュニケーション能力とマネジメント能力	
修了後の進路	国際機関、国内外のスポーツ関連組織、国内外の開発支援組織、大学等の教育研究機関等、国内外 NGO、NPO 機関、国内外グローバル企業等	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の活用力: 高度な知識を社会に役立てる能力	① 研究等を通じて知を社会に役立てた(または役立てようとしている)か ② 幅広い知識に基づいて、専門分野以外でも問題を発見することができるか	スポーツ国際開発論 I、スポーツ国際開発論 II、オリンピックムーブメント論、日本文化伝播論、スポーツ・文化・社会、上級コーチ教育論、プロジェクトマネジメント論、研究方法論、開発学原論、社会開発のための公共政策、課題研究、中間発表会、修士論文作成、修論審査、学会発表など
2. マネジメント能力: 広い視野に立ち課題に的確に対応する能力	① 大きな課題に対して計画的に対応することができるか ② 複数の視点から問題を捉え、解決する能力はあるか	スポーツ国際開発論 I、スポーツ・文化・社会、プロジェクトマネジメント論、NGO 等プロジェクト、各種 OJP 科目、学会発表、TA 経験、課外活動等コーチ経験、地域スポーツ教室等指導経験など
3. コミュニケーション能力: 専門知識を的確に分かり易く伝える能力	① 研究等を円滑に実施するために必要なコミュニケーションを十分に行うことができるか ② 研究内容や専門知識について、その分野だけでなく異分野の人にも的確かつわかりやすく説明することができるか	各種 OJP 科目、中間発表会、修論審査、学会発表、TA 経験、課外活動等コーチ経験、地域スポーツ教室等指導経験など
4. チームワーク力: チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力	① チームとして協働し積極的に課題に取り組んだ経験はあるか ② 自分の研究以外のプロジェクト等の推進に何らかの貢献をしたか	各種 OJP 科目、NGO 等プロジェクト、学会発表、TA 経験、課外活動等コーチ経験、地域スポーツ教室等指導経験など
5. 国際性: 国際社会に貢献する意識	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する意識があるか ② 国際的な情報収集や行動に必要な語学力を有するか	スポーツ国際開発論 I、スポーツ国際開発論 II、オリンピックムーブメント論、日本文化伝播論、社会開発のための公共政策、留学生との交流、国際会議発表など
6. 国際情勢と政策及び地球規模課題に対する知識と分析力、使命感	国際情勢と政策及び地球規模課題に対する知識と分析力、使命感を身につけているか。	開発学原論、社会開発のための公共政策、国際政治学、アジアにおける開発経済学など
7. グローバルな俯瞰力と実践現場で発揮できるリーダーシップ	グローバルな俯瞰力と実践現場で発揮できるリーダーシップ能力、スポーツ・体育・健康に関する実践力、そして国際貢献のためのコミュニケーション能力とマネジメント能力を身につけているか。	スポーツ国際開発学課題演習、JSC セミナー、JSC プロジェクト、国外大学セミナー、国際カンファレンス・セミナー、スポーツ国際開発論 II、経営マネジメント論、プロジェクトマネジメント論など
8. スポーツ・体育・健康に関する基礎的知識と実践力	スポーツ・体育・健康に関する基礎的知識と実践力の基盤となる知識を身につけているか。	スポーツ国際開発論 I、オリンピックムーブメント論、スポーツマネジメント論、スポーツ・文化・社会、ヘルスプロモーション論、上級コーチ教育論、研究方法論、スポーツ国際開発論 II、経営マネジメント論、プロジェクトマネジメント論など

9. 国際貢献のためのコミュニケーション能力とマネジメント能力	国際貢献のためのコミュニケーション能力とマネジメント能力を身につけているか。	スポーツ国際開発論Ⅱ、経営マネジメント論、プロジェクトマネジメント論など
---------------------------------	--	--------------------------------------

※本専攻は鹿屋体育大学との共同専攻として平成 28 年 4 月に設置したものであり、連携大学との協議に基づきコンピテンス(ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力)を設定しているため、これまでの継続性を踏まえてコンピテンスを維持している。

【大学体育スポーツ高度化共同専攻】

■大学体育スポーツ高度化共同専攻（3年制博士課程）

授与する学位の名称	博士(体育スポーツ学) [Doctor of Philosophy in Physical Education and Sport Studies]	
人材養成目的	体育スポーツ現場の教育と研究の循環を効果的に行える、高等教育における学術的職業人としての高度な体育教員を養成する。	
養成する人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・大学体育スポーツを先導する確かな専門的知識と実技教育能力を持つ人材。 ・大学体育スポーツ現場の実践知を探究し、その研究成果を教育へと循環させることができる実践的研究能力を持つ人材。 ・高等教育における体育スポーツ教育の質保証を先導する高度指導者に必要な教養を持つ人材。 	
修了後の進路	高等教育機関(大学・短大・高专)における体育教員、体育スポーツ関連機関の職員など	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 実践的研究能力：大学体育スポーツ現場における事象を対象として、実践的かつ有用な研究を実施する能力	<ul style="list-style-type: none"> ① オリジナリティが高く、有益な研究テーマを設定できるか ② 的確な仮説の創出と論理的かつ客観的な仮説の検証が行えるか 	大学体育研究演習、体育スポーツ実践的研究方法論、体育スポーツ実践的研究演習Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ、博士論文作成
2. 実践的教育能力：大学体育スポーツの指導場面における教育実践能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 対象者の特性に配慮した適切な授業やトレーニングの実施計画が立案できるか ② 立案した計画を実施、検証、改善する能力があるか 	大学体育論、大学体育授業演習Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ、体育スポーツ実践的指導演習、教師行動分析アプリによる解析
3. コミュニケーション能力：学術的成果の本質を積極的かつわかりやすく伝える能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えたとともに、質問に的確に答えることができるか 	大学体育研究演習、学会発表、ポスター発表など
4. 国際性：国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	<ul style="list-style-type: none"> ① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか 	つくばサマーインスティテュート、国外での活動経験、外国人(留学生を含む)との共同研究、TOEIC 得点、国際会議発表、英語論文など
5. 倫理観：大学体育スポーツの指導者としての高い倫理観	<ul style="list-style-type: none"> ① 指導対象の人権を尊重し、常に公平公正な指導が行えるか ② 社会的規範を遵守し、指導者としての自覚を常に持っているか 	コーチングの哲学と倫理、課外活動指導実績

※本専攻は鹿屋体育大学との共同専攻として平成 28 年 4 月に設置したものであり、連携大学との協議に基づきコンピテンス(ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力)を設定しているため、これまでの継続性を踏まえてコンピテンスを維持している。

【国際連携食料健康科学専攻】

■国際連携食料健康科学専攻（修士課程）

授与する学位の名称	修士(食料健康科学) [Master of Agro-Biomedical Science in Food and Health]	
人材養成目的	人類が地球規模で直面する健康の維持・増進や食料の安全供給等の課題に対して、「医食同源」の理念に基づき、食料が健康に及ぼす影響を科学的に理解し、グローバル社会のニーズと研究開発を橋渡しすることのできる専門力と実践力を備えた国際的な高度専門職業人を養成する。	
養成する人材像	<p>次の知識・能力を備えた人材を養成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リテラシー: 専門性に裏付けされた分野横断的な思考力、専門的知識・能力を活用する語学力 ・コーディネーション力: 海外フィールドにおける目利き力・企画力、多国籍間における対話・交渉力、異分野、異業種間でのマネジメント能力 ・実践力: アイデアを具体化・実行する実践力、プレゼンテーションや自己アピールなど表現力 ・健康と食資源を結びつける力: 生物資源の機能性、医学的利用に関する知識、食品由来の疾患や生理的障害に関する知識、食資源や医療にかかわる政策に関する知識 ・健康安全保障問題を捉える力: 食資源や医薬品を含めた化学物質の安全性を含む社会医学に関する知識 ・食料安全保障問題を捉える力: 生物資源の評価開発(安全性を含む)と持続的食料生産体系の利用に関する知識 	
修了後の進路	<ul style="list-style-type: none"> ・海外展開の強化を計画する食品・製薬会社等において、「食と健康」に関する新たな社会的ニーズを理解し、国内外の市場・事業所と研究開発現場の橋渡しをする国際コーディネーターや技術コーディネーター ・国際的に事業展開している食料・酒類・漢方薬等を取り扱う商社・流通会社において、食品安全性、食料安定供給、健康維持などの「食と健康」にかかわる社会的ニーズを医科学及び農学双方の視点で理解することができるマーケティング担当 ・農林水産省などの行政機関における食料の輸出入管理部門、植物防疫所、動物検疫所 ・上記業種に関連するシンクタンク・コンサルタント会社におけるアナリスト 等 	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. リテラシー: 分野横断的思考力、語学力	<ul style="list-style-type: none"> ① 専門性に裏付けされた分野横断的な思考力があるか ② 専門的知識・能力を活用する語学力があるか 	食料健康科学概論、食料健康科学演習、インターンシップ、フィールドと実験室の融合、キャリアパス・セミナー、専門英語、達成度自己評価、特定課題研究の作成と発表
2. コーディネーション力: 目利き力・企画力、対話・交渉力、マネジメント能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 海外フィールドにおける目利き力・企画力があるか ② 多国籍間における対話・交渉力があるか ③ 異分野、異業種間でのマネジメント能力があるか 	アントレプレナーシップトレーニング、フィールドと実験室の融合、インターンシップ、キャリアパス・セミナー、達成度自己評価、特定課題研究の作成と発表
3. 実践力: 実践力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ① アイデアを具体化・実行する実践力があるか ② プレゼンテーションや自己アピールなど表現力 	アントレプレナーシップトレーニング、フィールドと実験室の融合、インターンシップ、キャリアパス・セミナー、達成度自己評価、特定課題研究の作成と発表
4. 健康と食資源を結びつける力	<ul style="list-style-type: none"> ① 生物資源の機能性、医学的利用に関する知識があるか ② 食品由来の疾患や生理的障害に関する知識があるか ③ 食資源や医療にかかわる政策に関する知識があるか 	食料健康科学概論、食料システム学特論、橋渡し研究概論、オミクスとバイオインフォマティクスの食料健康科学への応用、欧州における食品安全・保健政策、栄養・マイクロバイオーーム・免疫、栄養・生体制御と主要疾患、水性および食源性微生物病と食習慣、グローバルヘルス諸課題、応用微生物学、分子栄養学、食品安全と健康、達成度自己評価、特定課題研究の作成と発表など

5. 健康安全保障問題を捉える力	食資源や医薬品を含めた化学物質の安全性を含む社会医学に関する知識があるか	食料健康科学概論、基礎毒性学、環境医学概論、ガンの生物学、保健医療政策学、健康研究メソッドの原理と応用、環境と産業衛生、生体分子の細胞ネットワーク、疾病負荷の測定:方法と応用、達成度自己評価、特定課題研究の作成と発表
6. 食料安全保障問題を捉える力	生物資源の評価開発(安全性を含む)と持続的食料生産体系の利用に関する知識があるか	食料健康科学概論、グローバルフードセキュリティ特論、グリーンバイオテクノロジー、農業生産への環境ストレスの影響、植物育種学の最先端とその利用、動物性食材の品質管理、台湾農業、乳製品のバイオテクノロジー、達成度自己評価、特定課題研究の作成と発表など

※本専攻は外国大学とのジョイントディグリープログラムとして平成 29 年 9 月に設置したものであり、連携外国大学との協議に基づきコンピテンス(ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力)を設定しており、かつ、年次進行期間中であるため、設置時に設定したコンピテンスを維持している。

○国立大学法人筑波大学本部等職員就業規則（抜粋）

第10章 定年、退職及び解雇

第1節 定年

（定年）

第68条 職員が、定年に達したときは、定年に達した日以後における最初の3月31日に退職する。ただし、第5条の規定により期間を定めて採用された職員を除く。

2 前項の定年は、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 大学教員及び研究職員 満65歳
- (2) 労務職員（炊婦） 満63歳
- (3) 前2号以外の職員 満60歳

3 前2項の規定にかかわらず、任命権者が特に必要と認める場合には、別に定年を定めることができる。

（定年延長）

第69条 法人は、定年に達した職員が前条第1項の規定により退職すべきこととなる場合において、当該職員の職務の特殊性若しくは職務の遂行上の特別の事情からみて当該退職により業務の運営に著しい支障が生ずると認めるに十分な理由があるとき又は当該大学教員が教育研究上極めて顕著な業績を有すると認めるときは、同項の規定にかかわらず、1年を超えない期間で定年退職日を定め、その勤務を延長することができる。

2 前項の規定による勤務の延長は、同項の規定にかかわらず、最初の更新の日から3年を超えない期間で更新することができる。

（定年によらない職員の雇用の上限年齢）

第69条の2 第68条第1項ただし書きの職員の雇用の上限年齢は、第68条第2項に規定する年齢（以下、この条において「上限年齢」という。）とし、当該年齢に達した日以後における最初の3月31日に退職する。ただし、任命権者が特に必要と認める者にあつては、上限年齢を超えて雇用することができるものとする。

資料 4

各学位プログラム・専攻における 履修モデル

人間総合科学学術院

履修モデル一覧

○ 人間総合科学研究群

(博士前期課程)

- 教育学学位プログラム 国際教育サブプログラム
- 教育学学位プログラム 次世代学校教育創成サブプログラム
(テーマ：スクールマネジメント)
- 教育学学位プログラム 次世代学校教育創成サブプログラム
(テーマ：STEAM 教育開発)
- 教育学学位プログラム 教育基礎科学サブプログラム
- 心理学学位プログラム 心理基礎科学サブプログラム
- 心理学学位プログラム 心理臨床学サブプログラム
- 障害科学学位プログラム 心理・福祉支援専門家
- 障害科学学位プログラム 特別支援教育教師
- 障害科学学位プログラム 後期課程進学者（研究者）
- カウンセリング学位プログラム
- リハビリテーション科学学位プログラム
- フロンティア医科学学位プログラム ※①～③の3例
- 公衆衛生学学位プログラム
- ニューロサイエンス学位プログラム 研究
- ニューロサイエンス学位プログラム 職業
- 看護科学学位プログラム 研究基礎課程
- 看護科学学位プログラム 専門看護師養成課程（家族看護）
- 看護科学学位プログラム 専門看護師養成課程（がん看護）
- 看護科学学位プログラム 専門看護師養成課程（精神看護）
- 看護科学学位プログラム 専門看護師養成課程（慢性看護）
- 看護科学学位プログラム 助産師養成課程
- 体育学学位プログラム スポーツ文化・経営政策
- 体育学学位プログラム 健康・スポーツ教育系列
- 体育学学位プログラム ヘルスフィットネス系列
- 体育学学位プログラム アスレティックコンディショニング系列
- 体育学学位プログラム コーチング系列
- 体育学学位プログラム ナショナルリーディングコーチ系列
- スポーツ・オリンピック学学位プログラム
- スポーツウエルネス学学位プログラム スポーツプロモーション領域

- スポーツウエルネス学学位プログラム ヘルスプロモーション領域
- 芸術学学位プログラム
美術史、芸術支援、洋画、日本画、版画、彫塑、書、構成、総合造形、工芸、ビジュアルデザイン、環境デザインの12例
- デザイン学学位プログラム
- 世界遺産学学位プログラム
- 情報学学位プログラム ①メディアサイエンス
- 情報学学位プログラム ②情報インタラクション
- 情報学学位プログラム ③図書館情報学
- 情報学学位プログラム ④社会人東京
- 情報学学位プログラム ⑤秋入学
- ライフイノベーション（病態機構）学位プログラム
- ライフイノベーション（創薬開発）学位プログラム

（博士後期課程）

- 教育学学位プログラム 履修モデル（研究者）
- 教育学学位プログラム 履修モデル（研究型高度専門職業人）
- 心理学学位プログラム 心理基礎科学サブプログラム
- 心理学学位プログラム 心理臨床学サブプログラム
- 障害科学学位プログラム
- カウンセリング科学学位プログラム
- リハビリテーション科学学位プログラム
- ヒューマン・ケア科学学位プログラム
- パブリックヘルス学位プログラム
- ニューロサイエンス学位プログラム
- 看護科学学位プログラム
- スポーツ医学学位プログラム
- 体育科学学位プログラム
- 体育科学学位プログラム 次世代健康スポーツ科学履修モデル
- スポーツウエルネス学学位プログラム
- コーチング学学位プログラム
- 芸術学学位プログラム
- デザイン学学位プログラム
- 世界遺産学学位プログラム
- 情報学学位プログラム履修モデル ①春入学
- 情報学学位プログラム履修モデル ②秋入学

- ライフイノベーション学位プログラム（病態機構）
- ライフイノベーション学位プログラム（創薬開発）

（医学を履修する博士課程）

- 医学学位プログラム ※①～③の3例

（5年一貫制博士課程）

- ヒューマンバイオロジー学位プログラム

- スポーツ国際開発学共同専攻（修士課程） ※①～②の2例
- 大学体育スポーツ高度化共同専攻（3年制博士課程） ※①～③の3例
- 国際連携食料健康科学専攻（修士課程） ※①～③の3例

人間総合科学研究群

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群
 教育学学位プログラム(博士前期課程) 国際教育サブプログラム 履修モデル

養成する人材像	国内外の教育行政機関、学校、社会教育・生涯学習機関、NPO等の教育関連組織等で教育活動や人材育成をリードする研究力のある高度専門職業人								
修了後の進路	国内外の行政機関・国際機関等								
指導教員の例	【主】藤田 晃之(本学位プログラム主担当) 【副】川口 純(本学位プログラム主担当)								
年次・学期	1年次				2年次				単 位 得 数
科目区分	春学期		秋学期		春学期		秋学期		
学術院共通専門基盤科目／研究群共通科目	人間総合科学基礎論 研究のビジュアルデザイン	1 1							2
基礎科目	教育学理論研究 次世代教育開発研究	1 1	Theory of International Education	1					3
専門基礎科目	Education and an Interconnected World Research Methodology Research Design and Methods Pedagogy for a Changing World I Assessment for Learning I	2 1 2 2 2	Pedagogy for a Changing World II Assessment for Learning II	2 2	Curriculum as Process I Education in Japan: Principles Policies and Practice I	2 1	Curriculum as Process II	2	18
専門科目	International Baccalaureate Education Graduate Seminar I (通年)			3	International Baccalaureate Education Graduate Seminar II (通年) International Baccalaureate Education Graduate Seminar III (通年)			3 3	9
修得単位数	13		8		3		8		32
	21				11				
授業科目以外の学修	・学会参加		・学会参加		・修士論文の作成 ・学会参加		・修士論文の作成 ・学会参加		

※数字は単位数を表す。

※上記に掲げる科目のほか、個々の学生の学修歴等に応じて大学院共通科目の履修を推奨。

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群

教育学学位プログラム(博士前期課程) 次世代学校教育創成サブプログラム 履修モデル(テーマ:スクールマネジメント)

養成する人材像	国内外の行政機関・国際機関や学校等において教育学の学術的アプローチを用いて教育政策の効果分析、政策形成、教育開発援助等に従事し、次世代の学校教育を構想し設計する研究力のある高度専門職業人							
修了後の進路	国内外の教育行政機関、学校、社会教育・生涯学習機関、NPO等の教育関連組織等							
指導教員の例	【主】濱田博文(本学位プログラム主担当) 【副】佐藤有耕(心理学位プログラム主担当、本学位プログラム副担当)							
科目区分	1年次		2年次				単 位 修 得 数	
	春学期		秋学期		春学期			秋学期
学術院共通専門基盤科目／研究群共通科目	人間総合科学基礎論	1						1
基礎科目	教育学理論研究	1	Theory of International Education	1				3
	次世代教育開発研究	1						
専門基礎科目	学校心理学	2	学校教育論	2				19
	スクールリーダーシップ論	2	学習指導と授業	2				
	青年の発達	2	学習と学級の心理	2				
	学校経営事例研究	2						
	学校安全と危機管理	2						
	Education in Japan: Principles Policies and Practice I	1						
学校経営学特講				2				
専門科目	次世代教育研究Ⅰ(通年)			3	次世代教育研究Ⅱ(通年)			3
					次世代教育研究Ⅲ(通年)			3
修得単位数	14		12				6	32
	26				6			
授業科目以外の学修	・学会参加		・学会参加		・修士論文の作成 ・学会参加		・修士論文の作成 ・学会参加	

※数字は単位数を表す。

※上記に掲げる科目のほか、個々の学生の学修歴等に応じて大学院共通科目の履修を推奨。

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群

教育学学位プログラム(博士前期課程) 次世代学校教育創成サブプログラム 履修モデル(テーマ:STEAM教育開発)

養成する人材像	国内外の行政機関・国際機関や学校等において教育学の学術的アプローチを用いて教育政策の効果分析、政策形成、教育開発援助等に従事し、次世代の学校教育を構想し設計する研究力のある高度専門職業人							
修了後の進路	国内外の教育行政機関、学校、社会教育・生涯学習機関、NPO等の教育関連組織等							
指導教員の例	【主】清水美恵(本学位プログラム主担当) 【副】川村一宏(数学学位プログラム主担当、本学位プログラム副担当)、石崎和宏(本学位プログラム主担当)							
年次・学期	1年次				2年次			単 位 修 得 数
科目区分	春学期		秋学期		春学期		秋学期	
学術院共通専門基盤科目／研究群共通科目	人間総合科学基礎論	1	Introduction to Environmental Sciences (理工情報生命学術院開設科目)	1				2
基礎科目	教育学理論研究 次世代教育開発研究	1 1	Theory of International Education	1				3
専門基礎科目	数学教育研究方法論 現代数学基礎A 現代数学特別研究A 理科教育基礎論 理科教育学習論 生涯学習論	2 1 1 2 1 2	数学教育学習論 数学教育カリキュラム論 現代数学基礎B 現代数学基礎C 現代数学特別研究B 現代数学特別研究C デザインイノベーション特講 (デザイン学学位プログラム開設科 国際・多文化教育論	2 2 1 1 1 2 2	平面・立体構成論特講 (芸術学学位プログラム開設科目) 画像表現論特講 (芸術学学位プログラム開設科目) デザイン思考 (デザイン学学位プログラム開設科	1 2 2		26
専門科目	数学教育学研究Ⅰ(通年)			3	数学教育学研究Ⅱ(通年) 数学教育学研究Ⅲ(通年)		3 3	9
修得単位数	12		17		5		6	40
	29				11			
授業科目以外の学修	・学会参加		・学会参加		・修士論文の作成 ・学会参加		・修士論文の作成 ・学会参加	

※数字は単位数を表す。

※上記に掲げる科目のほか、個々の学生の学修歴等に応じて大学院共通科目の履修を推奨。

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群
教育学学位プログラム(博士前期課程) 教育基礎科学サブプログラム 履修モデル

養成する人材像	国内外の大学・研究機関等において教育学の基礎的・基盤的な諸分野の教育・研究に従事する研究者								
修了後の進路	国内外の大学・研究機関等								
指導教員の例	【主】藤井穂高(本学位プログラム主担当) 【副】上田孝典(本学位プログラム主担当)								
科目区分	1年次				2年次				単 位 修 得 数
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		
学術院共通専門基盤科目 ／研究群共通科目	人間総合科学基礎論	1							2
	哲学プラクティスA(人文社会ビジネス科学学術院開設科目)	1							
基礎科目	教育学理論研究	1	Theory of International Education	1					3
	次世代教育開発研究	1							
専門基礎科目	教育制度学特講			2	教育制度学演習			2	18
	生涯学習・社会教育学特講			2	生涯学習・社会教育学演習			2	
	比較・国際教育学特講			2	比較・国際教育学演習			2	
	カリキュラム論特講			2	カリキュラム論演習			2	
	教育方法学特講			2					
専門科目	教育学研究Ⅰ(通年)			3	教育学研究Ⅱ(通年)			3	9
					教育学研究Ⅲ(通年)			3	
修得単位数	4		14				14		32
	18				14				
授業科目以外の学修	・学会参加		・学会参加		・修士論文の作成 ・学会参加		・修士論文の作成 ・学会参加		

※数字は単位数を表す。

※上記に掲げる科目のほか、個々の学生の学修歴等に応じて大学院共通科目の履修を推奨。

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群
心理学学位プログラム(博士前期課程) 心理基礎科学サブプログラム 履修モデル

養成する人材像	心理学領域の専門的研究職として確固たる視点を獲得した上で、人間を総体として客観的に理解する能力、心の多様性と普遍性を理解する能力、人間と環境との相互作用を理解する能力を基に、人間に関する専門研究者として社会貢献する能力を持つ人材を養成する。心理学領域の専門研究者となる人材養成に加えて、心理基礎科学サブプログラムでは、心理学領域全体の広い視野を持ちつつ、習得した心理学の方法論や知識・技能によって広く社会の活動に直接的に貢献できる高度専門職業人としての人材を養成する。								
修了後の進路	自立した研究者となるための大学院博士後期課程への進学, あるいは, 自治体, コンサルティング会社や教育関係民間研究所での心理学専門職, あるいは製造・流通業その他広く民間企業における人間に関わる研究をベースとする心理学専門職など。								
指導教員の例	【主】原田 悦子(本学位プログラム主担当) 【副】大山 潤嗣(産総研連携大学院:本学位プログラム主担当)								
科目区分	1年次				2年次				単 位 修 得 数
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		
学術院共通専門基盤科目 / 研究群共通科目	人間総合科学基礎論	1							1
基礎科目	心理学方法論 I	2	心理学方法論II	2	心理学特別研究A	2	心理学特別研究B	2	11
	心理学先端研究1(集中)	1	心理学キャリア形成(集中)	1					
			心理学インターンシップ	1					
専門科目	心理基礎科学演習 I	2	心理基礎科学演習 II	2	心理基礎科学演習 III	2	心理基礎科学演習 IV	2	25
	心理統計学特講	2	認知心理学特講	2					
	教育心理学特講	2	学習心理学特講	2					
	社会心理学特講	2	行動デザイン特講	2					
	神経科学基礎論C	2							
	神経科学基礎論D	2							
	心理基礎科学英語1	1							
修得単位数	17		12		4		4		37
	29				8				
授業科目以外の学修	修士論文第1次指導会・参加		修士論文第2次指導会/発表会・参加		修士論文第1次指導会・発表		修士論文第2次指導会・発表 修士論文提出, 最終発表会・発表		

※数字は単位数を表す。

※上記に掲げる科目のほか、個々の学生の学修歴等に応じて大学院共通科目の履修を推奨。

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群
心理学学位プログラム(博士前期課程) 心理臨床学サブプログラム 履修モデル

養成する人材像	心理学領域の専門的研究職として確固たる視点を獲得した上で、人間を総体として客観的に理解する能力、心の多様性と普遍性を理解する能力、人間と環境との相互作用を理解する能力を基に、人間に関する専門研究者として社会貢献する能力を持つ人材を養成する。心理学領域の専門研究者となる人材養成に加えて、心理基礎科学サブプログラムでは、心理学領域全体の広い視野を持ちつつ、習得した心理学の方法論や知識・技能によって広く社会の活動に直接的に貢献できる高度専門職業人としての人材を、また心理臨床学サブプログラムでは、総合的・多面的に心理臨床学を創造的に発展させる能力と実践的に応用するための技術を兼ね備え、豊富な臨床実習経験を生かせる高度専門職業人としての人材を養成する。								
修了後の進路	自立した研究者となるための大学院博士後期課程への進学、あるいは公認心理師、臨床心理士の資格を得た上で、都道府県や市町村の公務員(心理職、一般職)、家庭裁判所(調査官補)、病院や精神科クリニック、その他、心理臨床学の実践が必要とされる職場での心理専門職、等。								
指導教員の例	【主】濱口 佳久(本学位プログラム担当) 【副】松田 壮一郎(本学位プログラム担当)								
年次・学期	1年次				2年次		単修 数 位 得		
科目区分	春学期		秋学期		春学期			秋学期	
大学院共通専門基礎科目／研究群共通科目	人間総合科学基礎論	1					1		
基礎科目	心理学方法論 I 心理学先端研究1(集中)	2 1	心理学方法論II 心理学キャリア形成(集中)	2 1	心理学特別研究A	2	心理学特別研究B 2	10	
専門科目	サブプログラム 共通 専門科目	臨床心理基礎実習 臨床心理査定演習 I (心理的アセスメントに関する理論と実践) 臨床心理学特講 I 臨床心理面接特講 I (心理支援に関する理論と実践) 臨床心理面接特講 II	(通年) (通年)	臨床心理基礎実習 臨床心理査定演習 I (心理的アセスメントに関する理論と実践) (通年) 臨床心理学特講 II	2 2 2	臨床心理実習 I (心理実践実習II C) 臨床心理査定演習 II	2 2	臨床心理実習 II 2	40
	領域専門科目	アセスメント心理学特講I 産業臨床心理学特講(産業・労働分野に関する理論と支援の展開Y) 学校心理学特講(教育分野に関する理論と支援の展開Z) 老年心理学特講 障害福祉学特講 I (障害福祉支援の理論と方法) 非行・犯罪心理学(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	2 2 2 2 1 2	アセスメント心理学特講II 児童臨床心理学特講(教育分野に関する理論と支援の展開X) 神経心理学特講(保健医療分野に関する理論と支援の展開Y) 精神医学(保健医療分野に関する理論と支援の展開X) 障害福祉学特講 II (障害福祉支援の理論と方法) 臨床心理家族・地域援助特講(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	2 2 1 1 1 2	心理臨床 I	1	心理臨床 II 1	
修得単位数	21		18		7		5	51	
	39				12				
授業科目以外の学修	修士論文第1次指導会・参加		修士論文第2次指導会/発表会・参加		修士論文第1次指導会・発表		修士論文第2次指導会・発表 修士論文提出、最終発表会・発表		

※数字は単位数を表す。

※上記に掲げる科目のほか、個々の学生の学修歴等に応じて大学院共通科目の履修を推奨。

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群
 障害科学学位プログラム(博士前期課程) 心理・福祉支援専門家 履修モデル

養成する人材像	障害科学の基礎的、実践的な知識技能に基づいて、障害の本質の解明、また障害特性の解明を通して支援技術の開発・応用に携わることができる人材。						
修了後の進路	障害のある人を対象とした療育機関や福祉施設の高度な専門性を有する職員						
指導教員の例	【主】野呂 文行(本学位プログラム主担当) 【副】熊谷 恵子(本学位プログラム主担当)、岡崎 慎治(本学位プログラム主担当)						
年次・学期	1年次				2年次		単 位 修 得 数
科目区分	春学期		秋学期		春学期	秋学期	
基礎科目	障害科学調査・実験実習Ⅰ	1	障害科学調査・実験実習Ⅱ	1	障害科学研究法Ⅰ 障害科学研究法Ⅱ 障害科学研究法Ⅲ	1 1 1	5
専門科目(共通)	臨床発達心理学	2	行動障害指導法特講	2			18
	教育臨床発達援助論	2	知的・発達障害心理学特講	2			
	行動問題面接指導法特講	2					
	臨床発達心理査定法特講	2					
	行動臨床心理学	2					
	知的・発達障害指導法特講	2					
	障害学生支援学特講	1	障害学生支援学演習	1			
専門科目	知的・発達・行動障害学特講Ⅰ	1	知的・発達・行動障害学特講Ⅱ	1	知的・発達・行動障害学演習Ⅲ	3	7
	知的・発達・行動障害学演習Ⅰ		1				
	知的・発達・行動障害学演習Ⅱ		1				
修得単位数	15		9		6		30
	24				6		
授業科目以外の学修	各教員が実施している障害相談室における療育活動に参加し、教員のスーパーバイズのもとで臨床実習を行い、ケースレポートを作成・報告する。						

※数字は単位数を表す。

※上記に掲げる科目のほか、個々の学生の学修歴等に応じて大学院共通科目、学術院共通専門基盤科目、研究群共通科目等の履修を推奨。

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群
 障害科学学位プログラム(博士前期課程) 特別支援教育教師履修モデル

養成する人材像	障害科学の基礎的、実践的な知識技能に基づいて、障害の本質の解明、また障害特性の解明を通して支援技術の開発・応用に携わることができる人材。				
修了後の進路	特別支援学校や特別支援学級・通級指導教室の高度な専門性を有する教員				
指導教員の例	【主】柘植 雅義(本学位プログラム主担当) 【副】原島 恒夫(本学位プログラム主担当)、米田 宏樹(本学位プログラム主担当)				
科目区分	1年次		2年次		単 位 数
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
基礎科目	障害科学調査・実験実習Ⅰ	1	障害科学調査・実験実習Ⅱ	1	7
	海外特別研修セミナー		2	障害科学研究法Ⅰ 障害科学研究法Ⅱ 障害科学研究法Ⅲ	
専門科目(共通)	特別支援教育総論	2	知的障害指導法	1	
	知的障害教育学	1	障害学生支援学演習	1	
	知的障害心理学	1	知的・発達障害心理学特講	2	
	知的障害病態生理学	1			
	特別支援教育学	1			
	障害学生支援学特講	1			
	知的・発達障害指導法特講	2			
特別支援学校教育実習		3			
専門科目	知的・発達・行動障害学特講Ⅰ	1	知的・発達・行動障害学特講Ⅱ	1	3
	知的・発達・行動障害学演習Ⅰ		1	知的・発達・行動障害学演習Ⅲ	7
	知的・発達・行動障害学演習Ⅱ		1		
修得単位数	11	13	0	6	30
	25		6		
授業科目以外の学修	研究倫理に関する研修会	修士論文デザイン発表会		修士論文中間発表会・最終発表会	

※数字は単位数を表す。

※上記に掲げる科目のほか、個々の学生の学修歴等に応じて大学院共通科目、学術院共通専門基盤科目、研究群共通科目等の履修を推奨。

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群
 障害科学学位プログラム(博士前期課程) 後期課程進学者(研究者)履修モデル

養成する人材像	障害科学の基礎的、実践的な知識技能に基づいて、障害の本質の解明、また障害特性の解明を通して支援技術の開発・応用に携わることができる人材。					
修了後の進路	博士後期課程に進学して、高等教育機関の教員あるいは独立行政法人等における研究者					
指導教員の例	【主】川間 健之介(リハビリテーション科学学位プログラム主担当、本学位プログラム副担当) 【副】竹田 一則(本学位プログラム主担当)、名川 勝(本学位プログラム主担当)					
年次・学期	1年次			2年次		単 位 得 数
科目区分	春学期	秋学期	春学期	秋学期		
基礎科目	障害科学調査・実験実習Ⅰ 1	障害科学調査・実験実習Ⅱ 1	障害科学研究法Ⅰ 1 障害科学研究法Ⅱ 1 障害科学研究法Ⅲ 1		7	
	海外特別研修セミナー 2					
専門科目(共通)	障害学生支援学特講 Special Lecture on Disability Sciences 1 特別支援教育学 1	障害学生支援学演習 1			4	
専門科目	運動障害学特講Ⅰ 1 病弱特講Ⅰ 1 知的・発達・行動障害学特講Ⅰ 1 言語障害学特講Ⅰ 1	運動障害学特講Ⅱ 1 病弱特講Ⅱ 1 知的・発達・行動障害学特講Ⅱ 1 言語障害学特講Ⅱ 1	運動障害学演習Ⅲ 3		19	
	運動障害学演習Ⅰ 1 運動障害学演習Ⅱ 1 病弱演習Ⅰ 1 病弱演習Ⅱ 1 知的・発達・行動障害学演習Ⅰ 1 知的・発達・行動障害学演習Ⅱ 1 言語障害学演習Ⅰ 1 言語障害学演習Ⅱ 1	1				
修得単位数	8	16	0	6	30	
	24		6			
授業科目以外の学修	研究倫理に関する研修会	修士論文デザイン発表会	修士論文中間発表会・最終発表会			

※数字は単位数を表す。

※上記に掲げる科目のほか、個々の学生の学修歴等に応じて大学院共通科目、学術院共通専門基盤科目、研究群共通科目等の履修を推奨。

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群
 カウンセリング学位プログラム(博士前期課程) 履修モデル

養成する人材像	自らの持つ豊富な職業経験を基盤としながら、心理学領域の中のカウンセリングに関する領域に焦点を当てて学修することにより、そこに関連する総合的な学識・技法を身につけ、倫理的な配慮の下に実践や研究を立案・実施する能力を持ち、直面している問題を総合的に検討し問題解決することができる、カウンセリングの総合的な能力及び研究分析能力を自らの職業環境の中で、問題解決に活用できる人材を養成する。								
修了後の進路	本学位プログラムを修了した人材は、医療・教育・福祉・産業・司法等の領域において、カウンセリング関連の総合的な力を発揮し、支援対象者や職場等の精神的な健康に資する取り組みを行うことのできる指導的な立場として活躍する人材を養成する。また、博士後期課程へ進学し、更に研究を深め、教育や研究に携わる人材を養成する。								
指導教員の例	【主】大川 一郎(本学位プログラム主担当) 【副】藤生 英行(本学位プログラム主担当)、大塚 泰正(本学位プログラム主担当)								
科目区分	1年次				2年次				単 位 修 得 数
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		
基礎科目	カウンセリング方法論基礎Ⅰ	通年	カウンセリング方法論基礎Ⅰ	1	カウンセリング研究法Ⅰ	通年	カウンセリング研究法Ⅰ	1	5
	カウンセリング方法論基礎Ⅱ	通年	カウンセリング方法論基礎Ⅱ	1	カウンセリング研究法Ⅱ	通年	カウンセリング研究法Ⅱ	1	
	カウンセリング方法論基礎Ⅲ	通年	カウンセリング方法論基礎Ⅲ	1					
専門科目	カウンセリング心理学	2	ヘルピング・スキル	2	カウンセリング特別研究Ⅰ	通年	カウンセリング特別研究Ⅰ	1	29
	生涯発達臨床心理学Ⅰ	2	学校心理学	2	カウンセリング特別研究Ⅱ	通年	カウンセリング特別研究Ⅱ	1	
	生涯発達臨床心理学Ⅱ	2	カウンセリング方法論	2	カウンセリング特別研究Ⅲ	通年	カウンセリング特別研究Ⅲ	1	
	社会調査法	2	組織心理学	2					
	グループプロセス	2	キャリア心理学	2					
	心理・教育統計法	2	非行・犯罪心理学 データ解析法	2 2					
修得単位数	12		17				5		34
	29				5				
授業科目以外の学修	修士論文作成・学会発表等		修士論文作成・学会発表等		修士論文作成・学会発表等		修士論文作成・学会発表等		

※数字は単位数を表す。

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群
リハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程) 履修モデル

養成する人材像	本学位プログラムにおいては、現職社会人が職場において遭遇し、かつ早急にその解決が求められている諸問題について、広い視野での対応と発展に必要な、総合的・包括的リハビリテーションに関する総合的な能力を有する人材を養成する。とくに、総合的・包括的リハビリテーション領域の中でも現場の課題の科学的解決に関わる実践的な研究能力・開発能力の高い高度専門職業人や大学教員などを養成する。								
修了後の進路	社会人大学院生を対象にすることから、現職場(医療・保健機関、福祉・相談施設、学校関係(特別支援学校や特別支援学級を含む)、リハビリテーション従事者養成機関、職業センターや障害者を雇用する企業、法律・行政機関など)において国内・国外のリハビリテーションの指導者の立場で活躍することを目的とする。さらに、修了後、博士課程に進学し、大学や専門学校等に転じて教育・研究分野で活躍することもあわせて目的とする。								
指導教員の例	【主】小澤 温(本学位プログラム主担当) 【副】川間 健之介(本学位プログラム主担当)、佐島 毅(本学位プログラム主担当)								
年次・学期	1年次				2年次				単 位 得 数
科目区分	春学期		秋学期		春学期		秋学期		
基礎科目	リハビリテーション方法論基礎Ⅰ*	1	リハビリテーション方法論基礎Ⅲ	1	リハビリテーション研究法Ⅰ	通年	リハビリテーション研究法Ⅰ	1	18
	リハビリテーション方法論基礎Ⅱ	通年	リハビリテーション方法論基礎Ⅱ	1	リハビリテーション研究法Ⅱ	通年	リハビリテーション研究法Ⅱ	1	
	リハビリテーション概説	2			リハビリテーション特別研究	通年	リハビリテーション特別研究	1	
	リハビリテーション研究基礎論	1							
	医学的リハビリテーション	1							
	特別支援教育特講	1							
	ダイバーシティ概論	1							
	職業リハビリテーション	1							
	地域リハビリテーション	2							
	統計学	3							
専門科目	リハビリテーション課題研究	通年	リハビリテーション課題研究	1	職業指導論	1	高齢障害学特論	1	14
	障害者福祉論	1	知的障害学特論	2			リハビリテーション事例研究	2	
	運動障害学特論	2	運動障害学演習	1					
	リハビリテーションカウンセリング	1	言語障害学特論	2					
修得単位数	17		8		1		6		32
	25				7				
授業科目以外の学修	修士論文作成 学会発表 達成度自己点検 研究会や研修会への参加 APRIN 等		修士論文作成 学会発表 達成度自己点検 研究会や研修会への参加 APRIN 等		修士論文作成 学会発表 達成度自己点検 研究会や研修会への参加 APRIN 等		修士論文作成 学会発表 達成度自己点検 研究会や研修会への参加 APRIN 等		

※数字は単位数を表す。 *は人間総合科学学術院共通専門基盤科目としても位置付けられる科目を表す。

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群
 フロンティア医科学学位プログラム(修士課程) 履修モデル①

養成する人材像	・医科学全般の基盤的知識と専門領域の深い学識と研究能力をもって大学等の教育研究機関において医科学分野での研究の推進や新分野の開拓に貢献し得る人材 ・医科学全般の基礎的知識と社会ニーズに合わせた専門領域の知識をもって医療に関係する企業等において研究開発や医療関連業務に携わる人材 ・医科学全般の基礎的知識と専門領域の実践的な知識をもって医療機関等において医療の安全や健康増進に資することができる人材						
修了後の進路	・博士課程への進学 ・大学、研究所及び公的機関での教育及び研究職 ・製薬、食品、医療機器等を含む企業への就職 ・福祉関係の施設での専門職						
指導教員の例	【主】入江 賢児(本学位プログラム主担当), 【副】大根田 修(本学位プログラム主担当), 久武 幸司(本学位プログラム主担当)						
科目区分	1年次		2年次			単 位 修 得 数	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期			
基礎科目	医学英語Ⅰ 1 研究マネジメント基礎 1 人体構造学概論 2 人体生理学特論 1 生化学特論 1	医学英語Ⅱ 1	医科学特別演習 8			21	
	インターンシップⅠ 1 医科学セミナーⅡ(生化学、分子生物学) 1 医科学セミナーⅤ(キャリアパス) 1 基礎医科学演習 3						
専門基礎科目	人体病理学概論 2 Scientific Ethics 1 実験動物科学特論・同実習 2 内科学概論 2						7
専門科目		腫瘍学 2					2
修得単位数	13	9	8				30
	22		8				
授業科目以外の学修	研究計画発表会		研究成果発表会 公開発表会				

※数字は単位数を表す。

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群
フロンティア医科学学位プログラム(修士課程)履修モデル②

養成する人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・医科学全般の基盤的知識と専門領域の深い学識と研究能力をもって大学等の教育研究機関において医科学分野での研究の推進や新分野の開拓に貢献し得る人材 ・医科学全般の基礎的知識と社会ニーズに合わせた専門領域の知識をもって医療に関係する企業等において研究開発や医療関連業務に携わる人材 ・医科学全般の基礎的知識と専門領域の実践的な知識をもって医療機関等において医療の安全や健康増進に資することができる人材 					
修了後の進路	<ul style="list-style-type: none"> ・博士課程への進学 ・大学、研究所及び公的機関での教育及び研究職 ・製薬、食品、医療機器等を含む企業への就職 ・病院を中心とした医療施設での専門職(医学物理士、放射線治療品質管理士など) 					
指導教員の例	<p>【主】榮 武二(本学位プログラム主担当) 【副】磯辺 智範(本学位プログラム主担当)、櫻井 英幸(本学位プログラム主担当)</p>					
年次・学期	1年次			2年次		単 修 得 数
科目区分	春学期	秋学期		春学期	秋学期	
大学院共通科目	生命倫理学	1				1
基礎科目	人体構造学概論	2		医科学特別演習		8
	インターンシップ I 基礎医科学演習		1 3			14
専門科目	医学物理学詳論 IA	2	医学物理学詳論 IB	2		16
			医学物理学詳論 II	2		
			医学物理学詳論 III	2		
			医学物理学詳論 IV	2		
			医学物理学詳論 V	2		
			放射線医科学特論	2		
	医学物理問題解決型演習	1	医学物理問題解決型実習	1		
修得単位数	6	17		8		31
	23			8		
授業科目以外の学修	研究計画発表会			研究成果発表会 公開発表会		

※数字は単位数を表す。

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群
 フロンティア医科学学位プログラム(修士課程)履修モデル③

養成する人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・医科学全般の基盤的知識と専門領域の深い学識と研究能力をもって大学等の教育研究機関において医科学分野での研究の推進や新分野の開拓に貢献し得る人材 ・医科学全般の基礎的知識と社会ニーズに合わせた専門領域の知識をもって医療に関係する企業等において研究開発や医療関連業務に携わる人材 ・医科学全般の基礎的知識と専門領域の実践的な知識をもって医療機関等において医療の安全や健康増進に資することができる人材 						
修了後の進路	<ul style="list-style-type: none"> ・博士課程への進学 ・大学、研究所及び公的機関での教育及び研究職 ・製薬、食品、医療機器等を含む企業への就職 ・医薬品・医療機器などの臨床開発職(プロジェクトマネージャー、モニター、CRCなど) 						
指導教員の例	【主】橋本 幸一(本学位プログラム主担当) 【副】松阪 諭(本学位プログラム主担当)						
年次・学期	1年次			2年次			単 位 数
科目区分	春学期		秋学期	春学期		秋学期	
大学院共通科目	生命倫理学	1					1
基礎科目	臨床医学概論	2	2	医科学特別演習			8
	社会医学概論	2					20
	研究マネジメント基礎	1					
	医生物統計学概論	1					
	医生物統計学実習	1					
	インターンシップ I		1				
	医科学セミナーⅤ(キャリアパス)		1				
医科学セミナーⅦ(臨床研究セミナー)		1					
医学英語 I	1	医学英語 II	1				
専門基礎科目	人体病理学概論	1	医療経済学	1			2
専門科目	橋渡し研究概論	2	医薬品・医療機器レギュラトリーサイエンス	1			7
	医工学概論	1	臨床薬剤学特論	1			
	Stem cell therapy	1	創薬フロンティア科学	1			
修得単位数	12		10		8		30
	22			8			
授業科目以外の学修	研究計画発表会				研究成果発表会 公開発表会		

※数字は単位数を表す。

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群
公衆衛生学学位プログラム(修士課程) 履修モデル

養成する人材像	保健医療政策立案者、保健・医薬行政実務者、疫学専門家、生物統計専門家、地域医療実務家、医療安全管理専門家、健康教育やヘルスプロモーションの専門家、その他公衆衛生の専門的技術を身に着けた実務家を育成する。						
修了後の進路	これまで働いていた保健医療機関に復職する社会人をはじめ、MPH修得後、他職種から保健医療専門家としてキャリアアップして転職する。さらに専門性を高めるために進学する。						
指導教員の例	【主】我妻ゆき子(本学位プログラム主担当) 【副】福重瑞穂(本学位プログラム主担当)						
科目区分	1年次		2年次		単 位 数	修 得 数	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期			
基礎科目	社会医学概論	2	公衆衛生学特別演習		8	17	
	医生物統計学概論	1					
	疫学概論	1					
	医学英語I	1					
	医生物統計学実習	1					
	量的研究の批判的評価法	1					
	疫学・生物統計学セミナー		2				
専門科目	環境保健学	1	疫学特論	2	環境医学概論	2	14
	精神保健学	1	医生物統計学特論	2	ヘルスサービスリサーチ概論	1	
			保健医療政策学	1			
			医療管理学	1			
			医療経済学	1			
			健康行動科学論	1			
			保健医療政策学	1			
修得単位数	9	11	3	8		31	
	20		11				
授業科目以外の学修					研究成果発表会 公开发表会		

※数字は単位数を表す。

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群
ニューロサイエンス学位プログラム(博士前期課程) 履修モデル(研究)

養成する人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・正常および障害のある脳機能についての基礎知識と解析技術の学術基盤をもとに、基礎・応用研究を推進できる人材 ・神経科学分野の広範な領域の学際的見識をもとに、現代社会が抱える様々なこころや行動の問題の解決に寄与できる人材 ・神経科学の学識を基盤に国内外の社会の現場での複合的問題の解決に応用する能力を持った人材 							
修了後の進路	<ul style="list-style-type: none"> ・ニューロサイエンス学位プログラム博士後期課程への進学 ・心理学、障害科学、生命科学などの隣接諸領域の学位プログラム博士後期課程への進学 							
指導教員の例	<p>【主】松本正幸(本学位プログラム主担当) 【副】新井哲明(フロンティア医科学学位プログラム主担当, 本学位プログラム副担当)</p>							
年次・学期	1年次				2年次			単 位 修 得 数
科目区分	春学期		秋学期		春学期		秋学期	
学術院共通専門基盤科目	心理統計学特講	2						2
基礎科目	キャリアプランセミナー	1						2
	研究倫理	1						
専門基礎科目	神経科学基礎論A	2			基礎科学英語2	(通年)	基礎科学英語2	2
	神経科学基礎論B	2						12
	神経科学基礎論C	2						
	神経科学基礎論D	2						
	基礎科学英語1	(通年)	基礎科学英語1	2				
専門科目	神経科学実験・実習A	1			修士論文研究指導3	2	修士論文研究指導4	2
	神経科学先端セミナー1	(通年)	神経科学先端セミナー1	1	英語ジャーナルクラブ2	(通年)	英語ジャーナルクラブ2	2
	英語ジャーナルクラブ1	(通年)	英語ジャーナルクラブ1	2				14
	修士論文研究指導1	2	修士論文研究指導2	2				
修得単位数	15		7		2		6	30
	22				8			
授業科目以外の学修	修士論文研究構想発表会			修士論文研究資格試験		修士論文最終試験 修士論文最終公開発表会		

※数字は単位数を表す。

※上記に掲げる科目のほか、個々の学生の学修歴等に応じて、大学院共通科目の履修を推奨。

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群
ニューロサイエンス学位プログラム(博士前期課程) 履修モデル(職業)

養成する人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・正常および障害のある脳機能についての基礎知識と解析技術の学術基盤をもとに、基礎・応用研究を推進できる人材 ・神経科学分野の広範な領域の学際的見識をもとに、現代社会が抱える様々なことや行動の問題の解決に寄与できる人材 ・神経科学の学識を基盤に国内外の社会の現場での複合的問題の解決に応用する能力を持った人材 							
修了後の進路	<ul style="list-style-type: none"> ・産官の現場での一般職、専門職 ・国内・外の高等教育機関の教員や障害科学領域の専門職 							
指導教員の例	<p>【主】松本正幸(本学位プログラム主担当) 【副】岡崎慎治(障害科学学位プログラム主担当、本学位プログラム副担当)</p>							
科目区分	1年次		2年次				単 位 修 得 数	
	春学期	秋学期	春学期		秋学期			
学術院共通専門基盤科目		ICT社会イノベーション特論 〔理工情報生命学術院開設〕 心理統計学特講	2 2				4	
基礎科目	キャリアプランセミナー 研究倫理	1 1					2	
専門基礎科目	神経科学基礎論A 神経科学基礎論B 神経科学基礎論C 神経科学基礎論D 基礎科学英語1	2 2 2 2 (通年)		基礎科学英語1	2		12	
専門科目	神経科学実験・実習A 神経科学先端セミナー1 英語ジャーナルクラブ1 修士論文研究指導1	1 (通年) (通年) 2	神経科学先端セミナー1 英語ジャーナルクラブ1 修士論文研究指導2	1 2 2	修士論文研究指導3 実践的神経科学インターンシップ(集中)	2 3	修士論文研究指導4 2	
修得単位数	13		13		5		2	33
	26		7					
授業科目以外の学修			修士論文研究構想発表会		修士論文研究資格試験		修士論文最終試験 修士論文最終公開発表会	

※数字は単位数を表す。

※上記に掲げる科目のほか、個々の学生の学修歴等に応じて、大学院共通科目の履修を推奨。

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群

看護科学学位プログラム(博士前期課程) 研究基礎課程 履修モデル(地域健康・公衆衛生看護学研究グループでの科目選択の1例)

養成する人材像	学際的及び国際的な視点を持ち、確かな倫理観と科学的根拠に基づいて看護を探究し、研究者として研鑽する姿勢を持った人材。 また、看護研究・実践の基礎になる専門知識・技術・実践能力を備えた看護職者及び看護学教育を支える看護学教育者となりうる人材。							
修了後の進路	大学における看護学教育者・看護学研究者、等							
指導教員の例	【主】山海知子(本学位プログラム主担当) 【副】大宮朋子(本学位プログラム主担当)、出口奈緒子(本学位プログラム主担当)							
年次・学期	1年次				2年次			単 位 数
科目区分	春学期		秋学期		春学期		秋学期	
大学院共通科目	研究倫理	1						1
専門基礎科目	看護科学論	2	国際看護学	2				15
	看護学研究法	3						
	保健統計学	2						
	看護コミュニケーション論	2						
	看護教育論	2						
	女性と健康	2						
専門科目	国際保健・公衆衛生看護学特論	2	国際保健・公衆衛生看護学演習	2				8
	家族生活アセスメント学	2						
	家族アセスメント/インターベンション学	2						
専門科目(共通)					インターンシップ(または看護科学特別実習)		2	6
					看護科学特別研究		4	
修得単位数	20		4				6	30
	24				6			
授業科目以外の学修	研究グループでのゼミナール、関連学会・セミナーの参加、TA経験		研究グループでのゼミナール、関連学会・セミナーの参加、TA経験		研究グループでのゼミナール、関連学会・セミナーの参加、TA経験		研究グループでのゼミナール、関連学会・セミナーの参加、TA経験	

※数字は単位数を表す。

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群
看護科学学位プログラム(博士前期課程) 専門看護師養成課程(家族看護) 履修モデル

養成する人材像	学際的及び国際的な視点を持ち、確かな倫理観と科学的根拠に基づいて看護を探究し、研究者として研鑽する姿勢を持った人材。 看護研究・実践の基礎になる専門知識・技術・実践能力を備えた家族支援専門看護師及び家族看護学教育を支える看護学教育者となりうる人材。						
修了後の進路	医療機関における家族支援専門看護師、大学における看護学教育者・看護学研究者 等						
指導教員の例	【主】涌水理恵(本学位プログラム主担当) 【副】小澤典子(本学位プログラム主担当)						
年次・学期					2年次		単 位 得 数
科目区分	春学期		秋学期		春学期		
大学院共通科目	研究倫理	1					1
専門基礎科目	看護科学論	2					14
	看護コンサルテーション論	2					
	看護倫理学	2					
	看護教育論	2					
	フィジカルアセスメント	2					
	病態生理学	2					
	臨床薬理学	2					
専門科目	家族看護学特論	2	家族看護トランスレーショナル・リサーチ 演習	2	家族看護学統合実習		2
	家族生活アセスメント学	2	家族看護実践学	2			22
	家族アセスメント/インターベンション学	2	家族看護学演習	2			
	発達支援看護学特論	2	家族看護学基盤実習	2			
			家族看護学展開実習	4			
専門科目(共通)					看護科学特別実習 看護科学特別研究		2 4
修得単位数	23		12		8		43
	35				8		
授業科目以外の学修	研究グループでのゼミナール、関連学会・セミナーの参加、TA経験		研究グループでのゼミナール、関連学会・セミナーの参加、TA経験		研究グループでのゼミナール、関連学会・セミナーの参加、TA経験		研究グループでのゼミナール、関連学会・セミナーの参加、TA経験

※数字は単位数を表す。

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群
看護科学学位プログラム(博士前期課程) 専門看護師養成課程(がん看護) 履修モデル

養成する人材像	学際的及び国際的な視点を持ち、確かな倫理観と科学的根拠に基づいて看護を探究し、研究者として研鑽する姿勢を持った人材。 看護研究・実践の基礎になる専門知識・技術・実践能力を備えたがん看護専門看護師及びがん看護学教育を支える看護学教育者となりうる人材。								
修了後の進路	医療機関におけるがん看護専門看護師、大学における看護学教育者・看護学研究者 等								
指導教員の例	【主】水野道代(本学位プログラム主担当) 【副】山下美智代(本学位プログラム主担当)、牟田理恵子(本学位プログラム主担当)								
年次・学期 科目区分	1年次				2年次				単 位 修 得 数
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		
大学院共通科目	研究倫理	1							1
専門基礎科目	看護科学論	2							14
	看護コンサルテーション論	2							
	看護倫理学	2							
	看護教育論	2							
	フィジカルアセスメント	2							
	病態生理学 臨床薬理学	2 2							
専門科目	がん看護学特論Ⅰ	2	がん看護学特論Ⅱ	2	がん看護学実習Ⅱ	4			22
	基礎腫瘍学特論	1	がん看護学特論Ⅲ	2	がん看護学実習Ⅲ	2			
	臨床腫瘍学特論	1	緩和ケア特論	2					
			がん看護学演習Ⅰ	2					
			がん看護学演習Ⅱ	2					
			がん看護学実習Ⅰ	2					
専門科目(共通)					看護科学特別実習		2		6
					看護科学特別研究		4		
修得単位数	19		12		6		6		43
	31				12				
授業科目以外の学修	研究グループでのゼミナール、関連学会・セミナーの参加、TA経験		研究グループでのゼミナール、関連学会・セミナーの参加、TA経験		研究グループでのゼミナール、関連学会・セミナーの参加、TA経験		研究グループでのゼミナール、関連学会・セミナーの参加、TA経験		

※数字は単位数を表す。

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群
看護科学学位プログラム(博士前期課程) 専門看護師養成課程(精神看護) 履修モデル

養成する人材像	学際的及び国際的な視点を持ち、確かな倫理観と科学的根拠に基づいて看護を探究し、研究者として研鑽する姿勢を持った人材。 看護研究・実践の基礎になる専門知識・技術・実践能力を備えた精神看護専門看護師及び精神看護学教育を支える看護学教育者となりうる人材。								
修了後の進路	医療機関における精神看護専門看護師、大学における看護学教育者・看護学研究者 等								
指導教員の例	【主】森千鶴(本学位プログラム主担当) 【副】菅谷智一(本学位プログラム主担当)								
年次・学期 科目区分	1年次				2年次				単 位 修 得 数
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		
大学院共通科目	研究倫理	1							1
専門基礎科目	看護科学論	2							14
	看護コンサルテーション論	2							
	看護倫理学	2							
	看護教育論	2							
	フィジカルアセスメント	2							
	病態生理学	2							
	臨床薬理学	2							
専門科目	精神保健看護学特論	2	精神保健看護学演習	2	精神看護学実習Ⅱ	4			22
	精神看護学特論Ⅰ	2	精神看護学特論Ⅱ	2					
			精神看護学特論Ⅲ	2					
			精神看護学演習Ⅰ	2					
			精神看護学演習Ⅱ	2					
			精神看護学実習Ⅰ	4					
専門科目(共通)					看護科学特別実習		2	6	
					看護科学特別研究		4		
修得単位数	19		14		4			43	
	33				4				
授業科目以外の学修	研究グループでのゼミナール、関連学会・セミナーの参加、TA経験	研究グループでのゼミナール、関連学会・セミナーの参加、TA経験	研究グループでのゼミナール、関連学会・セミナーの参加、TA経験	研究グループでのゼミナール、関連学会・セミナーの参加、TA経験	研究グループでのゼミナール、関連学会・セミナーの参加、TA経験	研究グループでのゼミナール、関連学会・セミナーの参加、TA経験	研究グループでのゼミナール、関連学会・セミナーの参加、TA経験		

※数字は単位数を表す。

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群
看護科学学位プログラム(博士前期課程) 専門看護師養成課程(慢性看護) 履修モデル

養成する人材像	学際的及び国際的な視点を持ち、確かな倫理観と科学的根拠に基づいて看護を探究し、研究者として研鑽する姿勢を持った人材。 看護研究・実践の基礎になる専門知識・技術・実践能力を備えた慢性疾患看護専門看護師及び慢性看護学教育を支える看護学教育者となりうる人材。								
修了後の進路	医療機関における慢性疾患看護専門看護師、大学における看護学教育者・看護学研究者 等								
指導教員の例	【主】日高紀久江(本学位プログラム担当) 【副】浅野美礼(本学位プログラム担当)、柴山大賀(本学位プログラム担当)、阿部吉樹(本学位プログラム担当)、萩野谷浩美(本学位プログラム担当)								
科目区分	1年次				2年次				単 位 修 得 数
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		
大学院共通科目	研究倫理	1							1
専門基礎科目	看護科学論	2							14
	看護コンサルテーション論	2							
	看護倫理学	2							
	看護教育論	2							
	フィジカルアセスメント	2							
	病態生理学 臨床薬理学	2 2							
専門科目	慢性看護学特論Ⅰ	2	慢性看護学特論Ⅱ	2	慢性看護学演習Ⅳ	2			22
	慢性看護学演習Ⅰ	2	慢性看護学演習Ⅱ	2	慢性看護学実習Ⅰ		4		
	慢性看護学特論Ⅲ	2	慢性看護学特論Ⅳ	2	慢性看護学実習Ⅱ		4		
専門科目(共通)					看護科学特別実習		2		6
					看護科学特別研究		4		
修得単位数	21		6		2		8		43
	27				10				
授業科目以外の学修	研究グループでのゼミナール、関連学会・セミナーの参加、TA経験		研究グループでのゼミナール、関連学会・セミナーの参加、TA経験		研究グループでのゼミナール、関連学会・セミナーの参加、TA経験		研究グループでのゼミナール、関連学会・セミナーの参加、TA経験		

※数字は単位数を表す。

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群
看護科学学位プログラム(博士前期課程) 助産師養成課程 履修モデル

養成する人材像	学際的及び国際的な視点を持ち、確かな倫理観と科学的根拠に基づいて看護を探究し、研究者として研鑽する姿勢を持った人材。 看護研究・実践の基礎になる専門知識・技術・実践能力を備えた助産師及び助産学教育を支える助産学教育者となりうる人材。							
修了後の進路	助産師、大学における看護学教育者・看護学研究者等							
指導教員の例	【主】岡山久代(本学位プログラム主担当) 【副】川野亜津子(本学位プログラム主担当)、金澤悠喜(本学位プログラム主担当)							
年次・学期	1年次				2年次		単 位 数	
科目区分	春学期		秋学期		春学期			秋学期
大学院共通科目	研究倫理	1					1	
専門基礎科目	看護科学論	2	国際看護学	2			20	
	看護コミュニケーション論	2						
	看護学研究法	3						
	保健統計学	2						
	看護教育学	2						
	地域母子保健論	1						
	女性と健康	2						
	女性の精神保健学	1						
	生殖生命倫理学	2						
	周産期のフィジカルアセスメント	1						
専門科目	ウイメンズヘルス看護学特論	2	ウイメンズヘルス看護学演習Ⅱ	2	ウイメンズヘルス看護学演習Ⅳ	3	33	
	ウイメンズヘルス看護学演習Ⅰ	2	ウイメンズヘルス看護学演習Ⅲ	3	助産学特論Ⅲ	1		
	助産学特論Ⅰ	2	助産学実習Ⅰ	8	助産学演習Ⅲ	1		
	助産学演習Ⅰ	2			助産学実習Ⅱ			3
	助産学特論Ⅱ	2						
	助産学演習Ⅱ	2						
専門科目(共通)					看護科学特別実習 看護科学特別研究		2 4	
修得単位数	31		15		5		9	
	46				14		60	
授業科目以外の学修	研究グループでのゼミナール、関連学会・セミナーへの参加、TA経験、産婦人科・新生児科領域の講義の聴講	研究グループでのゼミナール、関連学会・セミナーへの参加、TA経験	研究グループでのゼミナールや実践指導補助、関連学会・セミナーへの参加、TA経験	研究グループでのゼミナールや実践指導補助、関連学会・セミナーへの参加、TA経験	研究グループでのゼミナールや実践指導補助、関連学会・セミナーへの参加、TA経験	研究グループでのゼミナールや実践指導補助、関連学会・セミナーへの参加、TA経験		

※数字は単位数を表す。

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群
 体育学学位プログラム(博士前期課程) 履修モデル(スポーツ文化・経営政策)

養成する人材像	運動文化と社会環境、体育・身体活動・スポーツに関する教育、そして身体と運動のメカニズムについて、現場で生じた問題に対して、専門領域の洞察力と総合的な視野を持ちリーダーシップを発揮しながら解決する高度専門職業人。基盤となる科学研究の深化に向け、研究者の基礎を身に付けた人材。						
修了後の進路	教員、博士後期課程進学、公的機関・財団法人・社団法人、スポーツ・健康関連企業						
指導教員の例	【主】齋藤 健司(本学位プログラム主担当) 【副】成瀬 和弥(本学位プログラム主担当)						
科目区分	1年次		2年次				単 位 得 数
	春学期	秋学期	春学期	秋学期			
専門科目 領域科目	スポーツ政策学演習I スポーツ法学演習	(通年) スポーツ政策学演習I (通年) スポーツ法学演習	3 2	スポーツ政策学演習II (通年) スポーツ政策学演習II	3		8
専門基礎科目 系列科目	身体文化論 スポーツ行政学 スポーツを通じた開発論 スポーツ文化・経営政策共通実習 スポーツ経営学 スポーツ産業学 スポーツ社会学 スポーツ政策学	1 1 1 (通年) スポーツ文化・経営政策共通実習 1 1 (通年) スポーツ社会学 1 1 1	フェアプレイ論 スポーツ法学 スポーツビジネス論 1 1 1 1 1	スポーツ文化・経営政策インターンシップ春 1			20
研究基礎科目	研究倫理*	1	体育・スポーツ学分野研究方法論	1	つくばサマーインスティテュート	2	
基礎科目 関連系列科目							
学術院共通専門基礎科目	武道学	1					2
大学院共通科目	21世紀と宗教	1					
修得単位数	9		15		3		30
	24		6				
授業科目以外の学修	課外活動等コーチ経験 地域スポーツ教室等指導経験		課外活動等コーチ経験 地域スポーツ教室等指導経験		TA経験 中間報告会 学会発表		修士論文作成 修士論文審査

※数字は単位数を表す。

*は大学院共通科目としても位置づけられる科目を表す。

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群
 体育学学位プログラム(博士前期課程) 履修モデル(健康・スポーツ教育系列)

養成する人材像	運動文化と社会環境、体育・身体活動・スポーツに関する教育、そして身体と運動のメカニズムについて、現場で生じた問題に対して、専門領域の洞察力と総合的な視野を持ちリーダーシップを発揮しながら解決する高度専門職業人。基盤となる科学研究の深化に向け、研究者の基礎を身に付けた人材。								
修了後の進路	教員、博士後期課程進学、公的機関・財団法人・社団法人、スポーツ・健康関連企業								
指導教員の例	【主】清水 紀宏(本学位プログラム主担当) 【副】長谷川 悦示(本学位プログラム主担当)								
科目区分	年次・学期	1年次			2年次			単 位 修 得 数	
		春学期		秋学期	春学期		秋学期		
専門科目 領域科目		体育科教育学演習I 体育授業観察分析演習	(通年) 2	体育科教育学演習I	3	体育科教育学演習II (通年)	体育科教育学演習II	3	8
専門基礎科I系列科目		武道授業指導論 学校健康教育論 野外教育指導論 野外教育プログラム論 スポーツ心理学 野外教育実習(キャンプ) スポーツカウンセリング論	1 1 1 1 1 (通年) 1	保健社会学 学校体育経営論 保健教材論 体育授業観察分析法I 体育授業観察分析法II 野外教育実習(キャンプ) 体育科学習指導論 アダプテッド・スポーツ教育論	1 1 1 1 1 1 1 1	健康・スポーツ教育インターンシップ春 (通年)	1		19
研究基礎科目		研究倫理*	1	体育・スポーツ学分野研究方法論	1	つくばサマーインスティテウト	2		
基礎科目 関連系列科目		体力学特講	1						
学術院共通専門基礎科目		トレーニング学	(通年) 1	トレーニング学	2				4
大学院共通科目		脳の多様性とセルフマネジメント	1						
修得単位数		11		14		3		3	31
		25		6					
授業科目以外の学修		課外活動等コーチ経験 地域スポーツ教室等指導経験		課外活動等コーチ経験 地域スポーツ教室等指導経験		TA経験 中間報告会 学会発表		修士論文作成 修士論文審査	

*数字は単位数を表す。

*は大学院共通科目としても位置づけられる科目を表す。

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群
 体育学学位プログラム(博士前期課程) 履修モデル(ヘルスフィットネス系列)

養成する人材像	運動文化と社会環境、体育・身体活動・スポーツに関する教育、そして身体と運動のメカニズムについて、現場で生じた問題に対して、専門領域の洞察力と総合的な視野を持ちリーダーシップを発揮しながら解決する高度専門職業人。基盤となる科学研究の深化に向け、研究者の基礎を身に付けた人材。						
修了後の進路	教員、博士後期課程進学、公的機関・財団法人・社団法人、スポーツ・健康関連企業						
指導教員の例	【主】木塚 朝博(本学位プログラム主担当) 【副】榎本 靖士(本学位プログラム主担当)						
年次・学期	1年次			2年次			単 修 得 単 位 数
科目区分	春学期		秋学期	春学期		秋学期	
専門科目 領域科目	体力学演習I (通年)	体力学演習I	3	体力学演習II (通年)	体力学演習II	3	6
専門基礎科I系列科目	体力学実習 (通年)	体力学実習	2	ヘルスフィットネスインターンシップ春	1		19
	1 体育測定評価学特講(発育発達学を含む)	1 基礎ヘルスフィットネス演習	1				
	1 健康増進学特講	1 ヘルスフィットネス橋渡し研究概論	1				
	1 体力学特講	1 スポーツ栄養学特講	1				
	1 スポーツ生理学特講	1 スポーツ生化学特講	1				
研究基礎科目	研究倫理*	1 体育・スポーツ学分野研究方法論	1	つくばサマーインスティテュート	2		
	健康・スポーツ科学のための統計学	2					
基礎科目 関連系列科目	アスレティックリハビリテーション論特講	2	アスレティックコンディショニング論特講	2			7
学術院共通専門基盤科目	トレーニング学 (通年)	トレーニング学	2				
大学院共通科目	脳の多様性とセルフマネジメント	1					
修得単位数	10		16	3		3	32
	26			6			
授業科目以外の学修	課外活動等コーチ経験 地域スポーツ教室等指導経験		課外活動等コーチ経験 地域スポーツ教室等指導経験	TA経験 中間報告会 学会発表		修士論文作成 修士論文審査	

※数字は単位数を表す。

*は大学院共通科目としても位置づけられる科目を表す。

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群
 体育学学位プログラム(博士前期課程) 履修モデル(アスレティックコンディショニング系列)

養成する人材像	運動文化と社会環境、体育・身体活動・スポーツに関する教育、そして身体と運動のメカニズムについて、現場で生じた問題に対して、専門領域の洞察力と総合的な視野を持ちリーダーシップを発揮しながら解決する高度専門職業人。基盤となる科学研究の深化に向け、研究者の基礎を身に付けた人材。								
修了後の進路	教員、博士後期課程進学、公的機関・財団法人・社団法人、スポーツ・健康関連企業								
指導教員の例	【主】白木 仁(本学位プログラム主担当)								
年次・学期	1年次			2年次			単 修 得 単 位 数		
科目区分	春学期		秋学期	春学期		秋学期			
専門科目 領域科目	外科系スポーツ医学演習I スポーツ医学基礎論特講II	(通年) 1	外科系スポーツ医学演習I	3	外科系スポーツ医学演習II (通年)	外科系スポーツ医学演習II	3	7	
専門基礎科I系列科目	アスレティックリハビリテーション論特講 運動器のしくみと働き(基礎編) スポーツ用具と動きのしくみ スポーツ医学基礎論実習II	2 1 1 (通年) 1	アスレティックコンディショニング論特講 アスレティックトレーナー特講 テーピング・マッサージ実習 スポーツ医学基礎論実習II	2 1 2 2	アスレティックコンディショニング論演習 (通年) アスレティックリハビリテーション論演習 (通年) アスレティックコンディショニング論実習 (通年) アスレティックリハビリテーション論実習 (通年)	アスレティックコンディショニング論演習 アスレティックリハビリテーション論演習 アスレティックコンディショニング論実習 アスレティックリハビリテーション論実習	3 3 2 2	29	
研究基礎科目			スポーツ内科学特講 アスレティックトレーナー演習 アスレティックコンディショニングインターンシップ秋	2 1 1		運動器のしくみと働き(応用編) スポーツバイオメカニクス特講 女性スポーツ医学論特講	1 1 1		
基礎科目 関連系列科目	スポーツ心理学 スポーツ運動学 スポーツ生理学特講 体力学特講 スポーツカウンセリング論	1 1 1 1 1	スポーツ栄養学特講 コーチングのバイオメカニクス スポーツ生化学特講	1 1 1					10
学術院共通専門基盤科目	トレーニング学	(通年) 1	トレーニング学	2					
大学院共通科目									
修得単位数	10		20		16		46		
	30			16					
授業科目以外の学修	課外活動等コーチ経験 地域スポーツ教室等指導経験		トレーナークリニック現場実習 学会発表		TA経験 中間報告会 トレーナークリニック現場実習 JSPO公認アスレティックトレーナー理論試験		修士論文作成 修士論文審査 JSPO公認アスレティックトレーナー実技試験		

※数字は単位数を表す。

*は大学院共通科目としても位置づけられる科目を表す。

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群
 体育学学位プログラム(博士前期課程) 履修モデル(コーチング系列)

養成する人材像	運動文化と社会環境、体育・身体活動・スポーツに関する教育、そして身体と運動のメカニズムについて、現場で生じた問題に対して、専門領域の洞察力と総合的な視野を持ちリーダーシップを発揮しながら解決する高度専門職業人。基盤となる科学研究の深化に向け、研究者の基礎を身に付けた人材。								
修了後の進路	教員、博士後期課程進学、プロアスリート、公的機関・財団法人・社団法人、スポーツ・健康関連企業								
指導教員の例	【主】渡辺良夫(本学位プログラム主担当) 【副】金谷麻理子(本学位プログラム主担当)								
年次・学期	1年次				2年次				単 位 修 得 数
科目区分	春学期		秋学期		春学期		秋学期		
専門科目 領域科目	体操競技コーチング論演習I	(通年)	体操競技コーチング論演習I	3	体操競技コーチング論演習II	(通年)	体操競技コーチング論演習II	3	6
専門基礎科I系列科目	トレーニング学	(通年)	トレーニング学	2	コーチングインターンシップ春	1			19
	スポーツ運動学	1	コーチング論(事例討議)	1					
	舞踊上演マネジメント論	1	武道文化論	1					
	陸上競技コーチング総合演習	1	身体技法論	1					
	体操コーチング総合演習	1	スポーツ情報戦略論	1					
			競技マネジメント論	1					
			体操競技コーチング総合演習	1					
研究基礎科目	研究倫理*	1			健康・スポーツ科学のための統計学	2			
	コーチング学分野研究方法論	1			つくばサマーインスティテュート	2			
基礎科目 系列関連科目	スポーツ生理学特講	1	フェアプレイ論	1					5
	スポーツ用具と動きのしくみ	1							
学術院共通専門基礎科目	健康増進学特講	1							
大学院共通科目	大学院体育Ib	1							
修得単位数	10		12		5		3		30
	22				8				
授業科目以外の学修	課外活動等コーチ経験 地域スポーツ教室等指導経験		課外活動等コーチ経験 地域スポーツ教室等指導経験		TA経験 中間報告会 学会発表		修士論文作成 修士論文審査		

※数字は単位数を表す。

*は大学院共通科目としても位置づけられる科目を表す。

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群
 体育学学位プログラム(博士前期課程) 履修モデル(ナショナルリーディングコーチ系列)

養成する人材像	運動文化と社会環境、体育・身体活動・スポーツに関する教育、そして身体と運動のメカニズムについて、現場で生じた問題に対して、専門領域の洞察力と総合的な視野を持ちリーダーシップを発揮しながら解決する高度専門職業人。基盤となる科学研究の深化に向け、研究者の基礎を身に付けた人材。								
修了後の進路	コーチ、プロアスリート、公的機関・財団法人・社団法人、スポーツ・健康関連企業								
指導教員の例	【主】中山 雅雄(本学位プログラム主担当)								
科目区分	1年次				2年次				単 位 数
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		
専門科目 領域科目	コーチング特別課題研究I(設計)	(通年)	コーチング特別課題研究I(設計)	3	コーチング特別課題研究II(展開とまとめ)	(通年)	コーチング特別課題研究II(展開とまとめ)	3	6
専門基礎科I系列科目	トレーニング学	(通年)	トレーニング学	2	プログラム特別インターンシップ春	3			20
	スポーツ運動学	1	コーチング論(事例討議)	1					
	舞踊上演マネジメント論	1	武道文化論	1					
	サッカーコーチング総合演習	1	身体技法論	1					
	日本文化論(宗教,思想,古典芸能など)	(通年)	日本文化論(宗教,思想,古典芸能など)	1					
研究基礎科目	研究倫理*	1			健康・スポーツ科学のための統計学	2			5
	コーチング学分野研究方法論	1			つくばサマーインスティテュート	2			
基礎科目 系列関連科目	スポーツ生理学特講	1	フェアプレイ論	1					5
	スポーツ用具と動きのしくみ	1							
学術院共通専門基盤 大学院共通科目	健康増進学特講	1							
	大学院体育Ib	1							
修得単位数	9		12		7		3		31
	21				10				
授業科目以外の学修	課外活動等コーチ経験 地域スポーツ教室等指導経験		課外活動等コーチ経験 地域スポーツ教室等指導経験		TA経験 中間報告会 学会発表		修士論文作成 修士論文審査		

※数字は単位数を表す。

*は大学院共通科目としても位置づけられる科目を表す。

人間総合科学研究科
スポーツ・オリンピック学学位プログラム(博士前期課程) 履修モデル

養成する人材像	・21世紀のスポーツ界で必要とされる先端的な知識を総合的に学び、高いマネジメント能力を活かして、社会におけるスポーツの価値を創造し、世界各地でリーダーシップを発揮できる人材 ・IOC、IPC、JOC、JPC、JSC、JADAなどと連携し、スポーツのインテグリティを踏まえたオリンピック・パラリンピック教育と最先端のスポーツ科学を学び、それぞれの現場に応用できるマネジメント力を習得した人材								
修了後の進路	各国スポーツ庁、各国オリンピック委員会・パラリンピック委員会、IOCやIPC、国際競技連盟などのスポーツ組織や大会組織委員会、グローバルスポーツ関連企業など								
指導教員の例	例1:【主】Rakwal Randeep(本学位プログラム主担当)、【副】小野誠治(体育学学位プログラム主担当、本学位プログラム副担当) 例2:【主】大石純子(本学位プログラム主担当)、【副】仙石泰雄(体育学学位プログラム主担当、本学位プログラム副担当)								
年次・学期	1年次				2年次		単 位 数	修 得	
科目区分	秋学期		春学期		秋学期				春学期
専門基礎科目	Olympic Movement Studies(オリンピックムーブメント論)	1	International Sport Event Management(国際スポーツイベントマネジメント論)	1					11
	Anti-Doping(アンチ・ドーピング)	1	Olympic and Paralympic Education(オリンピック・パラリンピック教育)	1					
	Japanese Culture(日本文化)	1	Sport and Diversity(スポーツとダイバーシティ)	1					
	Research Project Management(研究プロジェクトマネジメント)	2	Cross-Cultural Communication(異文化コミュニケーション)	1					
	Olympic Movement and Sport Law(オリンピックムーブメントとスポーツ)	1	Taiku(Physical Education)(体育)	1					
専門科目	Olympic and Paralympic History(オリンピック・パラリンピック史)*	1	TIAS Internship B(TIASインターンシップ B)	4	TIAS Research Project(TIAS課題研究)	4			21
	Seminar in Olympic and Paralympic Education I(オリンピック・パラリンピック教育演習 I)	2	Seminar in Olympic and Paralympic Education II(オリンピック・パラリンピック教育演習 II)	2					
	Olympism and Legacy(オリンピズムとレガシー)	1	Sport Technology and Biomechanics(スポーツ工学とバイオ)	1					
	Sport Organisation and Governance(スポーツ組織とガバナンス)	1	Sport Medicine(スポーツ医学)	1					
	International Sport Marketing(国際スポーツマーケティング)	1	Exercise Physiology and Human Performance(運動生理学とヒューマンパフォーマンス)	1					
			Elite Sport Coaching(エリートスポーツコーチング論)	1					
			Budo(武道)	1					
修得単位数	12		16		4				32
	28				4				
授業科目以外の学修	修士論文作成、中間報告会、最終審査会								

※数字は単位数を表す。 *は学術院共通専門基礎科目としても位置づけられる科目を表す。

※上記に掲げる科目のほか、個々の学生の学修歴等に応じて大学院共通科目や学術院共通専門基礎科目の履修を推奨。

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群
 スポーツウエルネス学学位プログラム(博士前期課程)スポーツプロモーション領域 履修モデル

養成する人材像	スポーツ団体、行政、企業等の専門家集団の中でリーダーシップを発揮しスポーツ・ウエルネスの一層の発展に寄与する人材								
修了後の進路	競技団体、国立センター、地方自治体、教員、スポーツ・ウエルネス関連企業、博士後期課程への進学等								
指導教員の例	【主】菊 幸一(本学位プログラム主担当) 【副】高橋 義雄(本学位プログラム主担当)、尾縣 貢(本学位プログラム主担当)								
年次・学期 科目区分	1年次				2年次				単 位 修 得 数
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		
専門科目(必修)	スポーツ・ヘルスポモーション論概論 スポーツ・ヘルスポモーション方法論	2 1			スポーツ健康研究方法論I	1			4
専門科目(選択)	スポーツプロモーション論特講 スポーツプロモーション論演習1 スポーツプロモーション論実習 高度競技マネジメント論実習 健康開発プログラム論特講	2 1 通年 通年 2	スポーツプロモーション論演習2 スポーツイベント論特講 スポーツプロモーション論実習 高度競技マネジメント論実習 ストレスマネジメントシステム論特講	2 2 1 1 2	スポーツマネジメント論特講	2	スポーツ健康研究方法論II スポーツプロモーション研究方法論IV	1 2	18
専門科目(関連)	生涯スポーツのトータルマネジメント スポーツ健康統計学特講 健康社会論 スポーツプロモーション法制論特講	1 1 1 1	トップアスリートのトレーニング トップコーチング	1 1	健康増進基礎論特講 健康支援の理論と実践	1 1			8
修得単位数	12		10		5		3		30
	22				8				
授業科目以外の学修	「学会や研修会への参加」		「達成度自己点検」、「学会や研修会への参加」、「学会発表」		「達成度自己点検」、「学会や研修会への参加」、「学会発表」		「学会発表」、「修士論文作成」		

※数字は単位数を表す。

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群
 スポーツウエルネス学学位プログラム(博士前期課程)ヘルスプロモーション領域 履修モデル

養成する人材像	スポーツ団体、行政、企業等の専門家集団の中でリーダーシップを発揮しスポーツ・ウエルネスの一層の発展に寄与する人材								
修了後の進路	競技団体、国立センター、地方自治体、教員、スポーツ・ウエルネス関連企業、博士後期課程への進学等								
指導教員の例	【主】久野 譜也(本学位プログラム主担当) 【副】柴田 愛(本学位プログラム主担当)、水上 勝義(本学位プログラム主担当)								
年次・学期	1年次				2年次				単 位 修 得 数
科目区分	春学期		秋学期		春学期		秋学期		
専門科目(必修)	スポーツ・ヘルスプロモーション論概論	2			スポーツ健康研究方法論I	1			4
	スポーツ・ヘルスプロモーション方法論	1							
専門科目(選択)	ヘルスプロモーション論特講	2	ヘルスプロモーション論演習2	2	スポーツプロモーション論特講	2	スポーツ健康研究方法論II	1	17
	ヘルスプロモーション論実習	通年	ヘルスプロモーション論実習	1			ヘルスプロモーション研究方法論IV	2	
	ヘルスプロモーション論演習1	1	スポーツイベント論特講	2					
	健康開発プログラム論特講	2	ストレスマネジメントシステム論特講	2					
専門科目(関連)	スポーツ健康統計学特講	1	生活機能増進法論特講	1	スポーツプロモーション法制論特講	1			9
	健康増進基礎論特講	1	ヒューマン・ケア科学概論	1	生涯スポーツのトータルマネジメント	1			
	健康社会論	1	トップアスリートのトレーニング	1					
	健康支援の理論と実践	1							
修得単位数	12		10		5		3		30
	22				8				
授業科目以外の学修	「学会や研修会への参加」		「達成度自己点検」、「学会や研修会への参加」、「学会発表」		「達成度自己点検」、「学会や研修会への参加」、「学会発表」		「学会発表」、「修士論文作成」		

※数字は単位数を表す。